

Passo a Passo



Devoted to the Development of Socio-Intelligence

SENSHU UNIVERSITY

平成27年度 専修大学 資格課程年報『パッソアパッソ』

教 職 課 程

司書教諭課程

司 書 課 程

学 芸 員 課 程

vol.18

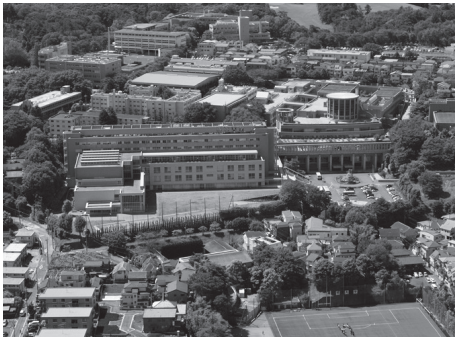
専修大学21世紀ビジョン 「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」

社会知性 (Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、
地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力
専修大学が創り育てる“知”

専修大学は、2009年、創立130年を迎えました。

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉学する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を、現代的に捉え直し、「**社会知性 (Socio-Intelligence) の開発**」を21世紀ビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。



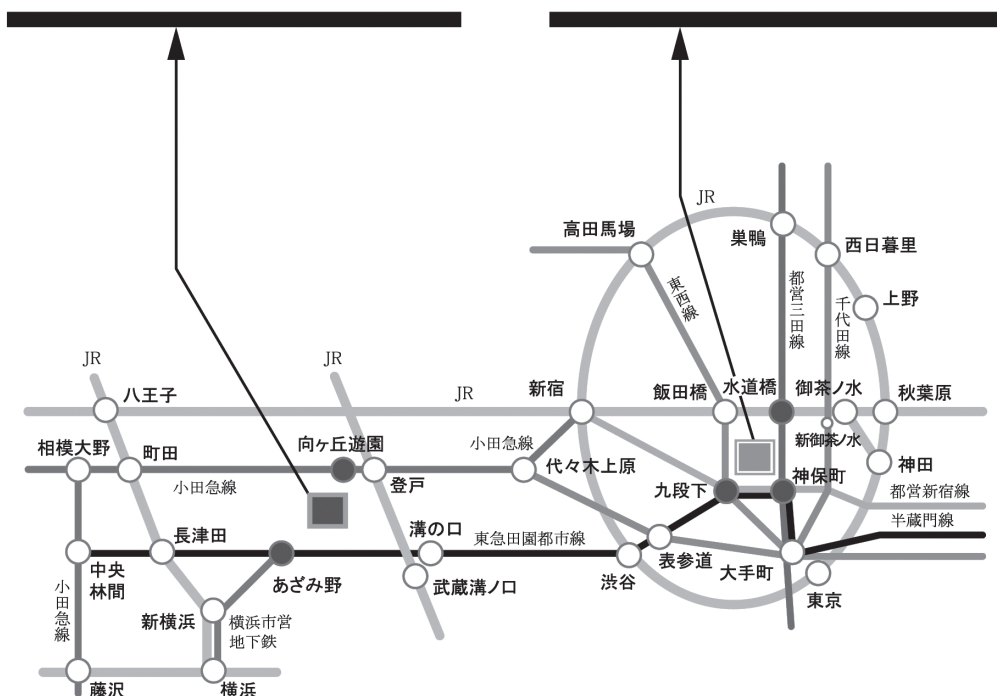
生田キャンパス

- 小田急線
向ヶ丘遊園駅（新宿から急行で約20分）
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄
あざみ野駅よりバス約35分
直通バス（学生専用）約20分



神田キャンパス

- JR 水道橋駅西口より徒歩7分
- 地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線
九段下駅「5」出口より徒歩3分
- 地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



愚直と教職の魅力

教職課程協議会委員長 商学部 教授 中野 育男

大学における教育指導は、学生が立派な大人に成長してもらうためのものである。そのために学問研究の指導だけでなく、様々な機会に適時かつ迅速に教育指導を行い、学生の人格の発達を促す。試験における不正行為の発覚も教育指導の重要な場面である。懲戒処分といった責任の追及だけに止まるものではない。

不正行為は、事案としてはシンプルであるが、教職を目指す学生にとって、深刻な問題がある。事前に周到な計画を立て準備を行い本番で実行する。これは単なる出来心ではない。不正であることをよく承知の上で敢えて実行するのである。このような行為は担当教員、試験監督者、他の受験生に対する背信、裏切りである。成績評価だけでなく、奨学金、推薦などでも不当な利得を得る可能性があり、その分、他の者に損失をもたらすことになる。不正行為の発覚により、本人に対する信用や信頼が大きく損なわれるが、その回復は非常に大変である。正直や誠実といった評価を取り戻すには、その後の地道な努力の積み重ねが必要になる。

教職に求められる資質というものを、教育実習の観点から考えてみよう。教育実習の現場では学生も生徒からは先生と呼ばれる。教科指導、生徒指導などの他、給食、清掃、ホームルーム、部活動などでも生徒達と交流し、その指導にあたる。このような人格と人格の接触を通じて、生徒達は実習生の人間性に感化され、その人格を高めて行く。

生徒の人格面の成長に大きな影響を与える

ことになる教師には、実習生も含めて、普通よりも高い水準の人格の高潔さが求められる。誠実や正直といった資質が、健康や学力とともに特に



重視される。教師の狡さや嘘は、生徒の人格の発達にとって大きな妨げとなる。それどころか悪影響をもたらす。

正直や誠実さを軽く見る風潮が世間には散見されるが、教師には愚直なまでの正直と誠実さが必要である。そのために教師に対しては、身分保障と経済的な安定のための措置がなされており、安んじて誠実、正直といった生き方を追求できるようになっている。そこが教職の魅力でもある。

教育実習は、学生の申請により学長が許可し、健康や学力、人物など適性を保証して実習校の校長に依頼し、その承諾を得て行われる。学外の機関の協力の下に実施されることから、実習中の不祥事の発生は実習校との信頼関係を損ない、大学の信用を失墜させることになる。そのため事前に十分な指導を行った上で実施している。

教職を希望する学生の定期試験における不正行為は、誰もが当然と考える道理や常識に照らしても、教育実習先で求められる正直とか誠実といった、実習生、教師に必須の基本的な資質を欠いていると判断される。教職を志望する学生は、愚直という言葉の肝に銘じてほしい。

Passo a Passo

表題はイタリア語で「パッソ・ア・パッソ」と読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

目次

体験のｽｰﾒ

専修大学教職課程協議会教職相談員（元商学部 兼任講師）岩田 公夫 ……	6
-------------------------------------	---

教職課程

卒業生から ……	10
教員採用試験体験記 ……	14
教育実習を終えて ……	19
中学校社会科 歴史的分野の授業の在り方について 商学部 兼任講師 齋藤 博志 ……	26
学校における教育課程の編成・実践研究者として歩む 商学部 兼任講師 松岡 路秀 ……	29
介護等の体験を終えて ……	33
専修大学教育学会に出席して ……	34
教職総仕上げ「教職実践演習」 ……	35
教科研修生体験レポート ……	36
多摩区・3大学連携事業「学校教育ボランティア」体験レポート ……	37
専修大学附属高等学校から 私立専修大学附属高等学校 教諭 飯泉 貴之 ……	38

司書・司書教諭課程

「図書館情報技術論」神田校舎の授業によるこそ 経営学部 兼任講師 廣澤 敏夫 ……	40
図書館実習を終えて ……	42
卒業生から ……	43

学芸員課程

博物館実習を終えて ……	46
--------------	----

データ編（平成27年度）

教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修者数 ……	52
教育職員免許状取得件数 ……	53
司書・司書教諭・学芸員資格単位取得者数 ……	53
教育実習先一覧 ……	54
図書館実習・博物館実習先一覧 ……	57
主な就職先一覧（教職・司書・司書教諭、学芸員） ……	58
資格課程年間行事表 ……	63
教職公開講座開催結果 ……	64
司書課程就職（進路）懇談会・司書課程図書館実習報告会開催結果 ……	65
資格課程教員紹介 ……	66
編集後記	

■4つの資格課程

教職課程 … 中・高等学校の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者が教育職員免許状を取得するためのものであり、教員を養成することを目的としています。加えて、平成10年より「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(介護等の体験法)が施行され、中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする者には、介護等体験が義務付けられています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得(取得見込)した上で都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

<本学で取得可能な免許状>

学 部	学 科	種 類 ・ 教 科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	地理歴史、公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本語学科	国語	国語
	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
	人文・ジャーナリズム学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民

※「教員免許更新制」

平成21年4月の新免許法の施行に伴い、免許状には最長10年間の有効期間が設けられ、免許状を失効させないためには、10年毎に免許状更新講習を受講して、免許状の更新を行うことが義務付けられました。講習を受講しなかった場合や受講後の更新手続きをしなかった場合は、免許状が失効することになります。これが教員免許更新制です。受講資格は、現職教員の他、教壇に立つ予定にある者のみが持ちます。

司書教諭課程 … 学校図書館の専門職

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な仕事に携わる教員のことです。司書教諭は教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、児童・生徒に対して図書館利用や読書に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は教育職員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する者は教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

2003年度からは12学級以上の規模の学校には必ず司書教諭を配置することになりました。そのため、教育の現場では司書教諭有資格者のニーズが高まっています。

司書課程 … 公共・大学図書館等の専門職

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書館・資料室などで、資料(図書、雑誌、DVD等)を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職のことです。

司書の資格を取得するには、司書課程を履修する必要があります。

司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、急速に普及している電子メディア(インターネットなど)の活用法、出版流通の仕組み、子どもや障害のある人に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

生涯学習社会・高度情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熱意と素養のある人材が求められています。

学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。また学芸員の資格を活かし、博物館をサポートする職種につくことも可能です。

好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて！！



教員を目指す
あなたへ

教職課程

本が好き
図書館で働きたいなら



司書課程・司書教諭課程

博物館・美術館で
働きたいなら



学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学芸員課程ガイダンス

1～4年次
教職課程履修登録
4月上旬

1～4年次
司書課程履修登録
4月上旬

1～4年次
司書教諭課程
履修登録
4月上旬

1～4年次
学芸員課程
履修登録
4月上旬

3・4年次
介護等の体験
(中学校教諭免許状取得希望者)
5月下旬～3月上旬

4年次
教育実習
5月～11月

卒業時(事前に申請した者)
教員免許状の交付
3月

3・4年次
図書館実習
(希望者)
8月～11月

卒業後(希望者)
司書資格取得
証明書の申請
および交付

卒業後(事前に申請した者)
学校図書館
司書教諭講習修了証書
の交付

3・4年次
博物館実習
(館務実習)
7月～9月

卒業後(希望者)
学芸員資格取得証明書
の申請および交付

司書・司書教諭課程サポート

司書課程就職(進路)懇談会 12月開催

図書館関係者をゲストに迎え、
図書館関連の就職や大学院進学に
ついて懇談をしています。

学芸員課程サポート

文化財セミナーを開催

平成20年10月に専
修大学130周年記念文
化財セミナー「発想転換」
を開催しました。

玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

本学では、これまで小学校教諭の免許状取得の道はありませんでした。ニーズの高まりに応えるため、玉川大学と連携し、2007年度より小学校教員養成特別プログラムをスタートさせました。本学に在学したまま玉川大学通信教育部の科目等履修生となり、免許状取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすものです。

ただし、免許状取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加してください。

※このプログラムは小学校教諭二種免許状の取得を保証するものではありません。

※商学部会計学科は除きます。

教職公開講座 10月上旬開催

教職公開講座は、教職をめざす学生を対象にした入門講座です。年に1度、10月上旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招き学校の様子や教員採用試験の対策について話していただきます。また採用試験官の経験者を招き試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

多摩区・3大学連携事業学校教育ボランティア

多摩区・3大学連携事業として、川崎市多摩区と日本女子大学が取り組んでいる「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」に本学も参加しています。学生が川崎市多摩区内の小・中学校に週1、2回程度ボランティアとして出向き、学校をサポートするものです。

活動内容は、教科指導中の個別指導の補助、部活指導の補助、サポート学級の補助などです。学校や児童生徒の理解、授業力の向上など教員としての資質の向上に役立ちます。今や教員志望者にはボランティア経験が不可欠で、その貴重な体験の場となります。

教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校及び専修大学附属高等学校で、教科担当教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる「教職版インターンシップ」と言える貴重な制度です。

研修期間は、半期間で特定の曜日に研修を行う形か、春期休暇期間中の一定期間に集中して研修を行う形があります。

教員採用試験対策講座(エクステンションセンター主催講座) ガイダンス:4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めても、どのように対策を進めればよいか戸惑うことが少なくありません。本学では、本気で教員をめざす者を対象に、低廉な受講料で教員採用試験対策講座を開講しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生および卒業生です。毎週土曜日に開講されます。受験指導予備校と提携し、1年間を通した計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

体験のススメ

専修大学教職課程協議会教職相談員（元商学部兼任講師） 岩田 公夫

小学校で生活科という教科がスタートして四半世紀が過ぎました。

当時の文部省生活科担当の教科調査官は「生活科という学習は、思いっきり遊ばせてほしい。遊びの中から発見があったり、疑問（問題）がでてきたりするもの。それを大事にしてほしい。」と力説していました。

1. 小学校「生活科」の体験的学習

平成27年度版生活科1年の教科書の単元名を見ると

- ・「とびだせあそびたい」
- ・「みんなであそぼう」
- ・「むしやくさばなとあそぼう」
- ・「すなやつち、みずとあそぼう」
- ・「あきのたからものであそぼう」

このように遊びを強調した単元が多く設定されている。つまり、生活科スタート当時の思いが教科書に反映されているようです。

しかし、当初は「〇〇ごっこをしよう。」という単元が多かった。そして「授業中に子どもを遊ばせるなんてできない。」といった固定概念を持つ教師が多かった。

そのため生活科本来のねらいはなかなか達成できなかった。

ごっこも遊びであるから、遊ばせていることには変わりはないはずです。だが、ごっこは模擬体験であって、現在の生活科は本物体験なんです。

例えば、砂や土に水を含ませて団子を作り坂を転がす遊びをするだけでも、砂はすぐ崩れてしまい粘土質の土の方が団子が壊れないことに気づくのです。中には団子を作らない子もいます。土を探し

たり掘ったりしているうちに、蟻を見つけて夢中になっている子、トカゲの卵を見つけて「先生！これなーに？」と興味津津の子。

教室の模擬体験と違って、外での本物体験では教師が予期せぬ発見や問題を子どもたちは見つけてくるものです。

ところが、それらを受け止められない教師がいることが問題です。子どもが大事そうに捕まえてきたものを教室に持ってきた時、「キャー！」と悲鳴を上げ「そんなトカゲを教室に持ってこないで！」「これはカナヘビっていうんだよ。」「先生！これ、かわいいんだよ。見て！」「そんな気持ち悪いの早く外に出して！」子どもは嬉々として先生に見せに来たのに、子どもはきっとショックだったと思います。

こんなやり取りを眼にするのは非常に残念です。教師自身に土いじりの経験が乏しく、土の中にトカゲやミミズ、昆虫の幼虫たちがいることが自然であり、肥沃な土(畑)であることの認識がないからです。

2年生の単元になると

- ・「おいしいやさいをそだてたい」
- ・「いきものだいすき」
- ・「どこにいるのかな」
- ・「げんきにそだて」

というように長いスパンの単元構成になっています。野菜を育てることや、昆虫や小動物を育てるこ

と。その変化を観察することによって植物の成長の三要素を認識したり、昆虫の生態を知ることができるのです。

ただし、生き物を扱う単位では成功体験だけではなく、失敗体験をする子も多いのです。

水やりを忘れて野菜を枯らしてしまう子、餌を与えず死んでしまった昆虫等々。

そのような子たちに、枯れてしまった、死んでしまった原因を「成長記録カード」の中にしっかり書きこむことによって失敗体験も学びとすることが出来るのです。



種イモの植え付け（H27.3.15）



ジャガイモの収穫（H27.6.14）
（左奥が筆者）

2. ボランティア活動から何を学ぶ？

大学における学びは、知の追求であり、専門的分野での課題追求であることは言うまでもありません。

しかし、その中においても体験的に自分の足で調査したり、資料を探したり、汗水流して収集したものは宝と成り得るのではないのでしょうか。

次に、大学生だからできる活動の中にボランティア活動があります。

現在、学校現場でも福祉施設でも若く元気な学生たちがボランティアに来てくれることを望んでいます。

しかし、残念ながら小・中・高校へのボランティアは時間的な制約があり、現役学生にはやりたくてもできないことが多いでしょう。

それでも単発のボランティアとして、自然体験学習や修学旅行の引率のお手伝い等を募集している学校もあります。

以前、専大の学生たちをお願いしたことがありました。10人ほど行っていただきましたが、残念ながら2名の学生に対するクレームが来てしまいました。

・指示されないと動かず、ポケーっと眺めているだけ。教師の補助者としてのボランティアであることを認識してほしい。と云った内容でした。

他の学生たちは、「ボランティアだけど生徒たちが〔先生！〕と呼んでくれて、恥ずかしかっただけ

どうれしかった。」担任の先生や学年主任の先生たちから「ありがとう。」「助かったよ。」「また来てくれますか？」などと感謝されたことがうれしかった。と云う感想を聞かせてくれました。

また、冬休み中に原発事故により自分の家に帰れない福島の子どもたち150人ほどを横浜の宿泊施設に震災事故以来毎年招待していますが、その活動にも専大の学生にボランティアとして参加してもらっています。

子どもたちと一緒に餅をつき、ちぎって、食べての活動で一番印象深かったのは、福島の子どもたちが一時でも笑顔でくったくなく話しかけてきてくれてうれしかったこと、と述べてくれました。

3. おわりに

犬も歩けば棒に当たるように、私たち人間も活動すればいろんな問題に対峙することになります。

アルバイトも貴重な社会体験です。でも、生活に多少の余裕があったら、ボランティア体験を是非

やってほしいと思います。無償の活動であっても、やりがいを得ることで自分の存在意義を認識することが出来るはずです。

そのような体験によって学ぶことの一番は、人との関わり方ではないでしょうか。いろんな立場の人とのコミュニケーションのとり方。体に障がいのある人、社会にうまく適応できない人たちとの接し方、それらは理論・理屈ではなく、経験から学びとる事かもしれません。

また、生活科の体験学習と同じようにいつも成功体験ばかりでなく、失敗体験も経験するはずです。失敗してもめげることなく、しっかり振りかえりをして次につなげてほしいものです。

教職を目指す人はもちろん、一般企業に就職しようとする人たちも、人としての生き方を模索する上で、学生時代に糧のある体験をいっぱいしてほしいと願っています。



ふくしまキッズ（横浜市野島青少年研修センター）



教職課程



卒業生から（国語）

内灘町立内灘中学校 教諭 千場 ありさ（平成26年度文学部日本文学文化学科卒業）

「え、嘘やん」教員採用試験の採用通知を片手にそんな人生最大の衝撃を受けてからはや1年。それまでは自分が本当に教師になれると思っていたが、現在は石川県の公立中学校で国語科の教員として勤務しています。4月からのこの半年は本当にあっという間で、怒涛の日々を送ってきました。自分の好きなことを好きなだけやっていられた大学生活とは大きく異なり、正直これまで何度も挫けそうになりました。しかし、ここまでやってこられたのは、周りの方々の支えはもちろん、生徒達の笑顔のおかげです。まだ右も左も分からない私ですが、これまで感じたことや実際の学校生活の内容を書くことによって皆さんに“等身大の教師”というものを知って頂ければ幸いです。



まず、教師になって最初に感じたことは、授業の難しさと教材研究の大切さです。中学校には色々な生徒がいます。授業においても、積極的に手をあげ発言するような勉強に意欲的な生徒もいれば、授業中に騒ぎ出してしまったり寝てしまったりする意欲的でない生徒もいます。私は、そんな一人ひとり違う生徒達を前にどのように授業をしていけばいいのかという壁にぶち当たりました。騒いでもう生徒に細かく注意することもありました。授業をせずに1時間かけて生徒達と向き合ったこともありました。正直今でもどのやり方が正しいのか分かりませんし、自分の生徒指導のやり方には自信がありません。それでもこの半年間で明らかに分かったことが一つあります。それは教材研究の大切さです。

これまで「教材研究」と言えば「この作品はどのような作品なのかを探ること」だと思っていました。もちろんそれも大切なことなのですが、それだけではないことに実際に授業をするようになってから気付きました。本

当の「教材研究」とは、生徒のためにどのように授業を展開するのかを考えるとところまで含まれているのです。

私達は教材研究をすればするほど、生徒に教えたいと思うことが広がります。これは国語以外のどの教科にも言えることだと思います。しかし、全てを生徒に教えようとすればするほど、生徒は結局何が大切なのかということが分からなくなってしまいます。そのため、私達は生徒につけたい力を考え、どこに内容を絞って教えていかなければならないかということを教材研究で考えていかなければならないのです。そして、そのように生徒のことを一番に考えた教材研究を行うことで、生徒達の意欲を上げていかなければならないのです。先程、色々な生徒がいると述べましたが、私は勉強に意欲を持ってない生徒達をこの教材研究を通して授業に引き込むような技術を身につけていきたいと思っています。

先にも述べたように、これまで何度も挫けそうになったことがありました。授業が終わった後に「もうやだ」と落ち込んだことも数えきれないぐらいにありました。しかし、そんな時に生徒から笑顔で話しかけてきてくれたり、休み時間や部活の時に生徒と他愛ない話をしたりすることでまた頑張ろうと思えます。漢字が苦手だった生徒が、沢山練習してきてテストを頑張っている姿を見た時にも、「教師になって良かった」と思うこともあります。そんな自分に気付き、すごく単純だな、と思うのですが、きっと私の周りの先生方も一緒だと思います。教師という仕事は楽しいことばかりではありません。辛いことや悔しいことも沢山あります。しかし、生徒の成長や頑張りを間近に見ることのできるやりがいのある素敵な仕事です。

現在、教師を志している方や4月から教師になれる方、様々いらっしゃると思いますが、大学時代というのは人生において本当に貴重な時間です。教師になって生徒達の前に立つとき、大学時代で培った豊富な知識だけではなく、様々な経験を披露して頂きたいと思っています。そのためにも、勉強はもちろん、自分の見聞を広げられるような遊び、旅行、バイトといった余暇にも勤しんでほしいと思います。私も、生徒達に勉強だけでなく、外の世界を教えられよう教師になりたいと思っています。

私は2003年4月に現任校に社会科の非常勤講師として着任し、それから13年間、教員という大変ながらもやりがいのある職業を通して、生徒たちの成長を手助けしています。教員としてまだまだ未熟者ではありますが、これまでの教員経験を通して得たことを皆さんにお伝えします。

教員となった数年間は、とにかく多種多様な職務を必死になってやり遂げました。教科教育はもちろんですが、担任、クラブ顧問、校務分掌など、教員の仕事は多岐にわたります。この点は、教員を目指す学生の皆さんにとって何を意味するかというと、学生時代は、教員になるために様々な領域で多くのことを吸収していかなければならないということです。

例えば、中学社会だけでも地理・歴史・公民分野があり、3分野すべての授業を行えるだけの知識が必要不可欠です。また、私の勤務校のように中高一貫校であれば、中学で教えることに加え、高校で日本史や世界史などの受験指導ができるだけの高度な知識も必要となります。そして最近では、アクティブ・ラーニングの導入が中学高等学校でも検討されはじめており、この分野の知見も必要とされてきています。

ところで、このアクティブ・ラーニングについてグラビンガーとダンラップ（1995年）の研究¹⁾を見てみると、アクティブ・ラーニングの土台となっている理論は、ソクラテスにさかのぼり、ルソー、ジョン・デューイ、ブルーナやヴィゴツキーらの考え方によって構成されていると述べられています。つまりアクティブ・ラーニングは何も目新しい教授法

ではないのです。このアクティブ・ラーニングを中心的に運用することになるであろう学生の皆さんは、いわゆる古典的な教育学も教員の基本として学ぶ必要があると思います。

では、知識だけあれば教員が務まるかというとそうではありません。教員が相手にする生徒はひとりとして同じ生徒はいませんし、一年の間に大きく成長し変化する生徒も沢山います。そのような状況では、教育学のテキストや指導書の内容通りに生徒に対応しようとしてもうまくいかないことがあるので、自ら対応策を考え、また複数の教員と協力していくことが求められます。

例えば、担任している生徒の人間関係を修復する際に、部活動、SNS上、家族、学校外などの様々な関係性を考えた上で必要な情報を収集し、関係者と問題解決に向けて話し合いを重ねていかなければなりません。ここで教員として求められる能力は、当該生徒と信頼関係を築くだけでなく、他の教員、保護者、カウンセラーなどの専門家とのコミュニケーションを十分にとることのできる能力であり、思考力や適切な状況判断力が必要となります。様々な経験をすることで、教員として必要な資質である「コミュニケーション力」をぜひ持っていただきたいと思います。

最後に、私が好きな「教育は種まきである」という言葉を紹介します。成長段階にある生徒に対して、教員の努力がすぐに実を結ぶということは多くありません。教育活動が生徒の知的・精神的な成長の開花にいつ結びつか分かりませんが、地道に手を差し伸べ続けていくことが大切です。そしてその手の差し伸べ方や適切なタイミングを考えていかなければならないのが教員の仕事でもあります。

教員は、責任感や多くの知識や経験が必要な職業ですが、とてもやりがいがあります。皆さん、教職に就くことを目指して頑張ってください。



¹⁾ Grabinger, R. S., & Dunlap, J. C. (1995). Rich Environments for Active Learning: A Definition. Research in Learning Technology, 3 (2), 5-34.

「なぜ、教員を目指しているのですか？」
きっとその理由は様々あるでしょう。いつから目指していたのかも。

今回、専修大学教職課程の履修生へ向けたメッセージを書かせていただくこととなり、私自身の大学時代からのことを振り返ってみたいと思います。

私は、教員になりたいという強い思いがあって専修大学に入学したわけではありませんでした。教職課程を履修し始めた時も、卒業後の自分が教員として働くことは、あまり想像していませんでした。

教員を自分の将来の仕事として具体的に考え始めたのは、3年次の後期だったと思います。しかし、4年次に受けた埼玉県の教員採用選考試験は第一次試験不合格の結果となり、進路先が決まらないまま時間が過ぎていきました。卒業が近づいたころ、埼玉県立高校の非常勤講師の話をいただき、4月より勤務することとなりました。

臨時的任用職員とは異なり、非常勤講師は授業時間のみの勤務になります。講師生活1年目は、授業時数の関係で2校を兼務していました。2年目からも、複数の高校で授業をさせていただきました。公立、私立、全日制、定時制と、短い期間で色々な生徒に接することができたのは得難い経験でした。

勤務先の先生方からの応援を受けながら、採用試験に挑戦し続け、講師生活5年目によりやく合格しました。

教員に必要な能力とはなんなのでしょうか。もちろん教科ごとに採用されていますから、教科指導力が必要であることは間違いありませんが、生徒指導力も求められます。

生徒指導と聞くと、暴力や喫煙、考査不正行為など、問題行動を起こしてしまった極一部の生徒に特別な指導する、というイメージがあるかもしれません。実際のところは、生徒指導の場面はあらゆる場面に及びます。昇降口で生徒を迎えるとき、授業をするとき、廊下ですれ違ったとき、清掃のとき…。

新任の頃のことです。注意をしても生徒に通じず、指導に及び腰になっていった私に、

先輩教員が「生徒に嫌われることを恐れていたなら何もできない」と教えてくださいました。一貫して指導に取り組み、生徒に信頼される言動をすることが大事なのだと。怖気づいてしまうこともありますが、今注意をせずにいることが彼らの為になるのかを考え、根気強く声を掛けるように努めています。

採用から5年目となりました。昨年度末、初めて卒業生を送り出しました。今年度に入り、何人かの卒業生が学校を訪ねてくれました。「高校生に戻りたい」と口にしながらも今頑張っていることを教えてくれたり、「もっと厳しくして欲しかった」と言いながら少し大人になった顔を見せてくれたりしました。

高校生である彼らの近くにいられるのは、たったの3年間です。その先について回って、転ばないように手を貸したり、ましてや代わりに何かをしてあげたりすることはできません。ですから、転んだ時に自分で立ち上がることができるように、社会に生きる人として成長できるよう働きかけ、サポートします。

生徒と接する以外にも、教員の仕事はたくさんあります。情報科の教員にはパソコンを使っの作業や、ネットワーク管理の仕事が割り当てられることが多くあります。私は、ネットワークについてもっと興味を持って学んでおけば良かったなと後悔しています。どうぞ、たくさん勉強してください。

遊ぶことも忘れずに。外へ出かけ、色々な人やものに触れ、刺激を受け、世界を広げてください。教員は、人相手の仕事です。どうぞ、魅力のある人になってください。



卒業生から（特別支援）

神奈川県立横浜南養護学校 教諭 大内 雄介（平成23年度法学部政治学科卒業）

病弱教育との出会い

「あなたを神奈川県立特別支援学校の教員として採用します」との電話を受け、私は、特別支援学校の教員となりました。中学校の社会科で合格した私は、中学校に行くだろうと思っていました。そこで飛び込んできた電話に、最初は「間違い電話かな」とさえ思いました。大学時代に、知的障害教育部門高等部の修学旅行の引率ボランティアをしたことがあり、まったく特別支援学校の雰囲気を知らないわけではありませんでした。そのような中で、配属先の決定の日を迎えました。「神奈川県立横浜南養護学校に配属が決まりました。病弱教育を行っている学校です」と告げられました。「病弱……」「どんなことをやっているのだろう」「全然イメージできない」これらが配属が決まった時の率直な感想でした。

横浜南養護学校に赴任して

横浜南養護学校は、神奈川県立こども医療センターに併設し、そこに入院している児童生徒を対象としている学校です。つまり、退院が決まれば、本校の生徒ではなくなり、それぞれの地元の学校へと戻っていくことになります。年間400件以上の転出入があり、短い児童生徒は2週間で地元校へと戻ってきます。一般的に言われているような「3年後を見通した指導」のようなものは難しい学校でもあります。また、ドクターや看護師、作業療法士、心理士、ケースワーカー、児童相談所の職員など様々な職種の方々とも連携を取り、子どもたちの状況を共有しながら、日々の教育活動を行っています。

そのような環境の中で3年目を迎え、今年は、今年度から新たに神奈川県立精神医療センター内に開設された芹が谷学級に勤務しています。神奈川県立精神医療センターには、中・高生で精神疾患を抱えている子どもたちが入院し、その中の中学生が芹が谷学級に登校してきています。

精神疾患を抱えている子どもたち

入院している子どもたちは、行為障害、統合失調症、適応障害、摂食障害など病名はさまざまです。そのような子どもたちは、精神疾患や発達障害などを背景に、不登校、家庭内暴力、学校内での問題行動、自傷行為、拒食などの具体的な問題が表面化しています。

また、精神疾患を抱える子どもたちの特徴として、学校での失敗体験の積み重ねなどが

ら、自己肯定感が低く、集団活動への意欲や自信を失っている子どもが多くいます。また、暴力などの問題行動が頻発することから学校の問題児として扱われているケースも少なくありません。



授業や生徒指導で大切にしていること

自己肯定感を高めること、集団の活動へ参加し自信をつけることなどが、自立活動や特別活動の授業のねらいになってきます。「その生徒がどうすれば参加できるのか?」「どんな課題だったら取り組みやすいか?」ということを意識して授業に取り組んでいます。そのような活動を行い、その都度良かった所を振り返り、成功体験を積み重ねてほしいと願っています。

生徒指導では、本音で話すことを意識しています。精神疾患の子どもたちは、大人への信頼感が低い生徒が多く、信頼関係づくりからのスタートです。信頼関係をつくるには、一緒に本気で体を動かすこと（大人げないと言われることもあります）、許されない行動をしてしまった時に「なぜだめか」と真剣に向き合うこと、困っているときに親身になって話を聞くことではないかと日々実践しながら考えています。

3年目を迎えて

退院した生徒が、外来受診に来た時に、元気な姿で今の生活について話してくれることが生徒たちと真剣に向き合って良かったなあと感じる瞬間です。

その一方で、3人の生徒と悲しい別れも経験しました。彼らが、治療でどんなに苦しくても、「生きたい」「勉強したい」と訴える眼差しは強く胸に焼き付いています。

いろいろな出会いを経験して、生徒たちから様々なことを教えられて、これからも教員として日々勉強していきたいと考えています。

・はじめに

私が「教師」という職業に興味を持ったのは小学生の頃でした。興味がいつしか教師になりたいという夢に変わりました。そして、平成28年度採用予定の東京都・大阪府公立学校教員採用試験に合格することができました。試験対策は範囲も広く自分の流れを掴むのに苦労するかもしれません。これから教師を目指す皆さんにはぜひ納得のいく勉強を試験本番まで続けていって欲しいです。わずかではありますが私が教員採用試験までにどのような勉強、対策をしていたか紹介させていただきます。教師を目指している皆さんに少しでも参考になれば幸いです。

・1次試験に向けて

小学校から「教師になりたい」とは思っていたものの実際に教員採用試験の勉強を始めたのは3年生になってからでした。何から勉強していけば良いかわからず八方ふさがりだったので教職ガイダンスに出席した際に知った、専修大学で開かれている教員採用試験対策講座を受講しました。講座を受講しながら勉強している時に感じたのが仲間から得る刺激の強さです。試験は最終的には自分との闘いになると思います。しかし、まわりが頑張っていたり問題をどんどん解いていったりする姿を見るととても刺激を受けます。教職の授業では同じ夢を持った仲間がたくさん出会えるので、そこでの交流をぜひ自分のやる気に変えていって下さい。

また1次試験の勉強をしていく中で大切だと思ったことは情報を得るということです。都道府県によって問題形式や出やすい範囲が違います。自分が受験する自治体の出題傾向を知ることによって重点的に勉強した方が良い範囲も見えてきます。私はインターネット等を利用し各自治体の試験日程や試験内容を見比べ、試験に小論文や模擬授業があるか併願できる日程なのか等を調べました。受験する自治体が決まれば過去問を解いたり傾向を調べたりと自然とやるべきことが見えてきます。(もちろん出題傾向が変わる可能性もあるので過去の情報だけに頼ってはいけません) やみくもに勉強するだけではなく情報を得ることも教採対策の1つだと思います。

・2次試験に向けて

1次試験の結果発表から2次試験までは

人によって違いますが早い人では1週間程しかありません。つまり1次試験の結果を待ってから2次試験の対策を始めるのでは間に合わない可能性が出てきます。私は1次の結果発表の約1週間後に2次がありました。1次も受かっていないのにという思いがあり1次の結果が出るまでほとんど2次対策をしていませんでした。案の定1次の結果が出てからは2次対策に追われ試験が始まる直前までひたすら面接で話す言葉を呟くという余裕のなさでした。1次の結果が分からないと思う気持ちも分かります。しかし、2次の準備不足は不安や緊張に繋がリ本番とても苦しい状況になってしまいます。余裕を持って対策を始め2次当日にはもう自分の思いを堂々と話すだけだというくらいの気持ちでいられるように準備を進めておくことが大事だと思います。

そんな私ですが1つだけ1次試験対策をしている段階から準備していることがありました。それは面接ノートの作成です。聞かれるかもしれないと思う質問と自分の意見とをひたすら書き出していくノートです。自己分析も行える良い方法だと思います。私はこれなら頑張れるなと思うノートを買ってきて使用し、試験が終わるまで毎日持ち歩いていました。



面接ノート

・終わりに

試験勉強をしていく中で行き詰まったり焦ったりすることもあると思います。自分を追い込むことも悪いことではないですが、私が最後まで頑張れたのは友達と過ごす時間があったからです。友達と遊んだりごはんを食べに行ったり適度な楽しみを挟みながら最後まで乗り切ってください。最後になりましたが皆さんの夢が叶うことを心から願っております。

はじめに

教員採用試験を受験すると決めた2年次、必ず地元に戻ると誓いました。沖縄が大好きで、地元で教師になることだけを考えていたので、最終合格発表の日、自分の受験番号を見つけた時は、これまでの人生で最も幸せな瞬間でした。沖縄は現役合格が難しい自治体の1つで、倍率も高く、決して楽な道ではありませんでした。教師を本気で目指している方、私のように地元で教壇に立ちたいと考えている方が、私の合格体験記を読んで、少しでも頑張ろうと思ってくれたら嬉しいです。

一次試験

最初に始めたことは、過去問を解いてみることでした。とは言っても、教職教養に関しては知識がまだ入っていない状態だったので、主に一般教養の対策から始めました。ある程度解いていると、数学は1問しか出ないとか、理科と社会の問題数が多いなど、様々な特徴が見えてきます。それを踏まえて一次試験当日までの1年単位での計画と1週間毎の計画を立てました。私は数学が苦手だったので、1問しか出ない問題に時間は割けないと思い捨てることにしました。その分、理科と社会では落とせないと思ったので、基本を押さえるため中学校の問題集を中心に、分野によっては高校の範囲まで勉強しました。このように一般教養は範囲がかなり広いので、点を確実に取るところと、ここは捨て問にするという戦略が大事だと思います。教職教養に関しては、東京アカデミーの講座を受講していたので、そこで配られるレジュメと問題集しかやりませんでした。ポロポロになるまでレジュメを何度も読み返し、問題集は3周しました。それに加え力を入れたのは、学習指導要領を含む様々な施策でした。地方

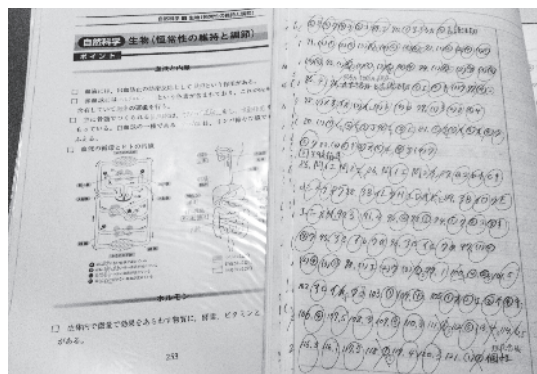
独自の施策もあり、内容を頭に入れるのには大変苦労しましたが、有名な施策はYouTubeに音声があるので登下校の際は毎日それを聞いていました。

二次試験

二次試験に関しては試験を終えた今でも、もっと早くから対策をしておけばよかったと感じています。私の自治体は3日間に渡って行われ、英語の面接、英作文など専門的な能力も問われる上、論作文の文字数がかなり多いというハードな内容でした。1週間ちょっとという準備期間で取り組んだことは、英検1級英作文対策の参考書を買って、模範解答をひたすら写本し、言い回しを覚えることで英作文対策に備えたことと、英語の面接でも使えるように、フォレストの例文をひたすら声に出して読み、とにかく何か言えるようにしようと努力したこと。論作文の対策はとりあえず書くということ意識しました。これは面接にも共通しますが、学習指導要領や自治体の施策で用いられている文言をそのまま用いることで、書きやすく、意見がよくまとまるなという印象を受けました。3日目に模擬授業があったのですが、白紙に自分が発するセリフと板書計画を全て書き出し暗記し、タイマーをセットして家で1人模擬授業を何度も繰り返しました。

おわりに

勉強をしていると、本当にこのやり方でいいのか、何度やっても問題に正解することが出来ない時はイライラし、不安になることがあります。しかし、そこで投げ出すのではなくそれでもやり続けることが大事だと思います。また、私は3年次の1年間、友達と出かけるのを我慢し、ゼミナールで朝8時に学校へ行き、放課後は夜9時まで図書館で勉強するという生活を送りました。周りが羨ましく見えたり、落ち込むことは何度もありましたが、それでも私を支えたのは、地元で教師になるという強い想いでした。更に、手厚く面倒を見てくださる先生方、勉強に付き合ってくれる友達が周りにいるという恵まれた環境に身を置くことが出来たことから、私1人で勝ち取った合格ではないと感じています。応援して下さった方たちに恥じることはないよう、来春からは胸を張って教壇に立ちたいと思います。



自作の参考書と練習問題ノート

はじめに

10月1日正午の合格発表の瞬間は「喜び」「感謝」「安堵」、そして次の日には何故だか少し「不安」を感じたことを今でも覚えています。私は、平成28年度静岡県教員採用試験に合格し、4月から中学校教員として新たなスタート地点に立つことができました。大学生活の全てをかけた教員採用試験の体験を簡単ではありますが紹介させていただきます。

頼もしい教師になるために

私は「どのような教師が魅力的なのか」「どのような人物が求められるのか」を1年生の時から考え、教採時に自信をもって自分をアピールできるように大学生活を過ごしてきた自負があります。それは、以下の3つです。

【心身を鍛える】関東大学フットサルリーグ1部に所属しているチームで3年間プレーし、身体を鍛えることはもちろんのこと、忍耐力や協働性など心身を鍛えました。【人間力を鍛える】3年間、塾講師として小中高生やその保護者や上司と関わり、対人関係能力や臨機応変な対応力を身につけました。また、大学教授の授業補佐や資格課程のガイダンスの発表など自ら進んで仕事を引き受け、責任感や達成感を得るなど、人間力を鍛えました。【専門性を鍛える】塾講師のアルバイトの他、大学では193単位修得し、社会科の専門的知識以外に教養を身につけました。また、生徒が意欲的に学習する授業を展開するために、長期休みには日本を旅し、「人間と風土」を学ぶなど専門性を身につけました。

皆さんも、「自分はこういう人物で、大学生活はこんなにも充実していて、こう成長しました。」と自己分析・自己評価できるように日々の生活から教採を意識してみるといいのではないのでしょうか。

教員採用試験

静岡県の一次試験は一般・教職教養（15点・35点）50点と専門教科（地理・歴史・公民）100点と個人面接で、二次試験は個人面接と集団討論と適性検査でした。私は、3年生の12月までフットサルで忙しいことを予め承知していたので、あえて塾講師のアルバイトをし、小中高生に勉強を教えることで教採の一般教養と専門科目の勉強を補いました。また、一般・教職教養の配点や出題傾向を分析し、配点の多い教職教養を中心に勉強

したため、一般教養はほとんど勉強しませんでした。このように、出題傾向を分析したり、勉強の計画を立てたり、勉強を始める前の準備がとても大切だと思います。そして、4年生の4月からは嶺井先生や神山先生、矢吹先生にお世話になり、一次の筆記対策と二次の面接対策を繰り返し行いました。具体的には、静岡県の過去問、嶺井先生から頂いたプリント、個人で取り寄せた模試、アルバイト先の高校入試問題、その他市販のテキスト3冊を反復して解きました。短期間にも関わらずキャンパスノートは8冊に及び、その熟したノートやテキストは、自分にとって一番のお守り（自信）となりました。正直、教採の時期は決して楽ではありませんでした。8時半から22時まで大学で、そのあと2時までファミレスで勉強をする毎日は体力的に、周りの一般企業志望の同級生の内定が出始めると、自分だけが取り残されているような感覚になり精神的に辛かったです。これから、教採を受ける皆さん、計画的にそして継続的に試験対策できるように頑張ってください。



おわりに

私は、先生方、家族、友人に支えられ、なんとか教採を乗り越えることができました。「自分は一人じゃない」ということに気づき、採用試験や就活はまさに、「団体戦」でした。新たな教員生活では大変なこともあると思いますが、就活シーズンを乗り越えた友人たちと共に、立派な社会人になり、支えてくれた先生方や家族に恩返ししたいと思います。頼もしい先生方や素晴らしい友人との出会いは、私にとって一生の財産です。専修大学に来て、良かったです。

末筆ではありますが、教職を目指している皆さんが、その夢を実現されることを心から願っています。

はじめに

この度、平成 28 年度埼玉県公立学校教員採用選考試験（高等学校等）に数学科で合格し、平成 28 年 4 月から正規教員として教壇に立つことになりました。私の採用試験合格までの経緯をここで紹介させていただきたいと思います。読者の皆様の参考に少しでもなれば幸いです。

1 回目の受験（不合格）から 2 回目の受験に向けて

私は大学在学中にも平成 27 年度の埼玉県公立教員採用選考試験を受験しました。試験対策をやり始める時期（試験半年前）が遅かったのもあり、1 次試験であっさりと落ちてしまい悔いの残る経験に終わりました。

私は大学卒業後、一般企業に就職は考えていなかったため、埼玉県の臨時的任用教員が非常勤講師になって現場で働きながら再度受験をしようと思いました。自治体にもよりますが、臨時的任用教員になるか非常勤講師になるかは選択できると思います。そして私は非常勤講師を選びました。その理由は勉強時間の確保にあります。臨時的任用教員は正規の教員と勤務形態が同じであるため、残業することもあります（実際に残業している臨任の人はいました）。しかし、非常勤講師ならば、その日の担当の授業が終わり次第、帰宅することができるので勉強する時間を確保できます。もし、私のように 1 度目の採用試験に落ちてしまい、教員をやりながらリベンジをすることになりましたら、勉強時間を確保することができる非常勤講師になることをお勧めします（その分、給料が少ないので多少の苦労はあります…）。

そして私は平成 27 年 4 月から非常勤講師として教壇に立つことになりました。担当授業以外の時間は勉強に充てることができました。授業と授業の合間にも、持ってきた参考書などを読みながら職員室で勉強しました。職員室で勉強をしていると、周りの先輩教師



先輩方からいただいた試験に関する資料の一部

が応援してくれます。私は幸運にも様々な先輩教師から助言をいただくことができました。面接や論文の対策の仕方や面接の練習など色々と協力をしてくださいました。

このように現場で働いていると、周りの先輩教師から試験に関する助言をもらえるのでかなり強みになります。ある先輩教師が「自分が採用試験を受けるときにも周りの先輩教師からサポートしてもらったから、自分も協力してあげたいと思う」と言っていました。なので、積極的に周りの先生に質問をすることをお勧めします。

2 回目の受験

2 回目の受験は去年の反省を生かし、早い段階から試験対策を始めました。試験日から逆算して勉強の計画を立て、その計画を遂行していきました。この逆算して計画を立てることによって、今の自分に足りないものは何なのかがわかるようになります。

埼玉県は特に「人物重視」と言われていたため、面接の練習には力を入れました。学校でも校長先生が面接の練習に協力してくれたため、より力がつきました。面接で重要なのは、質問に対して端的に答えること（なるべく 30 秒以内で）、しっかり自分の言葉で抑揚をつけて話すこと（暗記しすぎて棒読みにならないようにする）、そして何より具体的な対応策を考えておくことです。面接では、「〇〇が起きたらあなたならどうするか？」といった質問が多いので、自分なりの対応策を沢山考えておきましょう。

そして本番では、緊張のせいで多少のミスはあったものの、練習の成果もあり、自分の良さを最大限にアピールできたと思います。当たり前のことですが、たくさんの練習量が大きな自信を作るので、本番も乗り越えることができたと思います。

最後に

今回無事に合格できたのも、周りの支えがあってことであり、大変感謝しております。周りの人たちが応援してくれるからこそ、挫けそうになったときにも負けずに頑張ることができました。これから採用試験に向けて頑張る皆様の周りにも、きっと支えてくれる人たちがいると思います。日々、仲間への感謝の気持ちを忘れずに採用試験合格に向けて邁進し続けてください。私もその仲間の一人として応援しています。

1. はじめに

私は、小さい頃から教員を目指していたわけではありません。専修大学在学中に、教職課程を履修していたところから、私の教職への道が始まりました。教職課程で出会った先生方、大学職員の皆さん、そして、教職員を目指す学生たち。沢山の人たちに出会い、支えられたことで、今春から神奈川県教員として働くことになりました。いつから志しているかが大切なのではなく、志してから何をすることが大切なのです。これから私が記すことが、少しでも教員を志す気持ちがある皆さんの背中を押せるものになれば嬉しく思います。

2. 一次試験

大学卒業後、大学院に進学し、その秋から通信制大学に通い小学校免許状取得の勉強を始めた私にとって、一次試験にかけた時間は他の学生たちに比べ極めて少なかったと思います。5月末に修士論文の構想発表があり、6月の中旬から2週間小学校の教育実習に行きました。教育実習中は、実習に手一杯で、一次試験の勉強はほとんど手が付けられませんでした。なので、私が一次試験の勉強をしたのは、実習が終わり、試験までのたったの約2週間。先ずしたことは、過去問をみて、傾向をつかむこと。試験を実施する自治体によって、試験問題は大きく異なります。先ずは自分がどの自治体を受けるのかを決めることが大切になります。問題傾向が類似している自治体を複数受けるのも、有効でしょう。

次に、傾向をつかめたら、採用試験用の問題集を、過去問で扱われている箇所を集中的に、ひたすら問題を解きました。間違えた問題には印をつけて、さらに解きます。ひたすらその繰り返しです。問題集については最低2回、余裕があれば3回解きました。量が極めて多いように思えますが、ピックアップしているのでそれほどではありません。1次試験は、落とす試験ではありません。一定の基準をクリアすることが大切。皆ができる問題は外さないこと、皆ができない問題については間違えてもさほど支障はないでしょう。

ただし、私の勉強の仕方はあくまで、短期間なものです。時間や余裕がある場合は早い段階からコツコツ勉強するのが一番確実な方法だと思います。

3. 二次試験

神奈川県小学校課程の場合、試験は一日です。午前中に模擬授業・集団討議、お昼を挟んで午後に個人面談になります。二次試験の模擬授業については、神奈川県の場合、一次試験の結果通知とともに、テーマが伝えられるので、そのテーマに沿って授業の準備をします。基本的に大きなテーマですので、自分の好きな模擬授業を作って良いかと思います。模擬授業の時間は10分間。他の受験者

が生徒役をしてくれます。試験当日の朝、集合した際に、グループに分けられるので、一緒のグループの受験者とコミュニケーションをとって、模擬授業の内容について話し合いをするとよいでしょう。

集団討議については、グループ内の受験者全員の模擬授業が終わり次第、休憩をはさんで始まります。議論の腰を折らずに、話を進めながら、自分の意見も発言することが大切になります。

個人面接に関しては、昼食が終わり次第、遠方からの受験者からおこないます。そのため、かなり時間が空いてしまうこともあります。私は、3時間半待ちました。控室ではなく、外に出ることも可能ですので、外に出てリラックスすることをお勧めします。個人面談の対策については、何もありませんでした。面接マニュアルなど沢山ありますが、マニュアル通りの回答ではなく、面接官と話をする中で、自分はどのような人物なのか、さらには本気度を表現することが大切なのです。

4. 最後に

私の価値観で教員採用試験について語ってきました。もちろん、それが正しいわけではありません。同じ方法をとっても、適合できる人もいれば、適合できない人もいます。恐れながら、それでも私の経験が読んだ人の中でほんのわずかでも役に立ったのなら、幸いです。最後に、読んでいる皆さんに私からの要望をエールに変えてまとめさせていただきます。

先生と呼ばれる職業はどうしても偉いイメージがあります。医師・弁護士・政治家など、先生と呼ばれる人たちは偉く見えます。学校の先生だって、先生の器がないと…、人として優れていないと…、高い志を持っていないと…と思う人は多いかもしれません。けれど、先生は「先を生きる」と書きます。学校の先生は、子どもたちより少し先を生きている人であるだけで十分です。正しいことを教えることが教育のすべてではないと思います。子どもたちより、多くのことを経験している。その経験が子どもたちのよい教えになるはず。様々な考えを持った人たちが先生であることこそが大切だと私は思います。なので、少しでも教員を志す気持ちがある皆さんが、より多く教育の現場に足を踏み入れてくれることを、心待ちにしています。



教育実習を終えて（国語）

越谷市立東中学校 文学部日本文学文化学科4年 工藤 彩華

母校の中学校での3週間の教育実習を終えて、私が生徒たちに何かを教えたというよりも、私が生徒たちから学んだことの方がはるかに多かったと感じました。初めの1週間は体育祭週間ということもあり、授業を受け持つのではなく、生徒とどう接するかが自分の中の課題でした。体育祭の練習を重ねていく中で、徐々に生徒たちとコミュニケーションが取れるようになっていき、それが実際に教壇に立って授業をするときに役立ちました。より良い授業をつくっていくためには生徒を知り、積極的にコミュニケーションを取ることが大切だと思います。

2週目から教壇に立ち、授業を行いました。初めは授業の流れを作り、実際の生徒たちを前にして授業をすることがこんなにも難しいことなのだと感じて戸惑いました。私の指示が明確でないこともあり、授業が思い通りに進まないこともありましたが、その中でも生徒たちは一生懸命に私の話を聞いてくれました。授業回数を重ねていくにつれて、生徒が自分で答えを導き出したという自信や生徒自身の気づきを大切にしていきたいと思うようになりました。生徒は一人一人進度が異なるため、早く終わってしまう生徒へ何を待っているかの指示、終わっていない生徒へのフォローが不十分であることが何度かあり、改めて自分の視野の狭さを痛感しました。

クラス全体を見ようとしていてもできていないことが多く、心に余裕が無く生徒に申し訳ないと思いながらも、どうしたらいいかわからない、教師とは全く正解がない職業なのだと思います。実際に教師は授業だけやっていればいいのかという決してそうではなく、常にやるべきことがたくさんあって、生徒が帰った後も机に向かって作業をしていたり、会議をしたり、他の先生と情報を交換したり、休まる時間がほとんどないと思いました。しかし、生徒と接している時はどの先生方も忙しさは全く感じせず、明るく笑顔で接していました。授業の内容や教える技術以外にも実習先の先生方を見て学ぶことは非常に多く、それを少しでも次の授業で活かそうとする姿勢が何より大切だと思います。

3週間という限られた期間の中で生徒と関わっていく際に、次はこうしてあげたい、もっと私にできることはないかといったことを常に考えながら過ごしていました。その中で失敗したこと、後悔したことはたくさんありましたが、生徒と一緒に作る授業が最終日に達成できたのではないかと思います。私が思っている以上に生徒たちは先生のことをよく見ていて、私が授業を見学してメモを取っている姿など、日常の様々な行動や言動が、気づかないところで生徒たちに影響を与えているのだと感じました。生徒たちと毎日顔を合わせ、その成長を見守り、時には厳しく指導をし、褒める時はとことん褒めていく姿勢に深く共感しました。信頼関係を築いていくためには、そのどちらもが必要不可欠であると感じました。



指導教諭の先生を始め、実習先の先生方には生徒との接し方、授業の進め方等たくさんアドバイスをしていただきました。学級担任となったらやらなくてはならない朝の会、帰りの会、給食の指導、掃除の指導も経験させていただきました。改めて教師という仕事の大変さを感じると共に、そのやりがいも強く感じる事ができ、多くのことを吸収できた3週間でした。この貴重な教育実習の中で得たたくさんの経験を今後活かしていきたいと思いました。

教育実習は受け身ではなく、積極的に自分から行動していくことで何倍も充実したものになると思います。後輩の皆さんが有意義な実習期間を過ごせることを願っています。

教育実習を終えて（英語）

東京都立富士森高等学校 文学部英語英米文学科4年 山崎 開渡

私は6月1日から19日までの3週間、母校である東京都立富士森高等学校で、教育実習を行ってまいりました。担当クラスは2年7組で、実習科目はもちろん英語。初めて正式に教壇に立ち、教師として生徒を教え、また教師の卵として現職の先生方から様々な指導をいただきつつ、自分の教育実習は幕を閉じました。やはり、教育実習を終えた前と後では、自覚や意識などはガラリと変わり、周りの見え方や相手に対する考え方もだいぶ変わっていました。改めてこの3週間を振り返っていきたいと思います。

始まりの1週目は、初めてのことばかりでした。母校とはいえ、生徒としてではなく、教師としての自分から見た学校はとても新鮮でした。教室は教わる場ではなく教える場として、黒板は見る側から書く側へと変わりました。そういった新しい感覚の1つ1つが、この教育実習で学んだ、最初の教師としての意識だと思います。とはいえ、この週は体育祭があり、また始めの週は授業見学に従事するため、実際に意識したのはこの週の金曜日、初めて授業をさせていただいた時です。初めての授業では、時間配分こそは計画通りにいったものの、プリントのミスや、教科書の内容への配慮の足りなさなど、改善点ばかりの授業でした。2週目には授業を任せられるようになり、クラスによっては通じる授業と通じない授業があること、週3コマのうち、外国人講師が1コマ持つので、時間に余裕がないことを知りました。50分の間に生徒の動機づけを促進する活動、4技能すべてを取り入れる活動、コミュニケーション活動に文法項目を明示的に説明する活動など、これまでの知識をすべて取り入れた授業をすることは

不可能だと知りました。やはり、学校や生徒によってさまざまであるためです。

そういった現場のギャップを知ったこの時期には、自分は時間内に授業を終わらせることに集中しすぎたあまり、生徒のわかりやすさを優



製菓部の生徒から

先することを後回しにしてしまい、いつの間にか自分の授業は、生徒のためではなく自分のためになっていました。この2週目では、自身の授業のパターンを見つけるために生徒に負担をかけてしまったと思います。3週目に入ると、授業の形式もようやくまとまってきた、単語から派生したいろいろな英語のtipsを教えられるようになりました。しかしこの週の前半では、生徒の活動が少なく、一方的で眠くなる授業をしていることに気が付きました。そこで音読や、生徒に答えさせること、ペアワークなどをうまく取り入れようとすれば、代わりに時間が間に合わなくなることもしばしば。実際に授業を行うことの難しさは模擬授業で行っている時とは比べ物になりません。教師とは常に試行錯誤する者であり、生徒に合わせた授業展開を模索し続けることが必要であると痛感しました。

終わってみれば、意外とあっけなかったこの3週間を乗り越えることができたのは、同じ実習生たちや、指導教諭、周りの先生方、そして生徒の協力があってこそでした。この教育実習で学んだ数々の失敗も、いくつかの成功も、これから私が教師になるための指針を見つけてくれました。

これから教育実習へ行く人たちへ。教育実習ではいろいろな経験をすることになります。時にはつらい時もあるでしょう。それはプリント作りであったり、指導教諭とのやり取りであったり、いろいろなことがあなたたちに押し掛けてきます。でもあなたたちはそれらを覆すくらいの素晴らしい体験ができます。生徒と仲良くなったり、学校の雰囲気になじんだり。それにはあなたたちがしっかりと「意識」をもって教育実習に臨む必要があります。ぜひその「意識」をもって教育実習に臨んでください！



最後のホームルームにて

教育実習を終えて（社会）

横浜市立南高等学校附属中学校 文学部歴史学科4年 小林 由莉

私は5月11日から29日までの3週間、横浜市立南高等学校附属中学校という学校で教育実習を行わせていただきました。この学校は母校ではなかったのですが、授業見学や教壇実習、学校の雰囲気など、とても新鮮で貴重な経験をさせていただきました。実習生は、私1人だけだったので、他の教育実習生との情報交換などはありませんでしたが、自分自身で考え行動し、わからないことがあったときは先生方に相談する時間を十分取ることができました。

実際の教育実習は1週間目に校務服務、学校経営、教育課程、教科指導、生徒指導、保健指導などいろいろな講話を聴く時間や授業見学をする時間が主でした。そして1週間目最後の日に、指導教諭の先生に声をかけていただき、そのまま2週間目、3週間目と教壇実習を行いました。

講話では、生徒指導や保健指導といったことも学ばせていただいたのですが、南高等学校附属中学校は横浜市でも有名な公立の中高一貫校でありましたので、この学校でなければ教えていただけなかったような高い学力、人間性を育成するための教育課程や指導のあり方など、貴重な話を聴かせていただくことができました。

教壇実習では、教師は頭の中の引き出しが多くないといろいろな授業ができないのだと改めて実感しました。私が、授業見学を行った中で、1学年の生徒たちは意見を活発に交換し合うことができる様子であったので、自分の担当する授業でも、グループに分かれて意見を出し合いながら進めていくというアクティブラーニングを意識した授業にしました。しかし、生徒1人ひとりが自分なりに考えて発表した意見が多く出てくるからこそ、教師はアンテナを張って1つ1つの意見を授業の内容に結び付けていく技術を身に付けていかなければならないし、そのために教材研究の時間を十分取る必要があるのだと実感しました。しかも、生徒から出てくる意見はクラスによって様々です。それを全て拾い、授業

の中に取り入れていく技術は、指導教諭の先生の授業から教えていただくことができたので、とても幸せでした。

3週間という短い教育実習の中で、全体的に学んだことは、アクティブラーニングを意識した授業方法もそうですが、教師は自分の発言や行動にどれほど気を使わなくてはいけないのかということです。それは授業だけではなく、ホームルームや放課後などの生徒たちと関わる時などももちろん含まれます。同じ意味合いの言葉でも、生徒によって受け取り方が異なり、また、生徒のその時の気持ちでも変わってくると思います。生徒を評価する際でも、その生徒だけを評価するのか、周りの生徒にも「この子のようにできるといいね。」と、全体に呼びかけるような評価をするのかで、授業の雰囲気や生徒の感じ方は変わってきます。

教育実習を終えて、教師という職業がどれほど大変なものか、身をもって知ることができました。しかし、教師としての仕事を生徒という立場と教師側の立場から知ることができたからこそ、やはり教師になりたいという気持ちが強くなりました。今回の教育実習では、これから教師になる上での課題を多く指摘していただいたので、これからも勉強を続けていき、教師になるという夢を叶えたいと思います。

これから教育実習に行かれる方は、時間を大切にして、教材研究や授業準備などを徹底して教育実習に臨んでください。教育実習の期間は大変です。大変ですが、生徒たちの貴重な学習時間をお借りすることになるので、笑顔で充実した教育実習を行うことができるように頑張ってください。



教育実習を終えて（商業）

香川県立高松商業高等学校 商学部マーケティング学科4年 榎田 悠

1. はじめに

私は6月8日から6月19日までの2週間、母校である香川県立高松商業高等学校にて教育実習を行わせて頂きました。ホームルームは1年2組を担当し、実習科目はホームルームのクラスにて簿記を担当しました。教壇実習は、実習2日目から全部で9回経験しました。また教壇実習以外の空き時間を利用して、担当の先生や、高校時代に習った先生方、また他の教科の先生方の授業参観をさせていただきました。また、教壇実習以外の時間で生徒との関わりを持てるよう休み時間にHR教室に行ったり、担当クラスの授業参観に行ったり、清掃の時間を利用して自ら積極的に話しかけ担当クラスの40人全員と話すことを目標に教育実習に取り組みました。

2. 実習前の準備

実習開始の2週間前である5月24日に担当の先生と授業の事前打ち合わせを行いました。そこで、教科書、問題集等の教材を受け取り、担当する教科書の範囲と授業の進め方、研究授業をどの単元で行うかを話し合いました。打ち合わせ後、渡された教材を基に、2週間の授業計画を立て教材研究を行いました。授業構成を考えるにあたり、1年生は簿記を習い始めたばかりで簿記に対して馴染みがないためイメージし易いよう、身近な例え話を授業に取り入れられるように心掛けました。また、どのような部分に生徒が疑問を抱くのかを考えながら授業を構成しました。

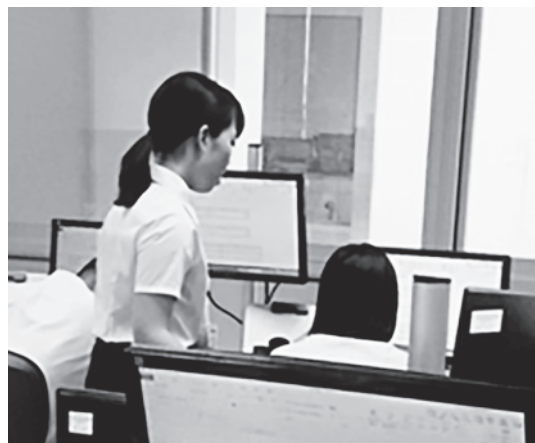
3. 教壇実習

教壇実習では、1年生の簿記を担当させていただきました。教育実習2日目から9回にわたる教壇実習でしたが、授業を行うごとに改善点を見つけては次の授業に生かすという繰り返して授業改善に取り組みました。1回目の教壇実習は非常に緊張しており授業をすることに必死となり、生徒観察が十分にできませんでした。机間指導を行なうと生徒たちの作業速度の違いや理解力、集中力にばらつきがあることが分かりました。説明が多い一方的な授業をしてしまうと、生徒が退屈し集中力が切れてしまいます。そのため、生

徒に対して積極的に発問をして生徒主体の授業を行うことが授業への集中力を高めるポイントであると感じました。

また、理解力にばらつきがあるため演習時には机間指導を多く行い個別に質問を受けるようにしました。個別に質問を行うことで生徒とのコミュニケーションを積極的にとることを心掛けました。全員の作業が終わるのを待っていては場伸びをしてしまうため、聞かせる時間と演習をさせる時間のメリハリをしっかりとつけることも重要です。授業の準備は事前に全授業分行って教育実習に臨みましたが、それでも教壇実習を行うごとに改善点が出てきて大学の模擬授業とは違う現場の厳しさを実感しました。

研究授業では、高校時代に習った先生方や商業の先生方、教育実習生が来てくださり緊張しましたが、生徒が積極的に発言してくれ、コミュニケーションをとりながら授業を進めることができました。



4. 最後に

教育実習は、大学での模擬授業では味わえない緊張感を味わうことができました。授業としての知識だけではなく、生徒との信頼関係を築いていくことの大切さを感じました。良い授業をするためには、生徒とのコミュニケーションは欠かせません。そのため、授業をすることに精一杯にならず生徒観察がしっかりできるように事前準備を徹底的に行い自信をもって教育実習に臨めるようにしておくことが重要であると感じました。

教育実習を終えて（情報）

私立専修大学附属高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 千野 博司

私は6月1日から3週間、専修大学附属高等学校に情報科で教育実習を行った。教育実習では、担当クラスが1年C組、教壇実習では1年生のクラスを半数受け持つことになり、残りのクラスは授業補佐という形で実習に参加した。また、実習校では情報の授業を2時限続けて行う形式であることから、授業に参加できる回数も多く設けていただいた。早速、順を追って振り返っていく。



教壇実習

1週目では初日から朝の挨拶当番係だったこともあり、早めに出勤をした。私は1年多く大学へ通っていることもあり、1人を除いて他の実習生と学年が重なっておらず、初対面の実習生がほとんどで実習前は不安な気持ちが大きかった。だが、朝の挨拶当番で一緒になった実習生とはすぐに親しくなり、出だしは好調だった。その後HRでは簡単な自己紹介をし、1時限目から教壇実習が始まった。初回の授業ということもあり、クラスの雰囲気把握することにも意識しながら行おうとしたが、緊張と実践不足で思うように授業を行うことができなかった。最初の1週間はどのように授業を進めれば、私の思い通りの進行ができるのかを試行錯誤することで時間が過ぎていった。

2週目では、他の実習生も教壇実習が始まるとのことで、模擬授業の相互批評をするようになった。大学では模擬授業を知識量が元からある同学部の学生にしか行っていなかったが、実習では他の学部から来ている人もいたことにより、知識があまりない生徒に近い感想や指摘をもらうことができた。この指摘を活かして授業に臨み、1週目よりは良い授業が出来るのではないかと意気込んで教壇実習を行った。たしかにクラスによっては上手く授業を運ぶことができたが、あるクラスでは1週目に出した課題をやってこない生徒が多く、その生徒に対する対応が疎かになってしまう事態に陥ってしまった。その時は、

さすがに心が折れそうになり、指導教諭に本音を交えながら相談をした。ここで指導教諭に指摘されたことは、「課題をやっている」ことを前提に練習をしていたようだが、「課題をやっていない」生徒がいることは当たり前という考えでいないと実際に対応ができないということだ。たしかに、私は模擬授業では課題をやっていることを前提として話を進めていたが、考えてみると学生の頃、課題提出の際に絶対1人はやってこない人がいた。そのことから、2週目では生徒への対応の仕方について改めて考えさせられる週間になった。

3週目では、月曜日の3限から研究授業を行った。研究授業のクラスはいつも元気が良すぎて騒がしくなってしまうことがあり、不安な要素が多くあったが、この日はとても協力的で授業終了10分前に行った単元のまとめでは、こちらが想定していた以上に発問が返ってくるなど、良い意味で想定外だった。その分、こちらのペースを狂わされてしまったことが、後の指導教諭と大学の教授との協議で指摘をいただくことになった。研究授業を通して、よく先生や教授から聞いていた「授業は生き物だ」という言葉の意味が理解できた。こちらが授業をコントロールするには、その日のクラスごとの雰囲気を読み、クラスの雰囲気に吞まれてしまわないようにすることが重要になってくる。これは経験を積まないと難しいことだ。3週目ではクラスのコントロールの改善をした。また、早々と研究授業が終わったこともあり、他の実習生の模擬授業を見てアドバイスをすると同時に、どのような言葉の言い回しをしているかなど、私にはない良い所をできる限り吸収した。

この教育実習を通して、先生方の仕事の大変さや生徒の実態を深く知り、今のままだと私には教師は勤まらないことが確認できた。今後、教師を目指すに当たって実習で得た経験と反省をどのように活かすべきかを考えながら、初心を忘れずに学び続けていきたい。



最終日1年C組の生徒たちと

教育実習を終えて（数学）

東京都立日野台高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 岩田 優理

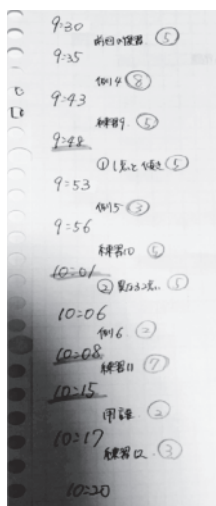
◎はじめに

私は5月25から6月12日までの3週間、母校である東京都立日野台高校において教育実習を行いました。実習科目は数学で、主に2年生を担当し、6組のHRを務めることになりました。実習が始まり最初の2日は中間テストであったため、生徒と関わることも授業を見学することもできず、教材研究のみを行いました。3日目から授業参観をし、2週目から教壇実習を行いました。私の教壇実習は全部で9回でした。

◎教壇実習について

私の教壇実習は2週目の月曜日から始まりました。最初の授業は同じ内容を指導教諭の先生が前の週の金曜日に別のクラスで行っていたため、それを模倣して、なんとか無事に終わらせることができました。しかし、2回目の教壇実習では自分の時間に対する甘さが現れ、時間内に範囲を終わらせることができず、先生や生徒に大変な迷惑をかけることとなりました。授業後、先生から厳しい指導を受け、私自身も自分の甘さに気づき深く反省しました。この経験を得て、私は時間に厳しく

なり、毎回問題の一問一問に細かく時間配分をするようになりました。さらに、それを簡単にメモ用紙に書き下ろし、授業中ではその隣に腕時計を置き、常に時間をチェックしていました。その結果、残りの教壇実習では1回たりとも範囲を遅れることはありませんでした。このようにささやかな工夫ではありますが、私は自分のミスを減らすことができました。



時間配分のメモ

◎生徒との交流について

私は2年6組のHRを担当しましたが、授業を担当することはありませんでした。そのため、毎日生徒と接する時間が少なく、なかなか仲良くなれずにいました。その環境を変

えたいと思い、私は生徒と仲良くなるために、自分のできることをしようと思いました。

実は教育実習の後半には合唱祭があり、各クラスは朝練や放課後練を行っていました。しかし、私は授業の準備に集中してしまい、6組の放課後練には参加していませんでした。そこで、私は頑張っている6組の生徒を応援するために、黒板には生徒への応援のメッセージを、クラス日誌には有名人の名言を書くことにしました。さらに、合唱祭前日は放課後練を最後まで見守り、当日は、舞台上上がる直前まで生徒と一緒に最終確認をしたり、緊張しないように話しかけたりしました。自分にできる精一杯のことをしました。

私の思いが伝わったのか、合唱祭が終わってからも、生徒からいろいろと話しかけてくるようになりました。最終日には花束や色紙などをもらいました。生徒と関わることは簡単ではありませんが、生徒は純粋で素直なので、自分が努力すれば、それ相応のものがはね返ってきます。今回の教育実習でもし最初から生徒と仲良くなれていたら、もっと楽しい教育実習ができたと思います。



生徒からもらった花と色紙

◎最後に

私は今回の教育実習を通して、先生として成長しただけではなく、社会人としても成長したと思います。大学に入ってからなかなか一所懸命に何かに夢中になることはありませんでしたが、今回の実習は大学生活の中で最も充実し、多くのことを学ぶことのできた3週間となりました。教育実習は簡単なものではありませんが、一所懸命になった分、後で楽しいと感じられます。その楽しさを感じられるように実習を頑張ってください。

教育実習を終えて（小学校）

市川三郷町立六郷小学校 文学部日本語学科4年 望月 聡子

私は1月18日から29日までの2週間、母校である市川三郷町立六郷小学校で教育実習をさせていただきました。担当学年は第2学年でした。最初の1週間は主に参観をすることになりました。全学年の授業を参観することができたので、学級づくりの工夫、子どもたちの成長などの違いを見ることができました。最後の1週間は、ほとんどを私の教壇実習の時間にしてくださったので、子どもたちの前で話すことに少しずつ慣れることができました。



まず、小学校では、中学校や高校と違い、全部の教科の授業を行わなくてはならないのでとにかく大変です。班活動を行わせる時もよく考えた上で行わないと、うまく機能しません。難しい言葉もまだわからないので、噛み砕いた言葉で発問・指示をださなくてはなりません。児童の実態や反応に合わせた授業を行い、さらに臨機応変に対応していくことも必要になります。そのためにはしっかりとした授業準備が必要だとわかりました。授業準備をしっかりと行うことで、自分自身も自信を持って授業に臨むことができますし、予想外のことがあっても対応することができます。自分の思うような授業はなかなかできませんが、良い授業ができるようにしっかり準備をすると良いと思います。

また、子どもたちと積極的にコミュニケーションをとることも大切です。私の学年は、とても明るく活発な子たちが多く、人見知りをする子がほとんどなかったのが、初日から

子どもたちと仲良く話すことができました。しかし、あまり積極的ではない子もいます。そのような子には自分から積極的に話しかけることで次第に慣れてもらえるように心がけました。

実習中、私はとにかく早く名前を覚えるように心がけていました。子どもたちも名前を呼んで話しかけると、「全員覚えたの!？」と言ってとても喜んでくれます。普段からコミュニケーションをとることで子どもたちが授業へ臨む意識・態度も変わってきます。子どもたちと交流を深めることで、一人ひとりに合わせた指導や対応もでき、信頼関係も築けてくるのだろーと思いました。さらに、子どもたちは、教師のことをよく見ています。普段は、大学生同士で過ごしているのでわからないかもしれませんが、実習中は正しい言葉遣いや行動をするように常に意識をして過ごすようにしてください。

最後に、私は2週間というとても短い期間でしたが、教壇実習はもちろん、校内研究会や授業公開日などにも参加させていただいたので貴重な体験から多くのことを学ぶことができました。教育実習の間は今までにないくらい忙しく、大変な日々だと思います。しかし、1日1日の変化や中身が濃く、あっという間に過ぎてしまいます。疲れていたり、落ち込んだりした時も子どもたちの毎日の笑顔や言葉、実習最終日の涙などを見ると「頑張ったよかった」と心から思うことができます。子どもたちとの毎日を大切に過ごし、充実した実習になるように頑張ってください。



中学校社会科 歴史的分野の授業の在り方について

商学部 兼任講師 齋藤 博志

1. 平成20年度版中学校学習指導要領解説 社会編から

平成24年度から中学校で実施されている学習指導要領は、生徒たちの現状をふまえ、「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視しています。

「生きる力」という理念は、これまでのものが継承されましたが、「方針は変わりません、方策が変わります」という表現がある通り、理念は継承され、具体的手だての部分で変更がありました。「ゆとりと生きる力」の教育改革は、一方で学力低下論議を呼び、大きな問題となりましたが、知識・技術の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視するという一方で一つの方向性を見出しました。こうした改訂の全体の基本的な趣旨を、中学校学習指導要領解説社会科編の「改訂の趣旨」で確認すると次のようになっています。「知識基礎社会化やグローバル化が進む時代にある今こそ、基礎的教養を培い、国際社会を主体的に生き、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することである。」（一部要約）としています。

そのために、中学校社会科の改訂にあたっての基本方針は、次の3点です。

- ① 基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得（基礎・基本の習得）
- ② 言語活動の充実（活用、思考・判断・表現等）
- ③ 社会参画、伝統や文化、宗教に関する学習の充実

中学校社会科では大きくこの3本の柱を立て、それぞれに即して各分野の具体的な改訂の措置が施されています。ここでは、主に歴史的分野を中心に見ていきたいと思います。

歴史的分野においては、我が国の歴史の大きな流れの理解を一層重視します。（これは従前と変わりません。）日本の十代の子供たちが、自分たちの国の歴史を大きくつかめて、自分の言葉で簡潔・明快に話すことができるようにすることが求められています。したがって、我が国の歴史の大きな流れがつかめることが重要になります。そのためには各時代の特色の認識が柱になります。そこで、大きな歴史の流れを理解するように学習内容の構造化（内容を階層的に構造化した）をし、それ

とともに焦点化していくことになりました。

2. 学校現場の現状と子供たちの意識

平成27年度、現行指導要領の実施は4年目に入りました。歴史的分野の学習は、3年間をかけて130単位時間が授業時数として配当されています。その実践が問われているところです。概ね歴史的分野単元計画では、3年生の6月ごろまでに歴史的分野を修了するところですが、なかなか計画通りに進んでいないようなところもあります。

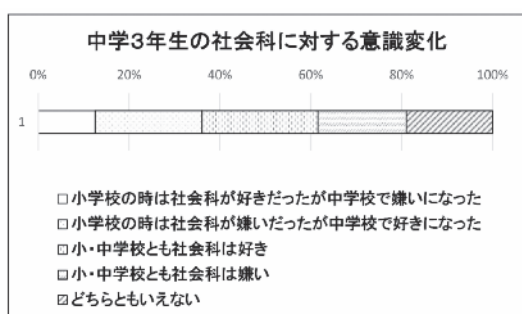
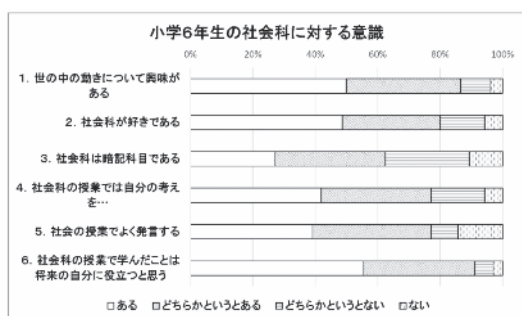
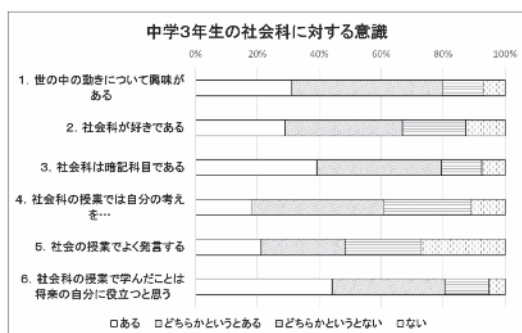
また、『我が国の歴史の大きな流れ』を理解する学習の一層の重視の中で、学習内容の構造化と焦点化を図ることになっています。それは、「歴史学習が、ややもすると個別事象の並列的な提示と記憶に傾いて、ひとまとまりの学習内容の焦点がつかみにくくなりがちである。」（「学習指導要領社会科編解説」より）という危惧からであり、現場教師に求められた課題でもあります。そして、『内容のすべての中項目で共通に「○○、○○などを通して、AがBであったことを理解させる」という表現を用いた。これは、各事項の学習を通してより大きな歴史の流れを理解させるように、学習内容を構造化してとらえるとともに、各項目での理解すべき学習の焦点を明確に示すようにした。』（「学習指導要領社会科編解説」より）と新たに歴史的分野の改訂の要点を示しています。

しかし、教師は、学習指導要領に授業で取り上げる学習内容が具体的に明示されていないことで手近な教科書に頼り、授業を展開しているケースがあります。学習指導要領は、社会科教師の柔軟な発想に期待しているところでしょうが、実際には社会科の授業を難しくしている一因かもしれません。やはり、教師自身が社会科授業づくりに構想力を働かせ、授業づくりを楽しくしていかないと子供たちも授業に参加してこないのではないのでしょうか。

教師自らが、しっかり学習指導要領を読み込み、自らの頭で我が国の大きな歴史の流れを子供たちに理解させるために必要となる歴史的事項を構造化・焦点化し、授業構成を真剣に考えて、実践していかないとこれまでの社会科授業のイメージを払拭できないと思われます。社会科教師の意識が問われるところ

です。

ところで、生徒たちは社会科をどのようにとらえているのでしょうか。そこで、小学校6年生と中学校3年生（八王子市2校合計319名）にアンケート調査をしました。（平成23年度の東京都教育研究員の研究で行った意識調査を参考に行いました。）その結果、研究員の調査結果と大きな差異はありませんでした。八王子市の子供の実態は次のようになりました。



ただし、小学生との比較をした場合、社会科に対する意識は、小学生の方が肯定的な評価が高く、社会科への取り組み意欲が高いように思われます。

また、中学生の社会科への意識変化をみると、学習が広がるとともに深まることで社会的事象の関連がわかるようになり、事象ごとの背景や原因などを追究する楽しさを感じるようになったという意見がありました。一方

で、中学校になると学習内容が難しくなり、暗記する事項も増え、多様な学習活動もないので社会科が嫌いになったとの意見もありました。小学生の社会科好きとして、調べ学習や新聞づくり、貿易ゲームのような体験的な授業があったことを理由にげている児童も多くいました。アンケートにおけるこのような児童・生徒の意見から中学校社会科の授業の在り方を検討するヒントが読み取れてきます。

3. 歴史的分野の授業を進める上で

歴史の授業は、生徒にとって社会科の中でも特に暗記科目として捉えられているところです。知識の習得は大切なことです。基礎・基本はしっかり身に付けさせなければなりません。だからといって、何はともかく詰め込みで繰り返し学習していくことで知識を身に付けることが良いのでしょうか。細かな知識や膨大な知識量は、いくら身に付けても一時のもので、課題に対処する力にはなりません。現代のように変化の激しい社会では、生徒に一定の知識や固定概念・既成概念を詰め込んでもすぐに役立たなくなったり、かえって柔軟な対応を妨げたりすることが考えられます。そこで、必要になってくるのが、教え込まれた知識ではなく自ら考えつかみとった知識です。つまり、試行錯誤を繰り返して得られた知識・理解が必要となります。悩み考えつかみ取ったものが、わかることであり、次の学習の土台であり、基礎・基本となると考えます。

歴史を学ぶということは、社会が変化することを前提としているわけで、これまでの歴史教育は、社会の変化そのものを取り扱いながら現実には社会を見ていく力、社会の変化に対応する力を十分育ててこられなかったように思います。つまり、歴史の授業が、年代や人物、歴史的事項などの断片的な知識の暗記に偏りがちであり、歴史的事象の意義や因果関係、時代の特色や移り変わりなど基本的な理解とそれに必要な歴史的な見方や考え方の指導が十分ではありませんでした。歴史学習の本来のねらいが、我が国の歴史を世界の歴史を背景に理解させ、各時代の特色と移り変わりや歴史的事象の理解を通して我が国の文化や伝統を理解させたり、歴史上の人物の学習

を通して自らの生き方を考えさせたりすることなどです。つまり、この目標を達成するための授業づくりが重要になります。

それでは、どのような歴史の授業を行えばよいのでしょうか。授業づくりについて、次のことを押さえておきたいと思います。授業をつくる上では、子どもたちが一時間の授業の中で、「何が分かるようになったのか?」「どのような分かりかたをしたのか?」「何ができるようになったのか?」が、分かる授業を目指す必要があります。そのような中で、一斉授業のスタイルでは、とすると教師の独り舞台になり知識注入型の授業に陥りやすくなります。また、教師は、知識量で生徒に対して圧倒的に優位に立っていますから知識注入型の授業の方が楽です。しかし、上記のような授業においては、生徒の変化の要素をすべて加味することが出来ません。

そこで、教師は、学習内容に応じて一斉授業やグループ学習、少人数指導など多様な学習形態を選択する必要があります。さらに、体験的・作業的学習や問題解決的な学習などを意図的に取り入れ、生徒が常に受け身にならないようにする工夫が重要です。

授業における言語活動の充実が求められる中で、グループ学習を例にとってみたいと思います。グループ学習は、かつて生活班（6～7人）ごとに行われることが一般的でしたが、現在は4人ぐらいで男女のバランスも考慮されています。課題発見や追究のための資料を配布することはよく行われることですが、課題追究のためには生徒自身に資料を探させることもとても意義があります。また、資料を活用するに当たっては、生徒みんなが共通して発見するものとみんなが気付かないもの（個別の違った見方）を尊重することも大切です。また、発問に当たって、例えば、絵図を見ながら「これは何か分かりますか?」という発問でなく、「どこが気になりますか?」とか「他のグループと重複しないようなところを探してください。」という形で問題のすり替えを行うことで生徒の学習意欲を高めることも可能となります。さらに、生徒の個々の力を伸ばすためには、答えを考えさせるために視点を変えてみることも必要です。例えば、年表を使って次のような質問をします。年表自体は、変えられるものではあ

りません。しかし、個々の生徒に「〇〇時代の出来事ベスト5は何ですか。なぜ、その5つを選んだのでしょうか。理由を教えてください。」とすれば生徒ごとの視点の違いが少なからず浮き彫りになります。

多様な学習活動によって、子どもたちは単純な繰り返し学習をするのではなく、歴史的事象を多面的・多角的な思考でとらえ、歴史的事象を理解し、知識として獲得していくことが円滑に行えるようになります。

4. まとめ

社会科の目指すところは、単純なもの知り博士を育てることではありません。自分の考えを論理的に組み立て、それを人に伝えられることであり、人とのコミュニケーションの中で自分の考えを深め、自分も含め社会のために行動していく、そのような公民の育成です。つまり、社会科の目標にあるように「公民的資質の基礎を養う」ことです。また、言い換えれば、社会科は人間の社会の仕組みを学ぶ教科です。現代は民主的な社会ですから、私たちはその仕組みをしっかり学ぶことが重要です。と同時に、そのような社会をより良くするために私たちがすべきことを考えていくことが必要です。この二つを社会科で行うことが大切です。

中学校時代は、友達との間で他者との関係を成立させ、他者と共によりよく育っていく大事な時期です。また、それを授業で育てていくことが必要です。

中学校社会科では、「人と人」「人と社会」「人と環境（自然を含む）」「人と時間」などこれらの関係性（事象と人物、時代の比較など）をどのように問っていくかが、社会科の本質です。その本質を追究するためには、一問一答式の授業ではだめです。社会科教師は、「生徒がよく考えた末に分かった」と言える授業を創り出すことを使命として日々の授業実践をすることが求められています。

最後に、これから社会科教師を目指す学生の皆さんには、これまで経験した社会科授業のイメージにとらわれず、「公民的資質の基礎を養う」という社会科の目標を達成する授業づくりを考え、実践できる教師になってほしいと望みます。

学校における教育課程の編成

商学部 兼任講師 松岡 路秀

1. 教育課程とは

教育界で使われている「教育課程」という用語は、その使用例や意味している内容を見ても、必ずしも一義的ではないのが実態である。教育課程の定義としては、「一定の教育目的・目標を達成するために、人類が蓄積してきた文化遺産の中から児童・生徒の発達に即して、選択され構造化されたもの（例えば各教科の「教育内容」など）それ自体と、それを教師の指導のもとで組織的・計画的に児童・生徒が学んでいくプロセス（例えば年間指導計画や授業時数、週時間割表など）とを総称したものである。」（山崎準二『教育の課程・方法・評価』より）が、学校現場としては最も理解できる。

もう一つ同じように使われている用語に「カリキュラム」があるが、英語の「カリキュラム（curriculum）」の訳語が「教育課程」である。その「カリキュラム」は、ラテン語の「クレーレ（currere）＝本来＜走ること＞とか、＜競技場のレース・コースの意味＞」を語源としている。この用語を教授・学習過程に適用すると、教授・学習過程の軌（わだち）や方向づけられたコースをたどって走ることがカリキュラムとなる。この意味で、英語ではカリキュラムを「コース・オブ・スタディ（course of study）」という場合もある（林尚示『実践に生かす教育課程論・教育方法論』より）。

そして、日本では、そのコース・オブ・スタディにあたるのが、「学習指導要領」であるとされている。その学習指導要領では、総則において「教育課程」のことを、「学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に即して、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である。」と定義している。



運動会のムカデ競走で伴走しながら応援

2. 教育課程の編成

学習指導要領第1章総則第1の1によれば、「各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階や特性等を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。」と、教育課程編成のあり方を規定している。そして、この学習指導要領が、国が定めた教育課程の基準なのである。

この規定に基づくと、教育課程編成の主体は学校である。学校が編成する教育課程の基本的要素は、各学校の教育目標の設定、指導内容の組織及び授業時数の配当である。各学校の教育目標の設定は、法律に定められた教育の目的や目標などを基盤としながら、地域や学校の実態に即した教育目標が設定されなければならない。しかし、学校の教育目標は一度制定されたら、何十年も変更されないのが常である。校長が交代して変更できるのは、学校経営方針とそれに基づく重点施策ぐらいで、これによって編成される教育課程が大きく変わることはない。

各学校における具体的な指導内容は、学校教育法施行規則及び学習指導要領にすべて規定されており、「各学校においては、これらの基準に従うとともに地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階と特性を考慮して指導内容を組織する必要がある。」と指示しているものの、各学校の自由度は極めて低い。授業時数についても、学校教育法施行規則に各教科の標準授業時間数が定められており、各学校はそれに従わなければならない。

学習指導要領には、各学校が創意工夫をして教育課程を編成することを指示しているが、現実的に学校が創意工夫できるのは、年間行事計画、校時表、週時間割表ぐらいである。

3. 実際の教育課程編成の創意工夫

私が2011～15年に校長を務めた神奈川県大和市立Y中学校の教育課程編成における、週時間割（週のコマ数）の創意工夫を紹介する。学習指導要領には、年間の授業週数は35週以上で、中学校の年間総授業時数は1,015時間で、授業時数の1単位時間は50分とする、と規定されている。年間総授業時

数（1,015 時間）を年度の授業週数（35 週）で割ると 29 となり、これが 1 週間の時間割のコマ数である。29 コマを 1 週間の時間割におとすと、月～金曜日のうち週 4 日は 1 日 6 時間の授業となる。もう一つの課題が、すべての教科等の標準年間授業時間数が 35 の倍数となっていないということである。第 1 学年の音楽と美術が 45 時間、総合的な学習の時間が 50 時間となっている。これでは必然的に年間を通して固定的な時間割を編成することはできない。

これに対して地域の実情として、大和市の中学校の場合、完全給食を実施しており、運搬・配膳・食事・片づけに 30 分の時間が必要となる。また、市教育委員会の重点施策である「読書活動の充実」から朝読書を、毎朝 10 分間実施している。これに 1 単位時間 50 分の授業を 1 日 6 時間で組むと、生徒は 8 時 40 分登校で、普通清掃を入れると帰り学活終了時間が 16 時 10 分となり、放課後の時間が十分に確保できないという課題が出てくる。放課後は、各担任教師が学級の生徒との貴重なふれあいの時間であり、中学生にとっては大事な部活動の時間なのである。教育課程の編成の大きな課題の一つが、放課後の時間確保であり、そのために週時間割の 29 コマを工夫する必要があった。

そこで、週時間割を 28 コマで実施する工夫がはじまった。Y 中学校は、前期・後期に分けて、時間割を A 週・B 週の 2 種類を交互に実施している。これによって、第 1 学年の音楽と美術の年間授業時数 45 時間と総合的な学習の時間の 50 時間をクリアーしている。前期 A 週が美術 2 時間、音楽 1 時間、総合 1 時間で、B 週が美術 1 時間、音楽 1 時間、総合 2 時間、後期 A 週が美術 1 時間、音楽 2 時間、総合 1 時間で、B 週が美術 1 時間、音楽 1 時間、総合 2 時間である。

週 28 コマの実施は、A 週時間割では月・金 5 時間（普通清掃をして帰り学活終了時間が 15:10）、火・水・木 6 時間（軽清掃で同 15:50）とし、B 週時間割では月曜日 5 時間、火・木 6 時間、水・金の 6 校時目に総合を分割して（各授業時間 30 分間）入れることで（普通清掃ができて同 15:50）、放課後の時間確保を生み出した。校内美化のためには普通清掃が必要なため、総合を分割して実施し、放課後の時間を生み出したというのが、Y 中学校独自の創意工夫である。

その他として、学校行事等実施のため年間授業時数 1,015 時間を確保することは容易ではなく、大和市では 2008 年度から夏季休業を 2 日減らし、2014 年からは夏季休業をさらに 3 日減らして、授業時間の確保に努めている。

4. 終わりに

学校における教育課程編成のあり方をまとめると次のようになる。教育基本法や学校教育法をはじめとする教育課程に関する法令に従い、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動についてそれらの目標やねらいを実現するよう教育の内容を学年に応じて、授業時数との関連において総合的に組織した教育計画として、生徒の人間として調和のとれた育成を目指して、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階を考慮して、各学校が創意工夫をして編成することになっている。

Y 中学校の教育課程編成の例でもわかるように、学校での創意工夫の自由度は極めて低いのが現実である。しかし、各学校、一人ひとりの教師は、生徒の成長を願って、生徒にとっての最大の利益を常に考え教育課程を編成し、日々の学校教育に励んでいる。教育の結果というものは、すぐには現れないが、“子どもの瞳の奥の輝きを信じて”（昭和 22 年版小学校学習指導要領の策定者の一人で、「社会科の初志を貫く会」の理論的指導者である重松鷹泰先生が私に授けてくださった言葉）邁進されることを願ってやまない。



修学旅行で生徒を引率（奈良・東大寺大仏殿）

実践研究者として歩む

商学部 兼任講師 松岡 路秀

教職課程

1. 社会科教師への道

私は地理が好きだ。幼少のころから地図帳を見るのが好きで、いつしか“地理教師”をめざそうと思うに至り、専修大学文学部人文学科に入学した。2年生から地理学コースを専攻し、農業地理学の新井鎮久先生の指導の下、卒業論文「南九州笠野原台地における大規模畑地灌漑事業の効果」をまとめた。その一方で教師になるために教職課程を履修した。当時の専修大学には1年生にクラス制度があり、その担任が教育学の佐藤英一郎先生（故人）であった。佐藤英一郎先生はフランス教育史が専門であったが、社会科教育にも造詣が深く、教職では佐藤英一郎先生に師事した。そして両先生のご指導のお蔭で、神奈川県の中学校教員として採用され、大和市の中学校に勤務した。卒業してまもなく、私は佐藤英一郎先生のお誘いを受け、先生主催の現職教員のための情報交換会、即ち「教育懇話会」に参加した。そこで出会ったのが蔭山雅博先生である。同懇話会における諸先生方との情報交換と研究交流は、私の研究心を掻き立てた。私が最初にした教育論文は、同懇話会の機関誌『教育学論集5号』に掲載された「中学校社会科における地歴並行学習についての考察」である。論文とは言い難いものではあったが、同懇話会の指導・助言のもとで書き上げた。自分の書き物が初めて活字となり、雑誌に掲載された喜びが、その後の教員人生を変えるきっかけになったのではないと思われる。

2. 新米教師の悩み

中学校社会科教師となり、日々授業をしていくなかで、一つの壁、悩みを抱えることになった。大学では地理学を専攻しており、授業に必要な地理に関する内容知については自信があった。私は得意になって社会科の授業に取り組み、特に地理の授業に力を入れたのだが、生徒の反応はさほど好評ではなかった。そこで気づいたのは学習内容ではなく、指導方法に問題があったのではないかということである。つまり、指導する内容は十分でも、それを中学生にどう教えるかという方法知が明らかに不足していることを痛感させられたのである。これは教員養成の「開放性」のデメリットの一つではないかと考えられる。

3. 現職教員としての大学院派遣研修

教員7年目のあるとき、現職教員が大学院で学べる内地留学制度ができたことを知り、早々に応募して、上越教育大学大学院に派遣されることになった。大学院では迷うことなく教科教育（地理教育）を専攻し、自分の専門である地理をどう教えるのかという教授法を学んだ。修士論文は、地理教育専門の朝倉龍太郎先生に師事し、「発見学習による中学校社会科地理的分野の改善—単元“身近な地域”の場合—」をまとめた。多忙な学校現場を離れて2年間という時間をいただいたことは、非常に有意義な期間であった。もっとも衝撃的であったのは、「社会科の初志を貫く会」との出会いであった。大学院修了後、現場に復帰してからも、「社会科の初志を貫く会」には関わり続けた。しかし、「新しい民主的な社会を主体的に創造する人間は、子どもの切実な問題解決を核心とする学習によってこそ育つ」というその理念には共感していたが、系統学習中心で高校入試という現実には苛まれる中学校現場では、この理念を授業に生かすことはできなかった。



新井ゼミの相模川巡検の様子（右から3番目が筆者）

4. 実践研究者として歩む

教育研究の分野には、“学術研究”と“実践研究”とが存在する。学術研究は、大学の研究者が行う理論研究や教材開発があげられるが、それらは学校現場で実証されなければ、意味を持たない。それゆえに、学術研究者は、その協力者として現場教師の実践者を必要とし、実践研究者と呼ばれている。

大学院を修了し現場に復帰してからは、実践研究者として地理教育の実践研究をめざすことにした。上述の逆で現場教師が実践研究を進める上で、必要不可欠なのが学術研究者である。私は地理教育を専門とされる群馬大

学の山口幸男先生に師事し、先生が中心になって設立された現場教師の実践研究を中心に据えられた全国地理教育学会で活動することにした。

私の実践研究テーマは、最初が「シミュレーション教材の開発と実践」、次いで「巡検学習（ワンポイント巡検）の普及」であった。これらは山口幸男先生との共同研究としてまとめることができ、その研究成果を著書として公表することができた。

5. 学校現場の実態

学校現場は多忙である。中学校の現場教師にとっての第一は日々の授業実践あり、第二が学級経営・生徒指導であり、第三は部活動指導というのが現実である。そこに研究は入っていない。確かに、学校現場でも文部科学省・県教育委員会・市教育委員会からの研究指定を受け、学校を挙げての校内研究は行われている。しかしそうした研究はそう多くないし、研究指定期間が終われば終了で、継続性はない。また、市町村単位で教育課題別、教科別などの教育研究会が組織されているが、研究会とはいえ内実的には研修レベルである。その組織は都道府県・全国組織まで繋がっているが、そこで活躍する教師も限られている。つまり、学校現場に個人研究ましてや教科教育研究を奨励する雰囲気はない。研究より、生徒指導をがんばる教員、部活動に一生懸命な教員の方が認められるのである。その意味で、教科教育の実践研究者として生きてきた私は、肩身の狭い思いをしてきたというのが、今の学校現場の現実である。

しかし、教員人生の一生を考えたとき、自分の専門性、一所懸命頑張るものを持つことが絶対必要である。それが生徒指導でもよい

し、部活動指導でもよいのであるが、私の場合は教科教育の実践研究であったのである。

6. 教職をめざす学生諸君へ

文部科学省は、教員志望者用のパンフレット「教員をめざそう！」で、「教育は、自立した人間を育て、個人の能力を伸ばすとともに、国家や社会の形成者である国民を育成する役割を担っている。個人が幸福で充実した生涯を実現し、また我が国が一層の発展を遂げ国際社会に貢献していく原動力となるものは、教育をおいて他にはない。」と教育の役割を示している。また、「教育は家庭や地域社会でも行われますが、特に学校は教育における中心的な役割を果たしている。」と、学校の役割も示している。そして、そうした役割を持っている学校教育を担うのは教員であり、従って教員の仕事は責任が重く、同時にやりがいも大きいこと、さらに子どもたちの成長を間近に見ることができる仕事であり、それが教員の一番の魅力でもある、と「教職の意義・魅力」を説いている。

教師の仕事は、このような魅力ある、やりがいのある仕事ではあるが、「教育は人なり」といわれるように、学校教育の成否は教員の資質能力に負うところが極めて大きいのである。それゆえに、教員養成に際して、教員としての最小限必要な資質能力を身につけることが求められ、それを修めた者に専門職としての教員免許状が付与されるのである。そして、教員は子どもの教育にかかわる重要な仕事なので、採用されてからも、職務を十分に遂行できるよう、研修等により絶えず資質能力を高めていくことが求められる。

教職をめざす学生諸君は、このようなことを肝に銘じて、日々努力を惜しまず、邁進していくことが望まれる。

7. 結びに

これまでの教員経験と実践研究者として培ってきた研究成果を、後輩育成に生かしていきたいと考えている。また、私は教員になりたての頃、教科教育力不足に苦しんだが、この苦しみを後輩に味合せたくないという思いがあり、教科教育に重点をおいた教員養成を目指したいとも考えている。



社会科地理の授業風景

1、社会福祉施設

「どうして介護等体験を行うのですか。」

私が介護等体験を行った社会福祉施設で、とある職員の方から言われた言葉です。あなた達は教師になりたいのでしょうか、どうして、何を目的に介護等体験を行っているの。という意図の質問でした。一人一人の違いを認め、個性に目を向ける力を養うためであると、漠然と頭では分かっていたけれど、すぐに答えはせず、言葉を探すばかりで、結局答えたのは私の隣にいた他大学の人でした。そのとき私は答えられなかったことが恥ずかしくて、自分が介護等体験に対して如何に中途半端であったのかを思い知らされました。

私がお世話になった第8シルバー타운は、宿泊型の社会福祉施設でした。上手くコミュニケーションがとれるか心配だった心情とは裏腹に、入居者の方が気さくに声を掛けてくれたおかげで、自分からも一歩踏み込んで接してみようと思うことができました。体験内容としては、入居者の方と生活を共にすると同時に、配膳やモップ掛けなどの掃除もしました。

とても明るい人が多い印象でしたが、認知症の症状が重度の方が多く集まるフロアでは、初めましてのはずなのに「久しぶりね、元気だった？」などと声を掛けられ戸惑ったり、話しかけても言葉のやりとりが出来ないような方と、どのようにしてコミュニケーションを取ればいいのか悩んだりしたこともありました。

そんな折に、冒頭の質問を投げかけられました。“何を目的に体験を行っているのか”それまでは介護等体験の趣旨に対して、私自身そこまで重視していませんでした。しかしそれでは貴重な7日間を緊張感なく無駄に過ごしてしまうと気づき、そこから私は、一つでも多く体験から何かを得たいと思うようになりました。

接し方が分からなくなったときには、職員の方の対応や、入居者の方同士のふれあいを見る中で、話すだけがコミュニケーションをとる方法ではなく、時には静かに寄り添ったり、ただ話を聞いたり、手を握りふれあったりすること、コミュニケーションをとるためのひとつの大事なツールであると感じました。

そして嚥下や咀嚼が難しくなった方が飲んでいるとろみがついた飲料水を試飲させて貰ったりもしました。実際に一人一人に必要なものを、適切な方法で与えるという点でも勉強になりました。



2、特別支援学校

特別支援学校では知的障がいのある生徒が通う学校で体験を行いました。2日間しかない体験で自分は何を得ることができるのか、緊張と期待が混じり合って当日を迎えました。社会福祉施設と同様に、生徒と一緒に一日を過ごす内容で、食事もし生徒と机をかこみ共にしました。

知的な障がいを抱えている生徒ということで、どのように接すればいいのか不安な面もありましたが、社会福祉施設で得た経験を少しでも生かせたらと思っていました。しかし実際にふれあった生徒はみんな積極的に近寄ってきてくれ、一緒に過ごす中で、生徒の純粋さに心を打たれることが多かったです。

初めは何を言っているのか聞き取れなかった生徒とも、半日を過ごすうちに言いたいことが半分ほど分かるようになったり、何を訴えているのか分からなかった生徒とも、隣で体操をし、一緒に手をつないでグラウンドを走ったりすることで距離を縮めることができるようになりました。そして「あゆみ先生だいすきだ」といってもらえたときは言葉では言い表せないくらい嬉しかったです。

2日間を通して分かったことは、彼ら彼女らはとても喜怒哀楽がはっきりしているということ、そして言葉で何かを伝えるときにはニュアンスで伝えるのではなく、適切にはっきり伝えることが大切であるということです。また先生は生徒に対し、「では、次はなにしたらいいと思う？」というような質問を多く投げかけ、自分で考える力をつけさせている様子も勉強になりました。

3、最後に

介護等体験の趣旨・目的はとても崇高なものです。しかし私は7日間の体験を通して、それだけではなく、人が人に関わる上で大切なコミュニケーションのいろはを教えてもらったように思います。

1. 講演会を聞いて

(専修大学野球部監督 齋藤 正直 氏)

「覚悟」「責任」という言葉を真剣に受け止める時間になった。幼いころから、教師になることが私の「夢」であった。「こんな先生になりたい」「先生になったらこんなことをしたい」など、夢ばかり考えていた。しかし、教育実習など実際に教育現場に携わる機会を通して、頭の中の夢だけでは続けていけない現場だということを痛感した。それが何なのか自分の中で言語化されていなかったが、齋藤さんの講演を聞いたとき、はっとした。それは「覚悟」と「責任」であった。

齋藤さんはサラリーマンとして営業をしていた経歴をもつ、現在の専修大学野球部の監督である。営業の時に培った力は、監督になっても活かしたようだった。監督と教師、職種は違うが人を育てるという面では同じである。講演の中で、「相手を観察する」「いいところをたくさんみつける」「思いっきり褒める」ことが人を育てるうえで大切になってくると語られていた。人を育てるということはどういうことなのか、将来が教師であるにも関わらずあまり考えたことがなかった。人を育てることの「覚悟」「責任」とは何なのか。この講演をきっかけに考えていきたい。考えた上で、この先現場に立って、生徒と向き合っていくことが必要だろう。そして自分自身もともに成長し、相互に学び合えるような教育現場をつくっていきたい。

2. 先生方のお話を聞いて 「教育の明日を語る～実践から語る喜び～」

4人の先生方が実践の場での経験を語ってくださった。みなさん、生徒のことを話するときの顔がとてもいきいきしていたことが印象的だった。「大変なこともある、しかしそれ以上に子どもたちと関わったときに喜びが感じられる。」これが4人の先生方に共通していることだった。特に印象に残ったのは、特別支援学校の教師であり、一児の母でもある先生だ。同じ女性として、とても気になる存在であった。お話しの中では仕事と家庭を両立させることの大変さが伝わってきた。それでも先生は「楽しい」と笑顔で、いきいきと語られていた。なぜか。それは働けている環

境、働くことを応援してくれる家族に「感謝」の気持ちを忘れていなかったからであった。先生の根底にはいつも感謝の気持ちがあるのだろう。ささいなことかもしれないが、どんな場においても大切なことだと改めて感じた。さまざまな環境の中で「働く」とはどういうことかということも考えることができる時間になった。

また、意見交換の中でこんな質問が先生方に投げられた。「授業と授業以外の校務の仕事、どちらの方が時間を割いているか。」この質問に対しほとんどの先生が、「校務」と答えられた。事実、自分が教師になっても校務をやる時間が増えるだろう。生徒会活動や委員会活動、部活動の顧問など、生徒とより深く触れ合う時間とともに、書類の作成のような机上の業務など生徒と直接関わることのない仕事もあるだろう。しかしこれらも生徒との信頼関係ができた上でやらなければいけないと思った。信頼関係を築くためにはやはり、授業がベースになってくるはずだ。授業以外の時間が増えても、自分の中で何を大切にするのか忘れず心においておきたい。



3. 最後に

「教育に向き合うとはどういうことなのか」「教師のあるべき形」などをお話される中で、現役の先生も日々悩みながら、考えながら生徒と向き合っていることが感じられた。不安を抱えた一学生として、少し安心すると同時に、悩み続ける覚悟を持つことが必要だと思った。それでも、先生方の語られている姿、笑顔を思い出し、教師を目指していきたい。そして、先生方のように、生徒をよくみて、生徒について熱く語れる教師になりたい。

はじめに

教職実践演習とは教職課程の総仕上げとして、多くの学生が教育実習も終える4年後期に行われる科目である。私は神山安弘先生の講義を履修した。この講義のねらいは日々刻々と変化する社会に連動して変化する学校現場の課題にどう対応していくか、それをみんなで考えることにある。講義は前半で教育課題を一つとりあげ、それについて自分の考えをまとめ、後半でグループに分かれ、互いの意見を述べる。最後は全体で発表し合い、先生とともに課題への対応等を確認する、という流れで行われた。

とりあげる教育課題は、学級経営や教員の資質など「教師が普遍的に向き合う課題」から、暴力行為の増加や貧困率の上昇など「近年の社会情勢に応じて対応が求められている課題」まで様々であったが、特に後者について考える際に、現在ボランティアで訪問している研修校の実態と重なる部分があった。

実践演習での学びと研修校で見た実態

私は今年度、一年間を通して中学校に研修に通っており、授業見学や授業補助を通じて学校現場を見させていただいている。長期間にわたるこの研修からは教育実習という短い期間だけでは学べなかった生徒の成長や実態、教師の対応について多く学びとることができ、実践演習の中で扱う毎回のテーマはこの研修校で見た景色を常に思い起こさせるものであった。

例えば暴力行為やいじめは一口に問題行動といっても、校内で起こった経過だけを考えればいいわけではなく、家庭環境が複雑に絡み合っていることが多いことを実践演習のなかで学んだが、実際に研修校でも問題行動を起こす生徒は家庭環境が不安定であることが多い。またその家庭環境についても社会問題が複雑に絡み合っているため、学校と家庭だけで解決するのは難しいものである。実際、研修校の先生方も夜遅くまで対応に追われている。



私はこの講義で聞いた言葉の中で「家庭力や社会力に学校が負けていいのか？」が強く心に残っている。上記で述べたような問題は特に近年目立ってきた問題であり、現職の先生方でさえ、対応策を模索する毎日である。しかし、ここで問題の本質を知らないままにするのではなく、問題と正対し目の前にいる生徒から逃げないという意識を持つことが教師としてあるべき姿であるということを毎回の講義や実際の現場を見ていて強く思った。「今やっている教師の授業は3年後にはもう通用しなくなる」、「どういう子どもを育てなくてはいけないか、時代とともに変えなくてはいけない」という言葉も講義のなかで度々いわれてきたが、常にそのとき目の前にいる生徒と向き合う必要があることをこの講義を通して強く感じた。

しかし、教師として「学校を変える」、「授業を変える」という理想を空論にしないためにも地道な努力が必要である。ただでさえ忙しい学校生活の中で余分に時間を割かなくてはならない場面を数々見てきているからである。多忙化の中で理想を理想で終わらせないためにはどうすればよいか。それは、本講義において私が一番必要であると感じた「チーム学校」という考え方であり力である。私は研修校にももう10カ月近く行っているが、生徒の実態について知ったことの多くは「生徒を見て」ではなく、「先生方から話を聞いて」である。学校が一体となり全生徒を育てている姿を実感している。

本講義の最後で、担当の神山先生が「自分のこれまでの経験というのは教育全体のほんのわずかでしかなく、生かそうとしても対応しきれないことだらけである」とおっしゃっていた通り、私たちが教師になったとしても、生徒の実態をすぐに見抜けるわけがなく、むしろ見落としてしまうことも多いと思う。そういったときに頼りにするべきなのはやはり「チーム学校」の存在であり、自分のために助けてもらったことが最終的には生徒のためにもなる。同学年の先生はもちろんだが、他学年の先生、管理職の先生方、さらには他校の先生など、より多くの人から情報を手に入れることが新任教師にとって一番必要なことである。この講義を通して思うことができた。教師として自ら学び続けることは当然であるが、今後学校現場に就き、様々な問題に直面した際は、「チーム学校」の意識をもち生徒のための教育を進めていきたい。

私は2015年10月から神奈川県立座間総合高等学校にて、教科研修生として毎週火曜日の2、3限目に参加させていただきました。

10月6日から初回が始まりました。朝の職員会議で自己紹介をさせていただきましたがとても緊張して自分の話したいこともうまく言えずに終わってしまいました。そのまますぐ2限目の授業に担当してくださった先生と教室に向かいました。生徒の雰囲気は「あの人誰？」というような感じでした。いきなり見ず知らずのスーツの人が先生と入ってきたら当然の反応です。緊張の中軽く自己紹介をして後ろで授業を見学させていただきました。次の3限目の授業でも同じように自己紹介をし、生徒が演習をしている中歩いて回っていると生徒から「先生！」と質問され、自分が先生と呼ばれていることに違和感と共に責任を感じなければいけないと思い知らされました。その時は質問されたことに答えることができたが、先生という立場で質問を受ける以上それにしっかり答えられる知識を身につけている必要があると改めて実感しました。

この研修期間中には先生のご厚意により本当に多くのことを体験することができました。まず1つ目は生徒の模範リーディングを行ったことです。授業で使われた文章を私が読み生徒が復唱するという体験をさせてもらって、声の大きさ、発音、スピードなど生徒に聞き取りやすくリピートしやすいリーディングを心がける大変さを身をもって

知りました。

2つ目は生徒の前で自分のことを話す機会をいただいたことです。テスト期間が明けテスト返却で残った10分程度を、自分の高校時代のことや高校時代にやっておくことなどをお話しさせていただきました。この機会をいただいたのは教科研修に慣れてきた12月だったこともあり、生徒の前でそこまで緊張すること無く自分が思うことや伝えたいことをしっかり話すことができたと思います。少しでも自分が話したことが生徒の役に立ってくれたらと思いました。

自分にとって一番貴重な経験となったのは生徒の前で授業をする機会をいただいたことです。担当の先生が良かったら授業をやってみませんかと提案してくださり、せっかくの機会なので喜んでお願いしました。時間は30分くらいで内容は何でも良いと言われたのでどんな授業をしようかと悩みました。自分にとってはこの悩んでいる時間とても充実した時間で楽しい時間でした。実際に授業になったら緊張して自分の思い描いているように進めることはできなかったのですが、生徒が積極的に発言してくれたのが自分にとってすごく励みになり、授業の中でも笑顔が見えたりしてとても充実した時間になりました。

10月から1月までの短い期間でしたが、私はこの教科研修で、現場でしか味わえないクラスの雰囲気など自分が高校時代に教室の席に座っていた時の雰囲気とは全く違ったものを感じ取ることができ、また、高校生に対しての授業の仕方、方法を間近で見ることができました。これらは今後の教育実習や実際に自分が教師になった時にきっと生きてくると思います。今回は、充実した機会を与えていただいた担当者の方々に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝の気持ちを忘れず、自分が教師になるという形で恩返しできるようにこれからも頑張っていきたいと思えます。



1. はじめに

私は、8月下旬から毎週水曜日の午前中に川崎市立三田小学校でボランティア活動を行っています。学校ボランティアを始めた理由は、教師を志す身として、少しでも多くの経験を積みたいと考えたからです。

教員に最も必要とされる事として、児童生徒理解が挙げられます。児童生徒の心理等を理解していくためには、経験、実践が必要不可欠です。したがって、私は、児童生徒を理解していくために、児童生徒とどのように接していけば良いか、教員の役割とは何かということ、学校ボランティアを通し、実際の教育現場において考えていきたいと思いました。



二年生授業風景

2. 活動内容

私は主に、1時限目から4時限目まで普通級に入り、授業の補助を行っています。具体的な内容としては、授業についていけない児童や、落ち着きがなく集中できない児童のサポートをしています。教員1名に対し1クラス児童30名程、45分の授業で個々にコミットすることは難しくなります。なので、私は、授業が滞りなく進むように、先生方の手が回らないところをサポートし、児童に助言等を行います。児童に助言等を行う際は、児童が理解できるよう、簡潔かつ分かりやすい言い回しが求められ、児童の発達段階を考慮することが重要だと思います。

3. 学校ボランティアを通し学んだこと

学校ボランティアを通し、学んだことは多々ありますが、そのうちの3つを取り上げたいと思います。

1つは、児童生徒との接し方において、適切なタイミングで褒めること、また、叱責することの重要性です。私は児童生徒の成長にあたって、とにかく褒めることが大切だと思っていました。しかし、褒めた後に「じゃあ、これでいいや」と終わりにしてしまう子がいたのです。このことから、私は褒めるタイミング等を間違えると、児童の向上心を失くす結果につながるということを学びました。また、褒めるだけでなく、時には叱り、間違いに

気づかせることも児童の成長において重要であるということに、先生方の指導を目の当たりにして気付くことができました。

2つ目は、教育現場において、教師自身が学び続け児童生徒のニーズに応えていくことが肝要であるということです。私は学校ボランティアへ行った際、児童達から「先生」と呼ばれます。このことが意味するのは、児童生徒にとって、素人だろうがベテランだろうが同じ「先生」であるということです。中途半端なことはできません。ボランティアだから、まだ新人だからではなく、児童生徒たちのために何ができるのか、何を求められているのか常時考え学び続けなければならないと思います。

3つ目は教員の役割とは何かということです。このことはこれからも考えていかなければならないことだと思っています。ボランティアを通し現段階で私が思う教員の役割とは、児童生徒が成長していくためのサポートをすることです。学校生活において、主体は児童生徒です。その児童生徒が個性を活かし、主体的に活動できるような学校づくりが大切であり、そのために教員はサポートをしていく役割を担っているのだと感じました。

4. おわりに

私は、高等学校の教員を目指していますが、今回ボランティア活動をさせていただいたのは小学校です。それでは意味がないのではないかなと思う方もいるかもしれませんが、確かに、児童生徒の発達段階や授業内容は大きく異なってくるでしょう。しかし、小学校、中学校、高等学校など問わず主体は児童生徒であり、教員は児童生徒の個性を活かし授業を構成し、サポートしていくということに違いはありません。したがって高等学校の教員を目指しているから、小学校や中学校での活動では意味がないというわけではありません。学校ボランティアを行うことによって、大学の机上の学問では到底知りえないことを知ることができ、また新たな発見があり、考える契機となります。

私はボランティアを通し、児童や先生方と関わることで、教員になりたいという思いがより一層強くなりました。



休み時間の校庭

私は、昨年度から専修大学附属高等学校で国語科を担当しています。私が教員として生きていくことを決めたとき、高校時代の恩師から「良い教師の条件は、自己充足することなく、生徒との関わりの中で自らを高めていく自己研鑽の努力を永く続けていくことだ」という言葉をいただきました。今回このような機会をいただいたため、この言葉について考えながら、短い教員生活の中で意識できていることを、失敗も含めて書いてみようと思います。

自己充足しないということは、常に最善を求めて変化する余地を持つことです。いたずらに変化だけを追い求めて何も定着しないのは本末転倒ですが、自身のやり方に安住してしまうことはそれ以上に避けねばなりません。しかし、私にはそれを徹底できていないことがありました。

大学院で近代文学を専攻していた私には、古文や漢文よりも現代文を担当する機会が多くあります。その中でも、高校現代文の定番教材である芥川龍之介の『羅生門』は、講師時代から数えて3年連続で扱ってきました。内容はともかく、『羅生門』は慣れ親しんだ作品だと言えます。ところが、この「慣れ」を授業に持ち込んでしまい、前年度に行った授業内容を検証することなくそのまま授業を行ってしまったことがありました。これは、自己充足以外の何物でもありません。

従来と同じようなアプローチで作品を分析し、同じようなテストを課す。これでは教員に成長はありません。教員が成長しないのでは、生徒に学習を通じて成長を促す資格はないでしょう。授業の内容も方法も、同じ教材であればあるほど注意深く検証する必

要があることに気付かされました。

私は国語科の教員のため、国語という教科は特殊だと思っています。特に現代文は、日本の多くの土地で一般的に用いられる言語をそのまま使用するため、外国語科目のように言語習得の訓練をせずに読めてしまいます。古文であればその必要はありますが、「現在使用されていない言語である」という意識が根強いので、何のための学習なのかがわかりづらい教科だと言えます。国語がこのような教科である以上、生徒は「何となく」本文を読み、設問に対して「何となく」答えるようになってしまっても仕方ありません。

また、現代文は授業に関しても、他の教科と異なる点があるように感じます。授業は、ともすれば教員の人生観や経験に裏打ちされた「文学的な」解釈を一方的に聞く、という展開になってしまいがちで、それは客観的な正しさとは異なります。テストも、本文から読み取れることよりも授業を聞いているか（＝教員の言うとおりに書けるか）を重視するものであれば、生徒が自分で考える機会は減ってしまいます。

それでも授業である以上、生徒はある程度は黙って聞いてくれます。ところが、これは教員の話が興味深いからではなく、ただ「生徒対教員」という権力関係が背後にあるからに過ぎません。その関係に無自覚なまま自分の授業内容を検証しなければ、ますます自己充足に陥ってしまい、生徒にもほとんど何のメリットもありません。

単純な知識量だけで比較すれば、多くの場合は生徒よりも教員の方が勝っているでしょう。しかし、思考の柔軟性はわかりません。恩師の言葉にある「生徒との関わりの中で」を実践するためには、教員が一方的に教えを授けるのではなく、対等な関係の中で相互に学び合うことが必要だと考えています。

教員には学ぼうとする意志が不可欠です。しかし、それは座学を怠らなければ良いということではありません。生徒との関わりの中にこそ教員が成長する機会があることを忘れず、毎時間の授業に臨む姿勢を持って行きたいと思います。



ディスカッションを通して生徒同士が学び合う

司書・司書教諭課程



「図書館情報技術論」 神田校舎の授業にようこそ

経営学部 兼任講師 廣澤 敏夫

1. まえがき

「図書館情報技術論」は2012年度より司書課程に新設された必須科目であり、授業は後期に生田校舎(一部)と神田校舎(二部)で実施しています。生田校舎は経営学部大曾根教授、神田校舎は兼任講師の私が担当しており、講義内容は講義要項^[1]に示すとおり、生田校舎、神田校舎とも同じ内容で進めています。

本科目の講義内容、教材、補足資料を取り纏められた大曾根教授の計らいで、講義・演習を進めるときに、両校舎の授業間で10%程度の「味付け」の差があります。

そこで、今後、図書館が新しい情報拠点(朝日新聞、2014年8月24日朝刊、19面記事)^[2]になったときに、来館者からの情報技術の質問に答えられるように、情報技術の原理・仕組みを身につけることを「味付け」にしました。

具体的には、先ず「日常、テレビ、新聞に出てくる情報技術の関連用語を、家族に分かりやすく説明できるようになること」です。例えば、スマートホンを購入したときに、サービス窓口の担当者から「あなたのネットワークアドレスは192.168.0.0、サブネットマスクは255.255.255.0です」と言われたときに、その原理・仕組みを知っていれば、「なーんだ。簡単だね」となります。

2. 講義要項と使用教科書の対応

2.1 講義要項

本講義の講義要領^[1]は、文部科学省「これからの図書館の在り方検討協力者会議」の「報告書」(2009年)^[3]の内容を網羅しており、次の15コマで構成しています。

(1) オリエンテーション、情報技術と社会、図書館の業務、(2) 情報の表現、(3) ハードウェアの仕組み、(4) ソフトウェアの役割、(5) データベースの仕組み、(6) ネットワークと情報システム、(7) 授業内レポート、解説、(8) 検索エンジンの仕組み(演習)、(9) 図書館における情報技術活用の現状(演習)、(10) ホームページによる情報の発信(演習)、(11) コンピュータシステムの管理、情報セキュリティ、情報倫理、(12) コンピュータとネットワークの歴史、(13) デジタルアーカイブ、電子資料、電子書籍、(14) 図書館業務システムの仕組み、最新の情報技術と図書館、(15) 授業内レポート、総括。

この講義内容は、情報技術[(3)~(6)、(11)、(12)]を学習し、人間活動を含む図書館情報システム[(1)、(13)、(14)]を学習します。さらに、3回の演習[(8)~(10)]を実施します。したがって、図書館業務への情報技術の関わりを学習するともいえます。

2. 2 教科書の対応

専修大学経営学部経営学科の「情報システム入門」科目では、レストランシステムを題材とし、人間活動を含む情報処理の基本を学ぶ教科書、「コンピュータ概論—情報システム入門—」^[4]が採用されています。その教科書は、当科目講義要項の情報技術[(3)~(6)、(11)、(12)]と情報技術と社会[(1)]を包含しています。そこで、その教科書が採用されました。図書館情報システム[(13)、(14)]は専修大学図書館を題材にして一般化した教材を準備し、演習[(8)~(10)]は新たに講義・演習用の教材を準備しています。

3. 神田校舎の「味付け」

近年の「原理(基礎)・仕組み」を理解することよりも「使い勝手重視」の風潮に危惧しています。一方、「まなぶ」は「まねる」から派生したと言われています。そこで、この講義では、(1) 例題を皆で解きながら、コンピュータの仕組みを基礎から学習する、(2) 演習では、例題をもとにして受講生同士が教え合って課題を解決することになりました。これらは、神田校舎の受講者数が25名と少人数であることから可能と思っています。この授業の進め方を神田校舎の「味付け」にしています。

3.1 教科書「コンピュータ概論」の特徴

この教科書^[4]は、経営学部、ネットワーク情報学部専任教員が執筆した情報基礎教育の教科書です。

この教科書の「まえがき」で、情報処理基礎よりも人間活動を含めた情報基礎教育を目指して構成した旨が述べられています。しかし、コンピュータの基礎・仕組みを疎かにしていません。第3章~第7章はコンピュータの基礎・仕組みを理解できるよう詳細に記述されています。

また、この教科書の特徴は多くの参考文献が各章ごとに載っていることです。したがって、受講生にとって、この教科書が社会人になっても、必要なときにいつでも活用できる

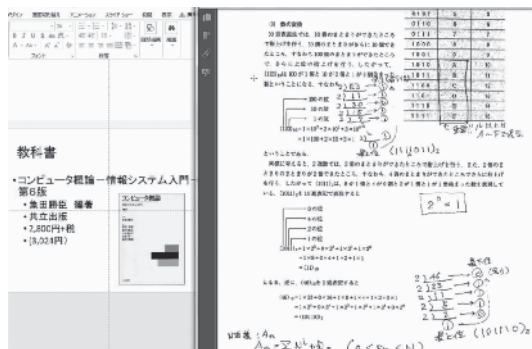


図 1

ようにすると良いですね。

3. 2 教科書のマイブック化

その1つのやり方が、教科書のマイブック化です。マイブック化とは、その字句のとおり、教科書に自分用の図表、メモを書き込んで、自分用の教科書に仕上げることです。

図1は教科書に自分用のメモを書き込んだ例です。皆さんは「なぜこんな面倒なことをするのか」と思われるでしょう。教科書に限らず、自分が書き込んだ参考書や資料類は愛着がでます。さらに、皆さんには、本講義を履修するための教科書で終わらせることなく、社会人になってからも活用して欲しいのです。ノート類やメモ帳は年月が経つにつれ、部屋の片隅に追いやられ、そのうちに廃棄されてしまいます。

本講義では、このマイブック化のメリットを享受するよう、「授業内レポート」は教科書の持込みを許可しています。一方で、ノート類や参考書の持込を禁止しています。したがって、マイブック化した学生にメリットがでます。

本講義では、(1)教科書の読合せ、(2)補足教材(講義補足スライド)、(3)板書、を組合せて進めます。特に、第4章「情報の表現」～第7章「ネットワークと情報システム」では、例題を皆さんと一緒に解きます。これによって、コンピュータ内は、情報が0と1の組み合わせで表現されていることを理解でき、192.168.0.0のネットワークアドレスの意味や、電子メールで使用される文字コードの種類、画像データの表現方法を理解します。

授業中はノート類にメモして、後日、復習をかねて教科書に書き込んで、「授業内レポート」に臨んでください。

3. 3 受講生同士の【教え合い】

本講義では、端末室のパソコンを使用して3回の演習を実施します。その演習では、例題をもとにして受講生同士が教え合って課題を解決します。

図2は「ホームページによる情報の発信」演習で実際にHTML(Hyper Text Markup Language)を用いて自己紹介のホームページを作成する課題を完成した例です。

受講生同士で教え合いながら、例題のHTML文書を解説し、自分用のホームページを作成します。

4. むすび

以上、神田校舎の授業内容を紹介しました。コンピュータの仕組みを始め、なじみ難い講義ですが、受講生からは、(1)コンピュータの基本的な用語を理解していなかったの



図2

で、授業を通して色々なことが分かった、(2)毎回の確認テストが復習に役立った、の感想が寄せられています。

これからの社会人として求められるのは、知識を身につけているだけではなく、クリエイティブな能力を持った人間です。また、創造力は突然のひらめきではありません。バックグラウンドとなる知識があって、その上で実現したい目的のキーワードを常に頭の中にめぐらす。アイディアはこの中から生まれてきます。

平成26年度の資格課程年報で、千代原先生から「図書館の顔である[信頼できる話せる司書]が重要な存在になる」とのメッセージ^[5]のとおり、今後、図書館が新しい情報拠点^[2]になったときに中心的な役割を果たしてください。なお、人生は長いですから、勉強で疲れ過ぎないでください。今を元気で明るく、しっかり生きることで前途は開けてきます。

参考文献

- [1] 図書館情報技術論 講義要項
<http://syllabus.acc.senshu-u.ac.jp/syllabus/syllabus/search/SyllabusInfo.do?nendo=2015&kogikey=58740&setti=1>
- [2] 進化する図書館：朝日新聞，2014年8月24日朝刊，19面。
- [3] “これからの図書館の在り方検討協力者会議”「報告」，p.9，2009，
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/09/16/1243331_2.pdf](参照日 2012-03-15, 2015-08-14)。
- [4] 魚田勝臣(編著)，渥美幸雄，植竹朋文，大曾根匡，森本祥一，綿貫理明(著)，“コンピュータ 概論 一情報 システム入門一 第6版”，共立出版，2014。
- [5] 平成26年度専修大学資格課程年報，vol.17, pp.41-42, 2014。

図書館実習を終えて

足立区立中央図書館 文学部日本文学文化学科3年 森本 未祐

夏休み期間中に5日間、足立区立中央図書館で実習をさせていただきました。足立区には図書館が15館あります。そのうち14館は地域図書館と呼ばれ、指定管理になっており、今回実習させていただいた中央図書館は一部民間に業務委託をしている区直営の図書館です。よって、今回の実習では区と民間両方の視点を知ることができ、とても充実したものでした。時系列順に私がどのような実習を行ったのかをお話します。

初日は足立区の図書館と提携している東京電機大学の窓口でカウンター業務をしました。この窓口は図書館に来られない方の為に、図書館から離れた場所に設けられているものです。15館ある図書館の本が混ぜこぜに返却されるので、図書館ごとに分けて箱に詰めたり、予約本を棚から探し利用者へ渡したり、一連の流れを経験させていただきました。窓口業務の皆さんは愛想が良く、一人ひとりの利用者に対し丁寧に対応されていて、コミュニケーションの大切さを実感しました。



2日目は地域図書館調整係の方からお話を伺いました。ここは14館の地域図書館全ての選書を請け負っている部署です。データを基にした選書の流れや、選書した本をどのように地域図書館へ分けていくのかを説明いただきました。それから地域図書館である興本図書館へ行き、利用者を増やす為、どのようなイベントや特集を企画しているのか、日々の工夫をお話してもらいました。この日は元館長の方や、現館長の方から今後図書館をどうしていきたいのか、熱い想いを直接聞くことができ、非常に刺激を受けました。

3日目は資料の選定・発注から受入の流れ、障がい者サービス、ヤングアダルトコーナー、子ども読書推進事業を詳しく説明して

いただきました。その後、アプリを使ってのホームページ更新作業と書誌事項の入力を体験しました。こういった事を実際にさせてもらうことで、これからの授業でも作業がイメージしやすくなったと思います。

4日目は「はじめてえほん事業」を見学させていただきました。これは3か月健診に来た赤ちゃんに図書館から絵本をプレゼントし、読み聞かせをしてあげるというものです。健診を終え、少し疲れた様子だった赤ちゃんが、絵本を見ると手足をバタバタと動かして機嫌になったのが印象的でした。

5日目はレファレンス業務の演習をさせていただきました。参考図書を利用するアナログな演習は初めてで慌ててしまいましたが、書誌で調べるのは司書として基本とのことだったので、とても良い経験になりました。それから「見計らい」という書店が持ってきてくれた本を購入するかどうか決める話し合いに参加させていただきました。データや今までの経験則からテキパキと選書をしていく司書さん達が凄かったです。私も一冊だけプレゼンをし、本を入れてもらいました。最後に3歳以上の子どものおはなし会の様子を見学しました。普段ならば見学することができない場だったので、貴重な機会でした。

5日間の実習を通し、座学だけでは分からないたくさんのお話を学びました。それは技術的なことから、図書館で働く素晴らしさでもあり、はたまた図書館が抱える問題点を肌で感じる事ができたということです。図書館には様々な仕事がありますが、どの仕事も日々悩み、改善を重ねながら、利用者が「また来たい」と思えるような図書館づくりをしているやりがいのある仕事だということが分かりました。また、実際に図書館で働いている方達とお話できて、一層図書館に関わる仕事がしたいという気持ちが高まりました。

さいごに、お話した内容以外にも、実習では色々な経験をさせていただきました。密なスケジュールを組んでくださったことに感謝でいっぱいです。



■会社について

図書館流通センターは、総合的に図書館を支援する図書館専門の会社です。書誌データベース「TRC MARC」の作成をはじめ、図書館用書籍の装備（背ラベルやフィルムコート等）から納品までをワンストップで行うサービスや、図書館の運営業務などを中心に、運営・情報・環境・教育の観点から日本全国の公共図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館など、図書館のさまざまな業務に関わり、ニーズに沿ったサービスを開発・提供しています。



本社エントランスには、大きな本棚と共に音（KooNe）と香り（air aroma）を使った心地よい空間が広がっています。

■入社から現在まで

入社してから3ヶ月間で、人事部、経営管理室、図書館現場での研修を経験しました。人事部・経営管理室では、図書館を運営するということは、そこで働くスタッフの採用から育成、与えられた予算の配分管理などを行う必要があります。司書の仕事は本と関わることだけではないのだと思い知らされました。一方で、図書館現場で働いた際は、司書課程で学んだことがどんどん業務と直結してゆき面白みを感じました。座学で学んだ日本十進分類法も、なんとなくの分類を覚えていたのが「料理の本はどこですか？」とお問い合わせを受けるとすぐに「料理は家政学だから5類の棚だな」と自然に結びつけることができるようになり、知識が身に付いていくのを実感しました。又、絵本の読み聞かせなどの児童向けイベントはもちろん、歌謡曲のリサイタルなど一般向けのイベントも行いました。図書館には全ての分野の図書があります。その為、どんな分野のイベントを開催しても、関連図書を紹介して知識を深めていくことが可能です。人と知識を結びつけるきっかけを作ることも生涯学習施設である図書館の役割なのだと思い直しました。

現在は、サポート事業推進室に所属しており、主に全国で指定管理者として運営する図

書館についての業務を担っています。中でも私が担当しているのは、図書館で働くスタッフの研修制度設計です。図書館で働くスタッフの中には司書資格を有している人も、そうでない人もいます。しかし、図書館で働く以上、利用者からは司書としての知識が求められます。そこで、レファレンスや児童サービスなど、図書館司書に必要な様々な技能について研修を行っています。また、実際の図書館業務では、司書課程で学習した以外のスキルも必要になってきます。例えば、接遇、障がいがある方への対応、個人情報取り扱い、図書の装備や修理などが挙げられます。これらに関しても、都度研修が行えるよう整備しています。このような研修を設けることで、スタッフの司書としてのスキルアップ、利用者の方々へのより良いサービス、ひいては指定管理者としての図書館運営について、更なる質の向上を目指しています。

■おわりに

今は本社に勤務している為、図書館で直接本と関わる仕事をしているわけではありません。しかし、図書館と共に仕事をするということは、図書館についての知識が必要です。大学の司書課程では、図書館業界で働く土台を身に付けることができました。これからは、図書館運営に関するより実務的な知識を付けていきたいと思っています。

司書課程というと、図書館で働くことだけを考えてしまいがちですが、図書館は司書だけでは運営できません。保存・提供する資料や、利用者に訪れてもらうための空間づくりも必要です。図書館業界には図書館を支援する会社が多数存在しています。直接本や利用者の方と関わることは少ないですが、全国津々浦々の図書館と関わり、お役に立てる魅力があります。ぜひ図書館だけでなく、図書館業界のことも広く知ってほしいです。



1F ショールームでは、ICゲートや自動貸出機、アクティブボードなど図書館を便利にする様々な機器のご提案を行っています。



學藝員課程



私は5月14日から6月28日までの期間のうちの10日間、東京おもちゃ美術館で博物館実習を行いました。東京おもちゃ美術館は元四谷第四小学校の校舎の一部を利用して、展示物2割、体験8割の体験型ミュージアムとなっています。木を使ったおもちゃからボードゲームまでいくつかの教室に分けて実際に遊ぶことで、日本文化を学び、コミュニケーションを深めることができます。

実習が始まる前のイメージでは、美術品の取り扱いや目録づくりがメインだと思っていましたが、東京おもちゃ美術館ではそんなイメージとは違うことを体験させていただきました。私たち実習生が行ったことは、来館者へのおもちゃの説明、遊びの支援、野外イベントの運営補佐、地域イベントの景品作りなどです。体験型美術館であるため、体力勝負といっても過言ではないほど、とにかく毎日小学生以下の子どもたちと、おもちゃで遊びました。

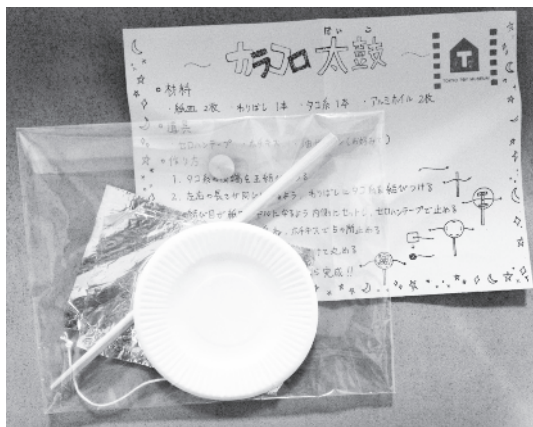
実習中に一番苦労したことは、親子のコミュニケーションサポートです。最初のうちは子どもとの接し方に戸惑い、遊び方や声のかけ方に注意していましたが、だんだんと親子のコミュニケーションのサポートをする必要があると気づきました。親は子どもを遊ばせるために東京おもちゃ美術館に足を運びますが、美術館内では子どもの遊びの邪魔にならないようにと、ただ見守る人もたくさんいます。しかし、ただ見ているのではなく、親子と一緒に遊んでもらうことが、円滑なコミュニケーションをとることに深く関係しています。

館の方の話で印象に残ったことの1つに、おもちゃの力についての話があります。おもちゃはコミュニケーションのきっかけづくりに重要な役割を受け持ちます。しかしその力を借りつつもコミュニケーションをとるために必要なことの8割は、人間の力だそうです。そんな人と人との関わりを大切にしているこの美術館では、おもちゃ学芸員と呼ばれるボランティアスタッフが日々真剣に親子と遊び、より満足してもらえるような美術館を目指して活動しています。おもちゃ学芸員の皆さんはとても意欲的に活動しており、おもちゃの説明も遊び方も熟知していたため、一

緒に活動することでその理解もより深まりました。

実習期間中、地域イベントが行われていたのですが、そのイベントで行われるスタンプラリーの景品作りがメインの課題でした。小さい子でも作ることができ、なおかつ身近に存在するものを使わなければならなかったため、様々な工夫が必要でした。他大学の実習生と一緒に、それまでの実習期間に学んだことを思い出しながら試行錯誤を重ねた結果、紙皿や割りばし、タコ糸を使ってでんでん太鼓を作ることになりました。作るものが決まってからも名前、説明の仕方、材料の準備など、イベント当日まではやらなければいけないことが多く、苦労しました。しかし、イベント当日に実際に子どもたちが私たちの考えたものを作り、楽しそうに遊んでいる姿を見ると、おもちゃをすることで得る喜びを感じることができました。簡単に作れるものではありますが、おもちゃの作り手になり多くの人に遊んでもらうことは、良い経験となりました。

今回の実習では、体験型博物館とおもちゃの魅力を存分に味わうことができました。実際に触れてみることは、様々な発見を通して理解を深めることにつながります。私自身、おもちゃで遊びながらおもちゃ学芸員や来館者とコミュニケーションを重ねることが、よりこの博物館実習を良いものにしたいと思えます。普段とは全く違う環境で不安はありましたが、得るものもとても多かったです。今後も、ボランティアスタッフなどで、東京おもちゃ美術館の活動に関わっていきたいと思えます。



博物館実習を終えて

相模原市立相模川ふれあい科学館 アquarium さがみはら 文学部歴史学科3年 藤本 彩奈

私は、5月26日から6月8日の約二週間、神奈川県相模原市にある相模川ふれあい科学館アクリウムさがみはらで、館務実習を行いました。この実習館は、その名の通り、相模川に住む生物の紹介をしている川の水族館です。常設展では全長114kmある相模川を縮小再現した水槽、希少種の魚の水槽、両生類の水槽、実際に魚とふれあえる水槽などがあり、休日には子どものいる家族連れを中心に賑わう施設です。そこで飼育員の実習生として勉強させて頂きました。大学での専攻は文学部の歴史学科で、自分の専門分野とは大きく異なる分野での実習だったのですが、相模川の歴史を学ぶということと共に、今後



の自分が勉強する分野において、この経験を活かす為の目的を持ち、課題に取り組みました。

主な実習内容は、開館前準備としての掃除、水槽の測温があります。そして、一日の内に時間毎のイベントが行われるため、最初は指導者の方の補助や、見学をし、慣れてきた頃には来館者に対して自分でガイドを行いました。その他、給餌やワークショップの補助、企画展の準備のための野外調査、採集で指導員の方に同行しました。私が実習を行った期間は、この水族館で行われるイベントが多く重なり、近隣の子供達との田植え体験、川釣りツアーなどの補助をし、普段の生活では出来ない貴重な体験をしました。

私は、普段大学で生き物について専門的に学んでいない為、最初は戸惑い、飼育に使用されている水質についてほとんどわからず、基本的なことを理解していませんでしたが、指導して下さった方には、一から丁寧に教えて頂きました。給餌の仕方も初めは全然分からなかったのですが、その生き物ごとの体調にあわせて餌の量を調節し、日によって生餌にするか乾燥の餌にするかなど詳しく教えて頂きました。餌も生物によって異なり、給餌はその生き物の体調管理をする大切な役目だと重要性を再確認しました。

この水族館は、地域に非常に密接していて、市内の保育園、幼稚園、小学校の団体が訪れる機会が多々あります。その結果、以前学校で来て楽しかったから又家族で訪れるという子どもが非常に多く感じました。特にこの館は、大人から子どもまで楽しめるように考えられている展示が多くあり、身近な生物の生態を知ることが出来るとともに、珍しい生物も観察出来ます。ワークショップでは簡単に楽しい物作りが出来、家族で楽しめます。ワークショップの補助をする中で、今まで制作してきた見本を見せていただきましたが、やはり、簡単に楽しく何が作れるのかという発想力や工夫が必要不可欠であるということを教えて頂きました。

私は、実習の中で、水族館で行われるイベントのふれあいワゴンとポイントガイドで、子どもにわかりやすく楽しく伝えるかという難しさを実感しました。ふれあいワゴンでは、多くの子どもに生物を触ってもらいながら説明しましたが、動く生物を解説するのは難しく、ポイントガイドでは、絵を書いて生物の育ち方やどんな特徴かをまとめ、子どもに対して噛み砕いた説明をすることが大変でした。

今まで、私は学芸員という仕事かどのようなものが授業で習ってはきましたが、漠然としたイメージでした。しかし、今回実習を行ったことで、来館者への説明などの表の仕事から、労力がある生物の管理など裏の仕事まで知らなかった部分を勉強できました。これから水族館や博物館を訪れる際は、実習をする前とはまた違った視点から観察出来ると思います。二週間の実習は、実際体験した人間しか学べない充実した時間でした。



博物館実習を終えて

長野県立歴史館 文学部歴史学科3年 室岡 大樹

私は8月25日から9月4日までの10日間、長野県立歴史館で博物館実習を行いました。長野県立歴史館は千曲市の科野の里歴史公園内にあり、公園内には森將軍塚古墳、古墳館などもあります。展示内容に関しては、長野県の歴史について原始から近現代にわたって展示されており、竪穴式住居や中世期の善光寺門前の再現、300年前の農家など実際に自分で体感して学ぶことの出来る展示もあります。

この博物館は総合情報部門、文献史料部門、考古資料部門の3つの部門に分かれており、実習では各部門の業務の体験や学芸員に求められる知識などについて教えて頂きました。

具体的な実習内容として、総合情報部門では展示室点検、展示解説、広報活動について、資料調書の書き方、展示替えなどを行い、文献史料部門では古文書の取り扱い方法、行政文書の読み取り、収蔵庫の整理などを行い、考古資料部門では土器の収蔵庫の棚整理、閲覧申し込みのあった資料の取り出し業務、梱包作業などを行いました。これらの実習から学芸員に求められるのはデスクワークだけではなく、動き回る体力が必要であるということ、また資料に関する専門的な知識を広く持つこと、人に伝える力、人と関わる力が重要であるということを体感し、学ぶことが出来ました。

実習の中で非常に印象に残った内容は、小学生20人に対して展示解説を行ったことと展示替えです。展示解説は原始から近現代まで各時代2人ずつ割り振られ、その時代を2人で分担して1人5～7分で解説するというものでした。私は近世の担当になり、300年前の農家の中について解説しました。解説文を考える際には、どうすればわかりやすいか、どこを重点的に伝えたいかなどについて考慮して作ったため、解説文を考えるだけでも非常に苦労しました。本番は緊張してしまいましたが、解説の際に重要な声の大きさやトーン、表情、立ち位置に気を配りながら、自分なりにしっかりとわかりやすく解説を行う



校外学習で訪れた小学生に展示解説する筆者

ことができたと思います。また、自分が全く想定していなかった質問が来た際に答えることが出来なかったという残念な点もありましたが、知識不足であったことを反省すると同時に学芸員は展示に関して深く理解し、臨機応変に対応出来る技術が必要であるという点を学ぶことが出来ました。

展示替えについては、常設展の展示替えを行いました。この作業はガラスケースを外したり、資料を運んだりなど力仕事为主となる作業でした。さらに展示をする際、資料を慎重に取り扱うこと、資料を置く台の位置やキャプションの位置は資料との間隔や見るとの距離を考え、長さをしっかりと測り、きれいに、見やすく置くように心がけることが重要であるなど繊細さが求められるという点を学ぶことが出来ました。また普段ガラスケースの中に入っている資料を手にとって間近で見ることの出来る体験は、非常に新鮮で印象に残っています。刀や脇差の展示の仕方を見学する機会もあり、実際に刀を手を持たせて頂くなど滅多にない経験をする事が出来ました。

実習を振り返って、学芸員の仕事を自分で実際に行ったことから人とのつながりがいかに重要であるかということ、学芸員には専門的な知識だけでなく、体力や様々なことに対応していく力が必要であるということを経験することができたと思います。この実習は学校の講義だけでは得ることの出来ない多くの事を吸収できた大変貴重な経験であり、私はこの経験をこれからの人生に生かしていきたいと思っています。

わたしは東京の渋谷から押上に移転したばかりの、たばこと塩の博物館で10日間の実習をさせていただきました。設立から30年あまりが経っていたために建物は老朽化し、収集した資料も収まりきらなくなったなどの理由からリニューアルした館です。館名を聞いて「なぜタバコと塩の組み合わせなのか」と興味を持ち、実習を希望しました。この館を運営するJTの前身である日本専売公社がタバコと塩を扱っていたため、その歴史と文化を発信する目的で設立した企業系博物館で、社会に対して理解を求め地域や人から信頼を得ることを目指しているといいます。渋谷に館があったころと比べると客層が変化したようで、実習期間にも近所の団体やデイサービスからの来館者が訪れていた様子に地域とのつながりを感じました。

移転によって可能になったのは増えすぎてしまった資料の収蔵だけでなく、より広々とした空間における専門的な展示です。今回わたしたち実習生は、その一画にある江戸の生活を紹介するコーナーで浮世絵の展示に携わりました。江戸時代の日本ではキセルの文化が定着し、浮世絵にもキセルを持った役者や民衆が描かれました。実習館ではおよそ1800点の浮世絵などの絵画を所有していて、その内容から江戸の歴史や文化も知ることができる資料も持ち合わせた変わった館としても知られています。

多数の作品の中から選ばれたテーマは“朝比奈三郎義秀”でした。わたしを含めた実習生三人と学芸員の先生とで、まずどの作品をどの位置で展示するかを考えていきました。実習生はそれぞれ大学で専門的に学んでいることが異なり、違った視点から自分が面白いと思うレイアウトを提案していたのは興味深かったです。しかしそれは同時に意見をまとめづらくしました。技巧的な観点や歴史的な面から来館者に伝えたいことは様々であり、それを限られたスペースの中でわかりやすくまとめるのは非常に時間がかかりました。学術的にだけ説明してしまっても来館者は興味を持ちづらい。しかし伝えたいことは確実に盛り込み、正確な情報で誤解を与えないように書かなければならない。意識しなければならないことが多く、さらに英語も同様にして

載せるため、知識だけでなく文章力も語学力も必要だと強く感じました。また意見がまとまらないとき、他の意見に対して謙虚に耳を傾けなくてはならないと思いました。多くの時間を費やして何度も話し合いを重ねた結果できあがったのは、たった50文字ずつの文章ですが、達成感がありました。

正しい情報を発信しなければならないというのは展示物についてだけでなく、館の広報活動においても求められます。特にメディア向けに送るDMやポスター、ホームページに情報を載せる怖さを、広報の方はお話ししてくださいました。博物館には広報や警備、ショップや受付など様々な役割があり、そのどれが欠けても成り立たなくなってしまうことを、運営の内側を見せていただいて初めて実感しました。また実際に資料の整理を手伝わせていただいてその多さに驚き、展示の作業も含めて体力が必要なことと全ての管理を適切に行う難しさも、大学内での授業を受けただけでは気付けませんでした。

リニューアルしたばかりの展示室で行われたのは、最も基本的な、環境を整える作業でした。普通に運営している館では既に完了している工程なので、実際に見られたのは貴重な経験でした。また、このように普通の運営と移転に関する作業が重なった忙しい時期でも実習を受け入れてくださった館の皆様には、とても感謝しています。この経験は学芸員という職業だけでなく、博物館という存在を理解するための非常に大切なきっかけとなりました。これから実習を受ける方にも、積極的に学ぶ姿勢でさまざまなことを吸収してほしいです。



展示スペースの整理



データ編



平成27年度 教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修者数

教職課程

平成 27 年 5 月 1 日 現在

区分	学 部	学 科〔専攻〕	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済 学	35(4)	49(5)	81(12)	57(7)	222(28)
		国 際 経 済 学	10(2)	13(4)	13(4)	8(1)	44(11)
		法 政 経 済 学	31(11)	39(9)	21(4)	26(4)	117(28)
	法 営	政 治 学	9(2)	18(3)	10(2)	3(1)	40(8)
		経 営 学	17(2)	60(11)	61(10)	43(6)	181(29)
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	24(4)	48(11)	51(15)	34(8)	157(38)
		会 計	6(0)	11(5)	19(5)	10(4)	46(14)
		日 本 語 日 本 文	—	—	—	0	0
	文	〔日本語学〕 〔日本文学文化〕	—	—	—	0	0
		日 本 語	30(11)	24(15)	28(11)	21(12)	103(49)
		日 本 文 学 文 化	35(19)	27(18)	20(13)	20(12)	102(62)
		英 語 英 文	21(9)	30(12)	23(11)	26(9)	100(41)
		人 文	—	—	—	0	0
		〔哲学会学〕 〔歴史学〕 〔環境地理学〕 〔社会学〕	—	—	—	1(0)	1(0)
		哲 学	13(8)	15(4)	6(2)	7(4)	41(18)
		歴 史 学	41(12)	44(17)	60(20)	28(8)	173(57)
		環 境 地 理 学	8(2)	10(3)	13(1)	9(2)	40(8)
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	8(3)	8(1)	4(2)	7(2)	27(8)
二 部	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	24(3)	24(10)	46(12)	14(3)	108(28)
		心 理 学	4(0)	2(1)	3(3)	3(3)	12(7)
	人 間 科	社 会 学	11(6)	9(4)	7(4)	5(2)	32(16)
		計 算 機 学	327(98)	431(133)	466(131)	322(88)	1,546(450)
	経 済	経 済 学	15(2)	9(1)	5(0)	5(1)	34(4)
		法 政 経 済 学	2(2)	2(1)	5(2)	2(1)	9(5)
	法 営	政 治 学	7(1)	7(1)	2(1)	4(1)	20(4)
		経 営 学	32(3)	23(3)	12(3)	14(4)	81(13)
	小 商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	—	—
		計 算 機 学	359(101)	454(136)	478(134)	336(92)	1,627(463)
合 計	目 等 履 修 生		—	—	—	—	19(5)
大 学 合 計	学 院 生		—	—	—	—	10(4)
大 学 合 計	学 院 生		359(101)	454(136)	478(134)	336(92)	1,656(472)

司書課程

区分	学 部	学 科〔専攻〕	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済 学	2(0)	0	5(3)	5(1)	12(4)
		国 際 経 済 学	1(1)	1(1)	0	0	2(2)
		法 政 経 済 学	6(5)	8(6)	8(4)	5(1)	27(16)
	法 営	政 治 学	1(0)	2(2)	0	5(2)	8(4)
		経 営 学	2(2)	2(1)	3(3)	2(1)	9(8)
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	1(0)	1(1)	3(1)	2(1)	7(3)
		会 計	1(1)	0	0	1(0)	2(1)
		日 本 語 日 本 文	—	—	—	0	0
	文	〔日本語学〕 〔日本文学文化〕	—	—	—	0	0
		日 本 語	5(4)	10(9)	9(8)	9(8)	33(29)
		日 本 文 学 文 化	20(17)	31(26)	34(33)	35(27)	120(103)
		英 語 英 文	1(1)	3(3)	2(2)	3(3)	9(9)
		人 文	—	—	—	0	0
		〔哲学会学〕 〔歴史学〕 〔環境地理学〕 〔社会学〕	—	—	—	0	0
		哲 学	6(1)	13(12)	6(2)	6(5)	31(20)
		歴 史 学	12(6)	14(7)	19(12)	6(4)	51(29)
		環 境 地 理 学	2(2)	1(1)	1(0)	1(0)	5(3)
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	5(5)	9(8)	7(7)	4(4)	25(24)
二 部	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	4(2)	6(6)	2(1)	15(9)	27(18)
		心 理 学	5(5)	3(3)	2(4)	2(2)	16(14)
	人 間 科	社 会 学	2(2)	5(3)	4(3)	4(4)	17(14)
		計 算 機 学	79(56)	109(89)	108(83)	102(73)	398(301)
	経 済	経 済 学	3(1)	2(1)	3(0)	2(0)	10(2)
		法 政 経 済 学	4(2)	1(1)	6(3)	4(1)	15(7)
	法 営	政 治 学	1(0)	1(0)	2(1)	1(1)	5(2)
		経 営 学	8(3)	4(2)	11(4)	7(2)	30(11)
	小 商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	—	—
		計 算 機 学	87(59)	113(91)	119(87)	109(75)	428(312)
合 計	目 等 履 修 生		—	—	—	—	3(2)
大 学 合 計	学 院 生		—	—	—	—	3(1)
大 学 合 計	学 院 生		87(59)	113(91)	119(87)	109(75)	434(315)

司書教諭課程

区分	学 部	学 科〔専攻〕	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済 学	0	0	2(1)	2(1)	4(2)
		国 際 経 済 学	0	0	0	0	0
		法 政 経 済 学	2(1)	3(2)	1(0)	2(1)	8(4)
	法 営	政 治 学	1(0)	0	0	0	1(0)
		経 営 学	0	1(1)	0	3(0)	4(1)
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	1(0)	0	1(0)
		会 計	1(1)	0	0	1(0)	2(1)
		日 本 語 日 本 文	—	—	—	0	0
	文	〔日本語学〕 〔日本文学文化〕	—	—	—	0	0
		日 本 語	3(3)	4(2)	9(8)	3(2)	19(15)
		日 本 文 学 文 化	7(6)	13(10)	3(3)	1(1)	24(20)
		英 語 英 文	0	1(1)	0	0	1(1)
		人 文	—	—	—	0	0
		〔哲学会学〕 〔歴史学〕 〔環境地理学〕 〔社会学〕	—	—	—	0	0
		哲 学	6(3)	4(1)	0	2(1)	12(5)
		歴 史 学	0	7(2)	4(3)	1(0)	12(5)
		環 境 地 理 学	0	0	0	0	0
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	0	1(1)	0	0	1(1)
二 部	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	1(0)	1(1)	0	4(1)	6(2)
		心 理 学	0	0	1(1)	0	1(1)
	人 間 科	社 会 学	3(3)	0	1(1)	0	4(4)
		計 算 機 学	24(17)	35(21)	22(17)	19(7)	100(62)
	経 済	経 済 学	1(0)	0	0	0	1(0)
		法 政 経 済 学	2(1)	1(1)	0	0	3(2)
	法 営	政 治 学	0	0	1(1)	1(1)	2(2)
		経 営 学	3(1)	1(1)	1(1)	1(1)	6(4)
	小 商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	—	—
		計 算 機 学	27(18)	36(22)	23(18)	20(8)	106(66)
合 計	目 等 履 修 生		—	—	—	—	2(0)
大 学 合 計	学 院 生		—	—	—	—	2(1)
大 学 合 計	学 院 生		27(18)	36(22)	23(18)	20(8)	110(67)

学芸員課程

区分	学 部	学 科〔専攻〕	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済 学	0	1(0)	3(0)	2(0)	6(0)
		国 際 経 済 学	0	0	2(1)	0	2(1)
		法 政 経 済 学	0	5(3)	1(0)	0	6(3)
	法 営	政 治 学	1(0)	3(3)	0	0	4(3)
		経 営 学	0	1(0)	1(1)	0	2(1)
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	3(1)	1(1)	4(3)	3(1)	11(6)
		会 計	0	0	0	0	0
		日 本 語 日 本 文	—	—	—	0	0
	文	〔日本語学〕 〔日本文学文化〕	—	—	—	0	0
		日 本 語	6(5)	1(1)	1(1)	0	8(7)
		日 本 文 学 文 化	7(7)	6(5)	7(6)	0	20(18)
		英 語 英 文	1(1)	1(1)	0	1(1)	3(3)
		人 文	—	—	—	0	0
		〔哲学会学〕 〔歴史学〕 〔環境地理学〕 〔社会学〕	—	—	—	0	0
		哲 学	2(1)	4(4)	1(1)	0	7(6)
		歴 史 学	28(15)	27(18)	25(15)	3(0)	83(48)
		環 境 地 理 学	2(1)	4(1)	1(1)	1(1)	8(4)
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	2(1)	6(6)	1(0)	1(1)	10(8)
二 部	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	1(1)	1(0)	0	1(1)	3(2)
		心 理 学	5(5)	0	3(2)	0	8(7)
	人 間 科	社 会 学	2(2)	2(1)	0	1(1)	5(4)
		計 算 機 学	60(40)	63(44)	50(31)	13(6)	186(121)
	経 済	経 済 学	1(1)	0	0	0	1(1)
		法 政 経 済 学	0	0	1(0)	1(0)	2(0)
	法 営	政 治 学	0	0	1(1)	0	1(1)
		経 営 学	0	0	2(1)	1(0)	3(2)
	小 商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	—	—	—	—
		計 算 機 学	61(41)	63(44)	52(32)	14(6)	190(123)
合 計	目 等 履 修 生		—	—	—	—	2(2)
大 学 合 計	学 院 生		—	—	—	—	4(1)
大 学 合 計	学 院 生		61(41)	63(44)	52(32)	14(6)	196(126)

1 () 内は、女子で内数である。
2 4 年次には、5 年次以上も含む。

平成27年度 教育職員免許状取得件数

区分	学 部	学 科 [専 攻]	取得人数	中学1種		高校1種		中学専修		高校専修		合 計	
				教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数		
一 部	経 済	経 済	19(5)	社 会	9(2)	地 理 史 公 商 地 理 史 公 商 地 理 史	11(2) 12(5) 0	—	—	—	—	32(9)	
		国 際 経 済	3(1)	社 会	3(1)	地 理 史 公 商 地 理 史	1(0) 2(1) 0	—	—	—	—	6(2)	
	法	法 律	14(4)	社 会	11(3)	地 理 史 公 商 地 理 史	13(3) 7(1) 2(1)	—	—	—	—	31(7)	
		政 治	2(1)	社 会	2(1)	公 商 地 理 史	2(1) 6(0) 5(1)	—	—	—	—	6(3)	
	経 営	経 営	9(1)	社 会	5(1)	公 商 地 理 史 公 商 地 理 史	6(0) 5(1) 1(0)	—	—	—	—	17(2)	
		商	マ ー ケ テ ィ ン グ	9(5)	社 会	2(1)	地 理 史 公 商 地 理 史	0 8(4) 1(1)	—	—	—	—	11(6)
	文		会 計	1(0)	—	—	商 業 情 報	1(0)	—	—	—	—	1(0)
		日本語日本文	[日 本 語 学]	0	国 語	0	国 語 書 道	0	—	—	—	—	0
			[日本文学文化]	0	国 語	0	国 語 書 道	0	—	—	—	—	0
		日 本 本 語	18(9)	国 語	16(9)	国 語 書 道	18(9) 15(10) 3(2)	—	—	—	—	34(18)	
		日 本 文 学 文 化	15(10)	国 語	12(7)	国 語 書 道	15(10) 17(5)	—	—	—	—	30(19)	
		英 語 英 米 文	17(5)	外国語(英語)	17(5)	外国語(英語)	17(5)	—	—	—	—	34(10)	
		人 文	[哲 学 人 間 学]	0	社 会	0	地 理 史 公 商 地 理 史	0 1(0) 0	—	—	—	—	0
			[歴 史 学]	1(0)	社 会	0	地 理 史 公 商 地 理 史	1(0) 0 0	—	—	—	—	1(0)
			[環 境 地 理 学]	0	社 会	0	地 理 史 公 商 地 理 史	0 0 0	—	—	—	—	0
			[社 会 学]	0	社 会	0	地 理 史 公 商 地 理 史	0 6(3) 4(2)	—	—	—	—	0
		哲	6(3)	社 会	5(3)	地 理 史 公 商 地 理 史	6(3) 4(2) 16(5)	—	—	—	—	15(8)	
		歴 史	20(8)	社 会	17(6)	地 理 史 公 商 地 理 史	16(5) 11(4) 6(2)	—	—	—	—	44(15)	
		環 境 地 理	7(2)	社 会	6(1)	地 理 史 公 商 地 理 史	6(2) 3(0) 3(2)	—	—	—	—	15(3)	
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	6(2)	社 会	6(2)	地 理 史 公 商 地 理 史	5(2) 4(2) 0	—	—	—	—	15(6)	
		心 理	0	社 会	0	公 商 地 理 史	4(2) 2(1) —	—	—	—	—	0	
		ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	5(2)	数 学	2(2)	数 学 情 報	5(2) 0	—	—	—	—	7(4)
	人 間 科	心 理	3(3)	社 会	3(3)	公 商 地 理 史	3(3) 4(2) 2(1)	—	—	—	—	6(6)	
		社 会	4(2)	社 会	3(1)	公 商 地 理 史	2(1) — 195(74)	—	—	—	—	9(4)	
	小 計	計	159(63)	—	119(48)	—	195(74)	—	—	—	—	314(122)	
	二 部	経 済	経 済	2(0)	社 会	1(0)	地 理 史 公 商 地 理 史	1(0) 2(0) 0	—	—	—	—	4(0)
法			2(1)	社 会	1(1)	公 商 地 理 史	1(0) 1(0) 1(0)	—	—	—	—	2(1)	
商		マ ー ケ テ ィ ン グ	3(0)	社 会	2(0)	公 商 地 理 史	1(0) 1(0) —	—	—	—	—	5(0)	
		小 計	計	7(1)	—	4(1)	—	7(0)	—	—	—	—	11(1)
科 目 等 履 修 生			12(3)	国 語	1(1)	国 語 書 道	1(1) 0 1(0)	—	—	—	—	21(6)	
				外国語(英語)	1(0)	外国語(英語)	1(0) 6(2) 5(1)						
				社 会	5(1)	公 商 地 理 史	0 0 0						
				数 学	0	数 学 情 報	1(0) 14(4)						
小 計	計	12(3)	—	7(2)	—	14(4)	—	—	—	—	21(6)		
大 学 院 生			6(3)	—	—	—	—	国 語	1(1)	国 語	1(1)	11(6)	
				—	—	—	—	外国語(英語)	4(2)	外国語(英語)	4(2)		
				—	—	—	—	社 会	0	地 理 史 公 商 地 理 史	1(0) 0 0		
				—	—	—	—	—	—	情 報	0		
小 計	計	6(3)	—	—	—	—	—	5(3)	—	6(3)	11(6)		
合 計			184(70)	—	130(51)	—	216(78)	—	5(3)	—	6(3)	357(135)	

- 1 () 内は、女子で内数である。
2 この表は、教員免許状一括申請をした数である。

平成27年度 司書・司書教諭・学芸員資格単位取得者数

区分	学 部	学 科 [専 攻]	司 書	司 書 教 諭	学 芸 員
一 部	経 済	経 済	3(0)	1(1)	0
		国 際 経 済	0	0	0
	法	法 律	5(1)	1(1)	1(0)
		政 治	2(2)	0	0
	経 営	経 営	2(2)	0	0
		マ ー ケ テ ィ ン グ	1(0)	3(0)	1(1)
	商	会 計	0	0	2(2)
		日 本 語 日 本 文	0	0	0
		[日 本 語 学]	0	0	0
		[日 本 文 学 文 化]	0	0	0
		日 本 本 語	7(7)	4(4)	2(2)
		日 本 文 学 文 化	29(24)	1(1)	4(3)
		英 語 英 米 文	1(1)	0	1(1)
		[哲 学 人 間 学]	0	0	0
		[歴 史 学]	0	0	0
		[環 境 地 理 学]	0	0	0
		[社 会 学]	0	0	0
		哲	3(2)	0	3(3)
		歴 史	2(2)	1(0)	19(15)
		環 境 地 理	1(0)	0	3(2)
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	3(3)	0	3(2)
		心 理	0	0	0
		ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	4(3)	1(1)	1(1)
		心 理	2(2)	0	0
		社 会	4(4)	0	5(4)
		小 計	69(53)	12(8)	45(36)
二 部	経 済	経 済	0	0	0
		法 律	2(0)	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	0
		小 計	2(0)	0	0
科 目 等 履 修 生	大 学 院	国 語	1(1)	1(0)	1(1)
		外国語(英語)	2(1)	1(1)	1(1)
合 計			74(55)	14(9)	47(38)

() 内は、女子で内数である。

平成27年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
北海道・東北	北海道	白樺学園高等学校	商業	商	マーケティング	
	岩手県	専修大学北上高等学校	公民	経営	経営	
	福島県	郡山ザベリオ学園中学校	国語	文	日本語	
	福島県	いわき市立中央台南中学校	英語	文	英語英米文	
	福島県	福島県立福島西高等学校	地理歴史	文	歴史	
	福島県	会津若松市立第二中学校	社会	文	環境地理	
	福島県	郡山市立大槻中学校	社会	人間科	社会	
関東	茨城県	石岡市立八郷中学校	社会	文	環境地理	
	茨城県	神栖市立波崎第三中学校	社会	文	人・社会・環境	
	栃木県	栃木県立宇都宮白根高等学校	商業	経営	経営	
	栃木県	栃木市立吹上中学校	社会	経営	経営	
	栃木県	宇都宮市立横川中学校	国語	文	日本文学文化	
	栃木県	佐野市立田沼西中学校	英語	文	英語英米文	
	栃木県	栃木県立宇都宮女子高等学校	地理歴史	文	歴史	
	群馬県	前橋育英高等学校	国語	文	日本語	
	群馬県	富岡市立東中学校	英語	文	英語英米文	
	群馬県	群馬県立伊勢崎高等学校	地理歴史	文	環境地理	
	埼玉県	埼玉県立浦和北高等学校	地理歴史	経済	経済	
	埼玉県	所沢市立中央中学校	社会	経済	経済	
	埼玉県	ふじみ野市立大井中学校	社会	商	マーケティング	
	埼玉県	春日部市立大沼中学校	国語	文	日本語	
	埼玉県	さいたま市立常盤中学校	国語	文	日本文学文化	
	埼玉県	越谷市立東中学校	国語	文	日本文学文化	
	埼玉県	埼玉県立大宮中央高等学校	国語	文	日本文学文化	
	埼玉県	西武台高等学校	国語	文	日本文学文化	
	埼玉県	草加市立栄中学校	国語	文	日本文学文化	
	埼玉県	吉見町立吉見中学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	栄東高等学校	地理歴史(日本史)	文	哲	
	埼玉県	川越市立初雁中学校	社会	文	歴史	
	埼玉県	白岡市立荻荻中学校	社会	文	歴史	
	千葉県	千葉県立国分高等学校	地理歴史	経済	経済	
	千葉県	千葉県立幕張総合高等学校	公民	経済	国際経済	
	千葉県	千葉県立匝瑳高等学校	国語	文	日本文学文化	
	千葉県	匝瑳市立野栄中学校	国語	文	日本文学文化	
	千葉県	一宮町立一宮中学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立文京高等学校	公民	経済	経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	経済	
	東京都	啓明学園高等学校	地理歴史	経済	経済	
	東京都	八王子市立松木中学校	社会	経済	経済	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	国際経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経営	経営	
	東京都	岩倉高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	東京都	村田女子高等学校	商業	商	マーケティング	
	東京都	東海大学菅生高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	八王子市立南大沢中学校	国語	文	日本語	
	東京都	板橋区立高島第二中学校	国語	文	日本語	
	東京都	東京都立昭和高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	東京都立目黒高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	東京都立上野高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	立正大学付属立正中学校・高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	麻布中学校・麻布高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立富士森高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	小金井市立緑中学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	玉川学園中学部・高等部	社会・地理歴史・公民	文	哲	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	文	歴史	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	サレジオ中学校	社会	文	歴史	
	東京都	多摩大学附属聖ヶ丘高等学校	地理歴史(世界史)	文	歴史	
	東京都	東京都立城東高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	文教大学付属中学・高等学校	社会(地理歴史)	文	環境地理	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史・公民	文	人・社会・環境	
	東京都	練馬区立関中学校	社会	文	人・社会・環境	
	東京都	専修大学附属高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	東京都立日野台高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	専修大学附属高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	帝京中学校・高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	人間科	心理	
	東京都	十文字高等学校	地理歴史	人間科	社会	
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	公民	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立秦野高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	横浜市立下瀬谷中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	藤嶺学園藤沢高等学校	公民(政治経済)	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立舞岡高等学校	地理歴史・公民	経済	経済	

平成27年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生		
				学 部	学 科	専 攻
関 東	神奈川県	武相高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立水取沢高等学校	地理歴史・公民	経済	経済	
	神奈川県	横須賀市立馬堀中学校	社会	経営	経営	
	神奈川県	川崎市立中野島中学校	社会	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立平塚江南高等学校	公民	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立新栄高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	川崎市立向丘中学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立厚木西高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	横浜商科大学高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立鶴嶺高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	横浜中学校・高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立瀬谷高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立有馬高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立横須賀高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立足柄高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	茅ヶ崎市立北陽中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	秦野市立大根中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	海老名市立今泉中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	相模原市立弥栄中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	立花学園高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	川崎市立高津高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	鶴沼高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	横浜清風高等学校	地理歴史	文	哲	
	神奈川県	桐蔭学園高等学校	地理歴史(世界史)	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立有馬高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立深沢高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立松陽高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立市ヶ尾高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	横浜市立南高等学校附属中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立橋本高等学校	地理歴史・公民	文	歴史	
	神奈川県	茅ヶ崎市立萩園中学校	社会	文	環境地理	
	神奈川県	神奈川県立相模原高等学校	地理歴史	文	環境地理	
	神奈川県	横浜市立飯島中学校	社会	文	人・ジャーナリズム	
	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立旭高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	横浜市立豊田中学校	社会	人間科	心理	
甲 信 越	新潟県	三条市立第三中学校	社会	経済	経済	
	新潟県	新潟市立亀田西中学校	国語	文	日本語	

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生		
				学 部	学 科	専 攻
甲 信 越	新潟県	新潟市立早通中学校	社会	文	哲	
	新潟県	上越市立直江津中学校	社会	文	哲	
	新潟県	阿賀野市立水原中学校	社会	文	歴史	
	新潟県	新潟県立新発田南高等学校	地理歴史	文	歴史	
	新潟県	新潟県立津南中等教育学校	社会	人間科	心理	
	山梨県	南アルプス市立若草中学校	社会	経済	経済	
	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	山梨県	市川三郷町立六郷中学校	国語	文	日本語	
	山梨県	市川三郷町立六郷小学校	全科	文	日本語	
	長野県	松本市立波田中学校	社会	経済	国際経済	
	長野県	上田市立第一中学校	国語	文	日本語	
	長野県	長野市立松代中学校	国語	文	日本語	
北 陸	石川県	日本航空高等学校石川	公民	経営	経営	
	岐阜県	可児市立中部中学校	社会	経営	経営	
	静岡県	静岡県立吉原高等学校	国語	文	日本語	
	静岡県	袋井市立袋井中学校	社会	文	歴史	
	静岡県	日本大学三島高等学校	社会・地理歴史・公民	文	歴史	
	静岡県	浜松市立引佐南部中学校	社会	文	人・ジャーナリズム	
	静岡県	静岡大学教育学部附属浜松中学校	社会	人間科	社会	
	静岡県	富士市立吉原北中学校	社会	人間科	社会	
	静岡県	静岡県立島田高等学校	国語	文学研究科		日本文学文化
	三重県	三重県立白子高等学校	情報	経営	経営	
近 畿	和歌山県	和歌山県立神島高等学校	商業	商	マーケティング	
	鳥取県	鳥取城北高等学校	商業	商	マーケティング	
	岡山県	岡山県立津山商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	岡山県	岡山市立旭東中学校	社会	文	歴史	
	広島県	武田中学・高等学校	公民	経営	経営	
	山口県	山口県立宇部商業高等学校	商業	経営	経営	
四 国	香川県	香川県立高松商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	香川県	香川県立高松商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	福岡県	福岡県立小倉商業高等学校	商業	商	会計	
	熊本県	専修大学玉名高等学校	地理歴史・公民	経済	経済	
	大分県	由布市立湯布院中学校	社会	文	人・ジャーナリズム	
	鹿児島県	鹿児島高等学校	公民	経済	経済	
沖 縄	鹿児島県	天城町立北中学校	社会	商	マーケティング	
	鹿児島県	鹿児島市立谷山中学校	社会	文	人・ジャーナリズム	
	沖縄県	那覇市立鏡原中学校	英語	文	英語英米文	

平成27年度 教育実習先一覧（一部神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	岩手県	岩手県立盛岡第三高等学校	地理歴史(世界史)	法	法律
	宮城県	仙台育英学園高等学校	地理歴史(日本史)	法	法律
	秋田県	秋田県立横手高等学校	公民	法	法律
関東	群馬県	群馬県立館林高等学校	公民	法	法律
	埼玉県	蕨市立第二中学校	社会	法	法律
	埼玉県	久喜市立栗橋西中学校	社会	法	法律
東	埼玉県	埼玉栄高等学校	地理歴史(日本史)	法	政治
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史(日本史)	法	法律
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史(世界史)	法	法律
	千葉県	我孫子市立我孫子中学校	社会	法	法律
	千葉県	千葉県立八千代高等学校	公民(政治経済)	法	政治

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	東京都立府中高等学校	公民	法	法律
	東京都	東京高等学校	地理歴史(日本史)	法	法律
東	東京都	杉並区立阿佐ヶ谷中学校	社会	法	法律
	神奈川県	横浜創英中学・高等学校	地理歴史・公民	法	法律
	神奈川県	神奈川県立厚木西高等学校	公民	法	法律
	神奈川県	厚木市立睦合東中学校	社会	法	政治
	北陸	福井県 北陸高等学校	地理歴史・公民	法	法律
中国	広島県	広島翔洋高等学校	公民	法	法律
九州・沖縄	鹿児島県	鹿児島県立鹿児島中央高等学校	公民	法	法律
	鹿児島県	樟南高等学校	地理歴史(世界史)	法	法律

平成27年度 教育実習先一覧（二部神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	青森県	青森市立浦町中学校	社会	科目等履修生	
関東	埼玉県	松伏町立松伏中学校	社会	法	法律
	埼玉県	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	地理歴史	科目等履修生	
	千葉県	柏日体高等学校	公民	経済	経済
東	千葉県	市原市立五井中学校	社会	科目等履修生	
	神奈川県	日本大学藤沢高等学校	社会	法	法律
	神奈川県	神奈川県立霧が丘高等学校	地理歴史	商	マーケティング

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	神奈川県	神奈川県立相原高等学校	商業	商	マーケティング
	神奈川県	横浜市立大鳥中学校	社会	科目等履修生	
	神奈川県	大和市立光丘中学校	英語	科目等履修生	
北陸	富山県	富山県立入善高等学校	地理歴史	経済	経済
四国	香川県	英明高等学校	公民	科目等履修生	
沖縄	沖縄県	南城市立久高中学校	社会	法	法律

平成27年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	千代田区立千代田図書館	法	法律	
	東京都	足立区立中央図書館	文	日本文学文化	
	神奈川県	座間市立図書館	文	日本文学文化	
	神奈川県	小田原市立かもめ図書館	文	歴史	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	神奈川県	専修大学図書館	人間科	心理	
	神奈川県	神奈川学園中学校・高等学校図書館	人間科	社会	
	熊本県	玉名市民図書館	文	歴史	

平成27年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
東北	岩手県	釜石市郷土資料館	文	歴史	
	山形県	山形美術館	文	日本文学文化	
	福島県	福島県文化財センター白河館（まほろん）	文	歴史	
関東	栃木県	足利市立美術館	文	英語英米文	
	栃木県	矢板市立郷土資料館	文	歴史	
	栃木県	栃木県立博物館	文	歴史	
	栃木県	宇都宮美術館	文	歴史	
	埼玉県	埼玉県立歴史と民俗の博物館	文	歴史	
	埼玉県	さいたま市立博物館	文	歴史	
	埼玉県	春日部市郷土資料館	文	歴史	
	千葉県	山武市歴史民俗資料館	文	環境地理	
	東京都	進化生物学研究所	法	法律	
	東京都	進化生物学研究所	経営	経営	
	東京都	物流博物館	商	マーケティング	
	東京都	進化生物学研究所	商	マーケティング	
	東京都	バルテノン多摩	商	マーケティング	
	東京都	東京おもちゃ美術館	文	日本文学文化	
	東京都	古代オリエント博物館	文	哲	
	東京都	明治大学博物館	文	歴史	
	東京都	町田市立自由民権資料館	文	歴史	
	東京都	東京都多摩動物公園	文	歴史	
	東京都	目黒区美術館	文	歴史	
	東京都	渋谷区立松濤美術館	文	歴史	

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	たばこと塩の博物館	人間科	心理	
	東京都	東京都葛西臨海水族園	人間科	心理	
	東京都	練馬区立石神井公園ふるさと文化館	文学研究科		歴史学
	東京都	千代田区立日比谷図書文化館	科目等履修生		
	神奈川県	大和市つる舞の里歴史資料館	文	日本語	
	神奈川県	シルク博物館	文	日本文学文化	
	神奈川県	川崎市立日本家園	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立公文書館	文	歴史	
	神奈川県	相模原市立相模川ふれあい科学館	文	歴史	
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム	文	歴史	
	神奈川県	秦野市立桜土手古墳展示館	文	歴史	
	神奈川県	相模原市立博物館	文	歴史	
	神奈川県	かわさき宙と緑の科学館	文	環境地理	
	神奈川県	すどう美術館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	三溪園	法学研究科		法学
甲信越	新潟県	長岡市立科学博物館	文	歴史	
	長野県	池波正太郎真田太平記館	文	日本文学文化	
	長野県	長野県立歴史館	文	歴史	
	長野県	おふせミュージアム・中島千波館	文	人文学・ナリム	
東海	静岡県	清水港湾博物館	文	日本文学文化	
	静岡県	掛川市二の丸美術館	文	日本文学文化	
	静岡県	静岡市立登呂博物館	文	歴史	
	静岡県	島田市博物館	文	歴史	

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成23年度	平20 経済・経済	埼玉県立坂戸西高等学校	専 任	情 報
	平21 経済・経済	東京都立清瀬特別支援学校	期 限 付	社 会
	平23 経済・経済	長野原町立西中学校	期 限 付 (マイタウンティーチャー)	
	平17 経営・経営	埼玉県立志木高等学校	専 任	情 報
	平17 商・商業	横浜市立戸塚高等学校	臨時的任用	地 理 歴 史
	平23 商・マーケティング	甲府市立甲府商業高等学校	期 限 付	商業・情報
	平22 文・日本語日本文	東京都立大崎高等学校	専 任	国 語
	平22 文・日本語日本文	川崎市立宮前平中学校	臨時的任用	国 語
	平23 文・日本語日本文	学校法人嘉悦学園（かえつ有明中学校・高等学校）	非 常 勤	国 語
	平23 文・日本語日本文	神奈川県立湘南高等学校	非 常 勤	国 語
	平23 文・日本語日本文	上田市立第五中学校	臨時的任用	国 語
	平23 文・日本語日本文	練馬区立南が丘中学校	期 限 付	国 語
	平23 文・日本語日本文	千葉県立館山総合高等学校	期 限 付	国 語
	平23 文・日本語日本文	学校法人錦城学園（錦城学園高等学校）	非 常 勤	国 語
	平23 文・日本語日本文	東京都立南平高等学校	常 勤	国 語
	平17 文・英語英米文	千葉県立松戸向陽高等学校	専 任	英 語
	平20 文・英語英米文	神奈川県立座間総合高等学校	専 任	英 語
	平21 文・英語英米文	神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校	専 任	英 語
	平22 文・英語英米文	学校法人豊昭学園（豊島学院高等学校）	専 任	英 語
	平22 文・英語英米文	神奈川県立相模原青陵高等学校	専 任	英 語
	平22 文・英語英米文	学校法人東海大学（東海大学付属高輪台高等学校）	非 常 勤	英 語
	平23 文・英語英米文	足立区立伊興中学校	期 限 付	英 語
	平23 文・英語英米文	学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	常 勤	英 語
	平23 文・英語英米文	横須賀市立横須賀総合高等学校	非 常 勤	英 語
	平23 文・英語英米文	習志野市立第四中学校	常 勤	英 語
	平23 文・英語英米文	学校法人松韻学園（福島高等学校）	常 勤	英 語
	平23 文・英語英米文	横須賀市立鴨居中学校	専 任	英 語
	平21 文・人文	横浜市立藤が丘小学校	専 任	全 科
	平23 文・人文	学校法人明泉学園（鶴川高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民
	平23 文・人文	君津市立周西小学校	指導補助教員	
	平23 文・人文	河内町立河内中学校	常 勤	社 会
	平18 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立北本高等学校	専 任	情 報
	平23 ネットワーク情報・ネットワーク情報	朝霞市立朝霞第五中学校	専 任	数 学
	平23 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立鶴見総合高等学校	専 任	情 報
	平19 院経営・修士	東京都立杉並総合高等学校	専 任	情 報
	平23 院文・修士	静岡県立伊東商業高等学校	専 任	英 語
	平23 院文・修士	神奈川県立釜利谷高等学校	臨時的任用	英 語
平成24年度	平21 経済・経済	厚木市立戸室小学校	専 任	全 科
	平21 経済・経済	東京都立清瀬特別支援学校	専 任	特支小全科
	平24 経済・経済	学校法人淑徳学園 淑徳SC 中部部・高等部	非 常 勤	社 会
	平24 経済・経済	鴨川市立鴨川中学校	臨時的任用	社 会
	平20 経済・国際経済	学校法人大乗淑徳学園（淑徳巣鴨中学高等学校）	常 勤	英 語
	平23 法・法律	江東区立数矢小学校	専 任	全 科
	平23 法・法律	下妻市立下妻東部中学校	非 常 勤	社 会
	平23 法・法律	川口市立青木中央小学校	臨時的任用	全 科
	平24 法・法律	流山市立八木中学校	非 常 勤	社 会
	平24 法・法律	射水市立小杉中学校	臨時的任用	社 会
	平24 法・政治	横浜市立緑が丘中学校	専 任	社 会
	平24 法・政治	高崎市立中尾中学校	専 任	社 会
	平24 法・政治	宇都宮市立清原中学校	非 常 勤	社 会
	平21 経営・経営	足立区立洲江小学校	専 任	全 科
	平16 商・商業	学校法人佐野日本大学学園（佐野日本大学中等教育学校）	専 任	社 会
	平21 商・商業	船橋市立習志野台中学校	専 任	社 会
	平24 商・マーケティング	千葉市教育センター	家庭訪問相談員	全 科
	平24 商・会計	静岡県立相良高等学校	非 常 勤	商 業
	昭62 文・国文	神奈川県教育委員会	専 任	特支小全科
	平21 文・日本語日本文	日の出町立平井小学校	専 任	全 科

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成24年度	平22 文・日本語日本文	神奈川県立寒川高等学校	専 任	国 語
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	専 任	国 語
	平22 文・日本語日本文	川崎市立宮前平中学校	専 任	国 語
	平23 文・日本語日本文	神奈川県立大和南高等学校	専 任	国 語
	平23 文・日本語日本文	練馬区立南が丘中学校	専 任	国 語
	平24 文・日本語日本文	沼津市立大岡中学校	専 任	国 語
	平24 文・日本語日本文	町田市立小山田中学校	期 限 付	国 語
	平24 文・日本語日本文	君津市立八重原中学校	そ の 他 (指導補助教員)	
	平24 文・日本語日本文	学校法人加藤学園 加藤学園高等学校	非 常 勤	国 語
	平24 文・日本語日本文	新潟県立羽茂高等学校	常 勤	国 語
	平24 文・日本語日本文	長野県蟻ヶ崎高等学校 長野県松本美須々ヶ丘高等学校	非 常 勤	国 語
	平22 文・英語英米文	学校法人豊昭学園 豊島学院高等学校	専 任	英 語
	平23 文・英語英米文	神奈川県立山北高等学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	茨城県立盲学校	常 勤	英 語
	平24 文・英語英米文	神栖市立波崎第三中学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	横浜市立庄戸中学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	学校法人矢野学園 (八王子実践中学・高等学校)	常 勤	英 語
	平24 文・英語英米文	学校法人富田学園 岐阜東中学校・高等学校	常 勤	英 語
	平24 文・英語英米文	茅ヶ崎市立赤羽根中学校	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	専修大学附属高等学校	非 常 勤	英 語
	平23 文・人文	千葉県立朝日ヶ丘中学校	専 任	社 会
	平24 文・人文	菊川市立菊川西中学校	専 任	社 会
	平24 ネットワーク情報・ネットワーク情報	千葉県立袖ヶ浦高等学校	専 任	情 報
	平24 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人玉川学園 玉川学園中・高等部	常 勤	数 学
	平24 院経済・修士	神奈川県立生田高等学校	非 常 勤	公 民
	平22 院経営・修士	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	専 任	情 報
	平24 院文・修士	学校法人早稲田高等学校 早稲田中学校	非 常 勤	社 会
	平24 院文・修士	神奈川県立平塚湘風高等学校	非 常 勤	国 語
平成25年度	平23 経済・経済	青梅市立今井小学校	専 任	図 工
	平24 経済・経済	茂原市立南中学校	非 常 勤	社 会
	平25 経済・経済	千葉県立我孫子東高等学校	専 任	公 民
	平25 経済・経済	須賀川市立西袋第二小学校	臨時的任用	全 科
	平23 法・法律	学校法人武陽学園 (西武台高等学校)	非 常 勤	社会・地理歴史・公民
	平23 法・法律	大田区立徳持小学校	専 任	全 科
	平25 法・法律	相模原市立相陽中学校	非 常 勤	社 会
	平24 法・政治	神奈川県立横浜南養護学校	専 任	社 会
	平23 経営・経営	学校法人日本体育大学 柏日体高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平25 経営・経営	学校法人白樺学園 (白樺学園高等学校)	非 常 勤	商 業
	平25 経営・経営	学校法人田中学園 (水戸葵陵高等学校)	非 常 勤	公 民
	平23 商・マーケティング	北九州市立青葉小学校	専 任	全 科
	平25 商・マーケティング	石川県立宝達高等学校	常 勤	地理歴史・公民
	平25 商・マーケティング	栃木県立高根沢高等学校	常 勤	商 業
	平25 商・マーケティング	茨城県立水戸商業高等学校	常 勤	商 業
	平25 商・マーケティング	長野県阿智高等学校	非 常 勤	情報・商業
	平22 文・日本語日本文	長崎県立国見高等学校	常 勤	国 語
	平24 文・日本語日本文	町田市立小山田中学校	専 任	国 語
	平25 文・日本語日本文	川崎市立末長小学校	指導補助教員	
	平25 文・日本語日本文	学校法人中延学園 (朋優学院高等学校)	非 常 勤	国 語
	平25 文・日本語日本文	富山県立高岡工芸高等学校	非 常 勤	国 語
	平25 文・日本語日本文	静岡市立高松中学校	常 勤	国 語
	平25 文・日本語日本文	能美市立辰口中学校	常 勤	国 語
	平25 文・日本語日本文	神奈川県立愛川高等学校	非 常 勤	国 語
	平25 文・日本語日本文	神奈川県立横須賀大津高等学校	非 常 勤	国 語
	平25 文・日本語日本文	那須町立黒田原中学校	期 限 付	国 語
	平25 文・日本語日本文	学校法人成田山教育財団 (成田高等学校)	非 常 勤	国 語
	平25 文・日本語日本文	長崎県立波佐見高等学校	常 勤	国 語

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成25年度	平25 文・日本語日本文	群馬県立富岡東高等学校	常 勤	国 語
	平19 文・英語英米文	神奈川県立城山高等学校	専 任	英 語
	平20 文・英語英米文	東京都立国際高等学校	専 任	英 語
	平21 文・英語英米文	川口市立仲町中学校	専 任	英 語
	平23 文・英語英米文	品川区立東海中学校	専 任	英 語
	平23 文・英語英米文	新潟県立十日町高等学校	専 任	英 語
	平25 文・英語英米文	横浜市立鶴ヶ峯中学校	専 任	英 語
	平23 文・人文	横浜市立上白根小学校	専 任	全 科
	平24 文・人文	神奈川県教育委員会	専 任	地 理 歴 史
	平25 文・人文	静岡県立長田西中学校	常 勤	社 会
	平25 文・人文	学校法人國學院大學（國學院大学久我山中学・高等学校） 学校法人東洋高等学校（東洋高等学校）	非 常 勤	社会・地理歴史・公民
	平25 文・人文	川崎市立川崎中学校	非 常 勤	社会・特別支援
	平24 文・心理	大田区立馬込第二小学校	専 任	全 科
	平22 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立桶川高等学校	専 任	数 学
	平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人大森学園（大森学園高等学校）	非 常 勤	数 学
	平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報	東京都立東高等学校	非 常 勤	情 報
	平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報	館山市立第二中学校	期 限 付	数 学
	平25 院経営・修士	学校法人立教学院（立教新座中学校・高等学校）	非 常 勤	情 報
	平23 院文・修士	神奈川県立小田原城北工業高等学校	専 任	英 語
	平24 院文・修士	学校法人向上学園（自修館中等教育学校）	常 勤	英 語
	平25 院文・修士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	国 語
	平25 院文・修士	川崎市立南加瀬中学校	非 常 勤	社 会
平成26年度	平26 経済・経済	真岡市立真岡中学校	常 勤	社 会
	平23 法・法律	蕨市立北小学校	専 任	全 科
	平24 法・法律	松田町立松田中学校	専 任	社 会
	平26 法・法律	南伊豆町立南伊豆東中学校	常 勤	社 会
	平24 法・政治	白山市立美川中学校	専 任	社 会
	平24 法・政治	伊勢崎市立あずま小学校	専 任	全 科
	平26 経営・経営	相模原市立相陽中学校	非 常 勤	社 会
	平26 経営・経営	大磯町立大磯中学校	常 勤	社 会
	平26 商・会計	福島県立福島商業高等学校	常 勤	商 業
	平24 文・日本語日本文	横浜市立寺尾中学校	専 任	国 語
	平25 文・日本語日本文	川北町立川北中学校	専 任	国 語
	平25 文・日本語日本文	東庄町立東庄中学校	専 任	国 語
	平25 文・日本語日本文	川崎市立川崎高等学校	非 常 勤	国 語
	平26 文・日本語	学校法人美萩野学園（美萩野女子高等学校）	常 勤	国 語
	平26 文・日本語	学校法人創志学園（クラーク記念国際高等学校）	常 勤	国 語
	平26 文・日本語	茅ヶ崎市立円蔵中学校	常 勤	国 語
	平26 文・日本文学文化	玉名市立伊倉小学校 玉名市立梅林小学校	臨時的任用	理科・算数 全 科
	平26 文・日本文学文化	富士宮市立富士宮第二中学校	非 常 勤	国 語
	平26 文・日本文学文化	岩手県立花泉高等学校	常 勤	国 語
	平26 文・日本文学文化	川崎市立中野島中学校	臨時的任用	国 語
	平26 文・日本文学文化	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	国 語
	平26 文・日本文学文化	学校法人日本大学（日本大学櫻丘高等学校）	非 常 勤	国 語
	平26 文・日本文学文化	学校法人福島成蹊学園（福島成蹊学園中学校・高等学校）	常 勤	国 語
	平22 文・英語英米文	相模原市立相陽中学校	専 任	英 語
	平23 文・英語英米文	伊勢原市立山王中学校	専 任	英 語
	平23 文・英語英米文	南足柄市立南足柄中学校	専 任	英 語
	平23 文・英語英米文	学校法人獨協学園（獨協中学・高等学校）	専 任	英 語
	平24 文・英語英米文	川崎市立中野島小学校	臨時的任用	全 科
	平26 文・英語英米文	学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	非 常 勤	英 語
	平26 文・英語英米文	学校法人郁文館夢学園（郁文館高等学校）	常 勤	英 語
	平26 文・英語英米文	学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	常 勤	英 語
	平26 文・英語英米文	学校法人二松學舎（二松學舎大学附属柏中学校・高等学校）	非 常 勤	英 語
	平26 文・英語英米文	学校法人日本大学（日本大学鶴ヶ丘高等学校）	非 常 勤	英 語

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成 26 年 度	平25 文・人文	学校法人自然学園（自然学園高等学校 神奈川学習センター 栄真学園高等部）	常 勤	地 理 歴 史
	平26 文・哲	埼玉県立本庄特別支援学校	期限付(介護休暇代替)	
	平26 文・歴史	東京都立田柄高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平25 ネットワーク情報・ネットワーク情報	館山市立船形小学校	専 任	全 科
	平26 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人常磐大学（常磐大学高等学校）	専任（期限付）	情 報
	平26 人間科・社会	府中市立府中第六小学校	専 任	全 科
	平26 人間科・社会	相模原市立大沢中学校	専 任	社 会
	平26 人間科・社会	前橋市立箱田中学校	専 任	社 会
	平24 院文・修士	神奈川県立伊志田高等学校	専 任	国 語
平成 27 年 度	平25 院文・修士	川崎市立塚越中学校	専 任	社 会
	平27 経済・経済	学校法人徳心学園（横浜中学・横浜高等学校）	非 常 勤	社 会
	平21 法・法律	武蔵野市立桜野小学校	専 任	全 科
	平25 法・法律	松戸市立第六中学校	専 任	英 語
	平26 法・政治	横浜市立日限山中学校	専 任	社 会
	平27 法・政治	学校法人堀井学園（横浜創英高等学校）	非 常 勤	社会・地理歴史
	平26 経営・経営	学校法人作陽学園（岡山県作陽高等学校）	非 常 勤	情 報
	平27 経営・経営	石川県立輪島高等学校	専 任	公 民
	平27 商・マーケティング	野田市立東部中学校	非 常 勤	社 会
	平27 商・マーケティング	座間市立西中学校	非 常 勤	社 会
	平27 商 マーケティング	岐阜県立各務原西高等学校	常 勤	情 報
	平27 商・マーケティング	長野県諏訪実業高等学校	常 勤	商 業
	平25 文・日本語日本文	川崎市立川中島中学校	専 任	国 語
	平27 文・日本語	川崎市立西高津中学校	臨時的任用	国 語
	平27 文・日本語	愛知県立犬山南高等学校	専 任	国 語
	平27 文・日本語	横浜市立上大岡小学校	専 任	全 科
	平27 文・日本文学文化	内灘町立内灘中学校	専 任	国 語
	平27 文・日本文学文化	横浜市立南高等学校附属中学校	専 任	国 語
	平27 文・日本文学文化	寒川町立旭が丘中学校	専 任	国 語
	平27 文・日本文学文化	静岡県立三島北高等学校	専 任	国 語
	平27 文・日本文学文化	伊那市立高遠中学校	非 常 勤	国 語
	平27 文・日本文学文化	山梨市立山梨南中学校	非 常 勤	国 語
	平24 文・英語英米文	川崎市教育委員会（小学校）	専 任	全 科
	平24 文・英語英米文	静岡県立浜名高等学校	専 任	英 語
	平26 文・英語英米文	神奈川県立厚木北高等学校	専 任	英 語
	平26 文・英語英米文	学校法人日本大学（日本大学鶴ヶ丘高等学校）	専 任	英 語
	平27 文・英語英米文	埼玉県立所沢商業高等学校	期 限 付	英 語
	平27 文・英語英米文	学校法人立花学園（立花学園高等学校）	非 常 勤	英 語
	平27 文・英語英米文	学校法人堀越学園（堀越高等学校）	非 常 勤	英 語
	平27 文・英語英米文	神奈川県立有馬高等学校	専 任	英 語
	平27 文・英語英米文	長野県明科高等学校	常 勤	英 語
	平27 文・英語英米文	神奈川県立菅高等学校	専 任	英 語
	平27 文・歴史	沼津市立今沢中学校	常 勤	社 会
	平27 文・歴史	学校法人星野学園（星野高等学校）	常 勤	地理歴史・公民
	平27 文・歴史	鎌倉市立玉縄中学校	臨時的任用	特 別 支 援
	平27 文・歴史	学校法人盈進学園（東野高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	平27 文・歴史	横浜市立菅田中学校	専 任	社 会
	平26 文・環境地理	茨城県立石岡第二高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平27 文・環境地理	萩市立木間小・中学校 長門市立三隅中学校	非 常 勤	社 会
	平22 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立横浜栄高等学校	専 任	情 報
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	練馬区立上石神井中学校 大泉第二中学校	非 常 勤	数 学
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人拓殖大学（拓殖大学第一高等学校）	非 常 勤	数 学
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立八潮南高等学校	非 常 勤	数 学
	平25 院経営・修士	学校法人鷗友学園（鷗友学園女子高等学校）	専 任	情 報
	平24 院文・修士	学校法人向上学園（自修館中等教育学校）	専 任	英 語

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

勤 務 先	勤 務 先
（株）図書館流通センター	藤沢市総合市民図書館（神奈川県）
日本獣医生命科学大学付属図書館	日本原子力研究所研究情報部情報メディアライブラリー
信州大学附属図書館	長岡市立中央図書館（新潟県）
大和市立図書館	（株）雄松堂書店
武蔵大学図書館	青山学院女子短期大学図書館
東京大学法学部図書館	国士舘大学鶴川図書館
日外アソシエーツ（株）	追手門学院大学附属図書館
見附市立図書館（新潟県）	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
（株）有隣堂	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
女子栄養大学図書館	神奈川県立川崎高等学校
公立はこだて未来大学情報ライブラリー	横須賀市立中央図書館
東京医科大学図書館	（株）三省堂書店
杉並区中央図書館（東京都）	神奈川県立図書館
横浜市立図書館	江東区立亀戸図書館
土木学会附属土木図書館	横浜総合リハビリテーションセンター図書室
専修大学図書館	法政大学多摩図書館
八街市立図書館（千葉県）	

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	勤 務 先
宮城県栗原市役所	逓信総合博物館
行田市郷土博物館	（財）山武都市文化財センター
下妻市ふるさと博物館	（株）乃村工藝社
さいたま市浦和くらしの博物館民家園	調布市郷土博物館
行方市玉造公民館（資料館）	日本民藝館
野田市郷土博物館	東京国際美術館
東京都埋蔵文化財センター	町田市フォトサロン
すみだ郷土文化資料館	栃木県立博物館
群馬県埋蔵文化財調査センター	山梨県立考古博物館
町立湯河原美術館	福井県立歴史博物館
高山市立郷土館	新発田市教育委員会
国際航業株式会社	入間市郷土博物館
鳥羽水族館	静岡市立登呂博物館
秋田県埋蔵文化財センター	松戸市立博物館
埼玉県埋蔵文化財センター	箱根美術館
栃木県埋蔵文化財センター	大牟田市三池カルタ・歴史資料館
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	東京都教育委員会
富岡市立美術博物館 福沢一郎記念美術館	青森県教育委員会
（東京）電力館	高知県教育委員会
MOA美術館	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
九州国立博物館	八街市郷土資料館
高松市歴史資料館	鳥取県教育委員会
臼杵市教育委員会	愛知県大口町歴史民俗資料館
飯田市教育委員会	新潟県教育委員会
佐渡市教育委員会	紅ミュージアム
（公財）メトロ文化財団	埼玉県立さきたま史跡の博物館
米沢市教育委員会	三重県教育委員会
宇都宮市教育委員会	鶴ヶ島市教育委員会
松本市教育委員会	ふじみ野市教育委員会
岡崎市教育委員会	太田市教育委員会

平成27年度 資格課程年間行事表

課 程		教 職 課 程		司 書 課 程		司 書 教 諭 課 程		学 芸 員 課 程	
月		行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次
4月	上 旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）※ 一部3月 履 修 科 目 登 録 お よ び 履 修 修 正（全学年）							
	中 旬	介護等の体験事前オリエンテーション	3・4						
		実習希望校との内諾交渉 介護等の体験事前講習会	3 3・4						
5月	上 旬	教育実習事前ガイダンス 教育実習 （5月～11月）	4 4					館務実習事前ガイダンス 博物館見学実習 博物館実習（館務実習） （5月～11月）	3・4 3・4 3・4
	下 旬								
6月	上 旬	教育実習登録ガイダンス 教育実習内諾書の提出 介護等の体験開始 （6月上旬～3月上旬）	3 3 3・4	図書館実習 事前ガイダンス	3・4	司書教諭修了証書 申請ガイダンス （3年次までに司 書教諭の単位をす べて修得した者）	4		
	下 旬	教員免許状一括申請 ガイダンス	4						
7月	下 旬	前 期 試 験（全 学 年）							
8月		夏期休暇（8月上旬～9月中旬） 前 期 追 試 験（全 学 年）							
				図書館実習 （8月～10月）	3・4				
9月	下 旬	教員免許状授与申請書 確認ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （4年次で司書教 諭の科目を履修し た者）	4	館務実習登録ガイダンス （第1回）	2・3
10月	上 旬	教職公開講座	1～4						
11月	中 旬							館務実習登録ガイダンス （第2回）	2・3
	下 旬	教育学会	1～4					実習希望博物館との内諾交渉	2・3
12月	上 旬			図書館実習 報告会 司書課程就職 （進路）懇談会	1～4				
1月	中 旬	後 期 試 験（全 学 年）							
2月	中 旬	後 期 追 試 験（全 学 年）							
								館務実習承諾書の提出	2・3
3月	22日	教員免許状の交付	4						

平成27年度 教職公開講座開催結果

- 開催日 平成27年10月3日(土)
- 時間 13時00分～17時10分
- 場所 専修大学生田校舎 1号館
- 参加人数 I部：194名 II部：271名
- 内容

(1) 採用試験体験談および優れた教育実践に学ぶ①ー今の教育現場についてー(専大OB・OG)

講師 (卒業年・学部・学科)	勤務先	科目
和知 奈緒佳 先生 (平成24年3月 文学部 日本語日本文学科 卒業)	横浜市立寺尾中学校	国語
林 祐希 先生 (平成23年3月 文学部 英語英米文学科 卒業)	新潟県立高田農業高等学校	英語
清水 耕太郎 先生 (平成27年3月 文学部 歴史学科 卒業)	横浜市立菅田中学校	社会
村 館 公大 先生 (平成26年3月 文学部 環境地理学科 卒業)	茨城県立石岡第二高等学校	地理歴史・公民
進 士 勇介 先生 (平成22年3月 商学研究科 商学専攻 修了)	新名学園 旭丘高等学校	商業
山 田 恭弘 先生 (平成23年3月 ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科 卒業)	神奈川県立鶴見総合高等学校	情報
(平成23年3月 経済学部 経済学科 卒業)	小学校	小学校

(2) 優れた教育実践に学ぶ②ー求められる教師像ー

講師	横浜市教育委員会事務局 教職員人事課人事主事 千本 恵子 先生
----	------------------------------------

(3) タイムテーブル

	時間	内容	場所
I部 13:00)	13:00～13:05	講師の紹介	該当教室
	13:05～13:25 (20分)	採用試験体験談① 国語 和知 奈緒佳 先生 社会 清水 耕太郎 先生 商業 進士 勇介 先生 小学校	124教室 117教室 121教室 122教室
	13:35～13:55 (20分)	採用試験体験談② 英語 林 祐希 先生 地理歴史・公民 村 館 公大 先生 情報・数学 山 田 恭弘 先生 小学校	124教室 117教室 121教室 122教室
	13:55		
II部 14:00)	14:00～14:15	オリエンテーション	114教室
	14:15～14:55 (40分)	優れた教育実践に学ぶ① ー今の教育現場についてー 国語 和知 奈緒佳 先生 英語 林 祐希 先生 社会 清水 耕太郎 先生 地理歴史・公民 村 館 公大 先生 商業 進士 勇介 先生 情報・数学 山 田 恭弘 先生 小学校	121教室 117教室 125教室 124教室 122教室 123教室
	14:55～15:05	質問用紙の提出	該当教室
	15:05～15:35 (30分)	ー現職教員とのディスカッションー 国語 和知 奈緒佳 先生 英語 林 祐希 先生 社会 清水 耕太郎 先生 地理歴史・公民 村 館 公大 先生 商業 進士 勇介 先生 情報・数学 山 田 恭弘 先生 小学校	121教室 117教室 125教室 124教室 122教室 123教室
	15:35～15:50	休憩	
	15:50～16:50 (60分)	優れた教育実践に学ぶ② ー求められる教師像ー 横浜市教育委員会 教職員人事課人事主事 千本 恵子 先生	114教室
	16:50～17:10	まとめ	

平成27年度 司書課程就職（進路）懇談会開催結果

1. 開催日：平成27年12月12日（土）
2. 時間：15:00～16:30
3. 場所：専修大学神田校舎 203 教室（2号館）
4. ゲスト：松見香織さん（本学文学部卒業生）
5. 参加者数：16名
6. 内容：株式会社図書館流通センター（TRC）のサポート事業推進室で働く松見さんに、TRCの概要、ご自身の担当する業務内容、就職活動へ向けての準備や心構えなどについて講演していただいた。参加者からは、公務員（司書職）試験と民間企業の就職活動の両立は可能かなどの質問が出され、松見さんの経験にもとづいて丁寧に回答していただいた。なお、松見さんには、今回の号の「司書課程」のページに原稿を執筆していただいた。あわせて読んでほしい。



司書課程就職（進路）懇談会

平成27年度 司書課程図書館実習報告会開催結果

1. 開催日：平成27年12月12日（土）
2. 時間：13:00～15:00
3. 場所：専修大学神田校舎 203 教室（2号館）
4. 参加者数：16名
5. 内容：今年度、千代田区立千代田図書館、足立区立中央図書館、座間市立図書館、神奈川学園中学校・高等学校図書館の各館で図書館実習を経験した4名の学生に、実習館の概要、実習で経験した業務の概要、今後に向けての自身の展望などについて報告してもらった。また、小田原市立かもめ図書館、玉名市民図書館、本学図書館で実習を経験した学生3名は、当日、授業などの都合で参加できなかったが、レポートを事前に提出してもらい、それを参加者に配布して報告に代えた。報告ののち、実習生と参加者との盛んな質疑のやり取りがあり、充実した2時間となった。



図書館実習報告会

平成27年度 資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	教 授	矢吹 芳洋	公民科教育研究 1・2
経済学部	講 師	角田真紀子	教育相談の理論と方法
法 学 部	教 授	鈴木 秀光	法律学 a・b
法 学 部	准 教 授	森田 司郎	道德教育指導論
経営学部	教 授	嶺井 正也	教育原論
商 学 部	教 授	蔭山 雅博	地理歴史科教育研究 1・2
商 学 部	教 授	中野 育男	商業科教育研究 1・2
文 学 部	教 授	江崎 雄治	地理学 a・b
文 学 部	教 授	大谷 正	日本史 a・b
文 学 部	教 授	大庭 健	倫理学 a・b
文 学 部	教 授	片桐 一彦	英語科教育研究 1・2
文 学 部	教 授	鐘ヶ江晴彦	教育社会学
文 学 部	教 授	苅谷 愛彦	自然地理学概論 a
文 学 部	教 授	小峰 直史	教職入門
文 学 部	教 授	高岡 貞夫	地誌学 a・b
文 学 部	教 授	高橋 龍夫	国語科教育研究 1・2
文 学 部	教 授	田邊 祐司	英語科教育研究 3・4
文 学 部	教 授	仲川 恭司	書道科教育研究 1・2
文 学 部	教 授	貫 成人	哲学 b
文 学 部	教 授	廣瀬 玲子	中国文学講義 a・b
文 学 部	教 授	松尾 容孝	人文地理学概論 a
文 学 部	准 教 授	赤坂 郁美	自然地理学概論 b
文 学 部	特任教授	神山 安弘	教職実践演習
ネットワーク情報学部	教 授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク情報学部	准 教 授	望月 俊男	情報科教育研究 1
人間科学部	助 教	服部あさこ	教育社会学
経済学部	兼任講師	崔 玉芬	心身の発達と学習の過程
経済学部	兼任講師	種藤 博	社会科教育研究 3・4
経済学部	兼任講師	増田 純一	社会科教育研究 1・2
法 学 部	兼任講師	荒井 明夫	教育課程論
法 学 部	兼任講師	金ヒョン淑	教育課程論
法 学 部	兼任講師	高田 貫太	日本史 a・b
法 学 部	兼任講師	中村 文夫	教育行政学
法 学 部	兼任講師	松村 芳明	法律学 a・b
法 学 部	兼任講師	宮崎 孝治	教育原論
経営学部	兼任講師	大和田雄一	教育原論
経営学部	兼任講師	菊地かおり	道德教育指導論
商 学 部	兼任講師	泉 貴久	地理学 a・b
商 学 部	兼任講師	齋藤 博志	社会科教育研究 1・2
商 学 部	兼任講師	高崎 彰	生徒・進路指導論
商 学 部	兼任講師	藤本 一美	地理学 a・b
商 学 部	兼任講師	前川 明彦	人文地理学概論 a・b
商 学 部	兼任講師	松岡 路秀	社会科教育研究 1・2
商 学 部	兼任講師	山本 馨	教職入門
文 学 部	兼任講師	岡 秀一	地誌学 a・b
文 学 部	兼任講師	小泉 秀人	外国史 a・b

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
文 学 部	兼任講師	小長野航太	倫理学 a・b
文 学 部	兼任講師	小林 克則	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	角田 清美	地誌学 a・b
文 学 部	兼任講師	田口 博子	宗教学 a・b
文 学 部	兼任講師	田中 禎昭	日本史 a・b
文 学 部	兼任講師	富永 裕子	英語科教育研究 1・2
文 学 部	兼任講師	根本 欣哉	国語科教育研究 3・4
文 学 部	兼任講師	正野 泰周	倫理学 a・b
文 学 部	兼任講師	三ツ野陽介	哲学 a
文 学 部	兼任講師	村松 弘一	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	山下 直	国語科教育研究 1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	飯塚 久男	教育方法論
ネットワーク情報学部	兼任講師	大木 博	情報と職業
ネットワーク情報学部	兼任講師	大塚慎太郎	数学科教育研究 1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	北澤 武	教育実習 1・3
ネットワーク情報学部	兼任講師	脇本 健弘	情報科教育研究 2

《司書・司書教諭》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	大曾根 匡	図書館情報技術論
文 学 部	教 授	野口 武悟	図書館概論
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	斎藤憲一郎	情報メディアの活用
経営学部	兼任講師	中山美由紀	学校経営と学校図書館
経営学部	兼任講師	廣澤 敏夫	図書館情報技術論
経営学部	兼任講師	渡辺 暢恵	学習指導と学校図書館
文 学 部	兼任講師	石原 眞理	図書館サービス概論
文 学 部	兼任講師	太田 順子	図書館情報資源特論
文 学 部	兼任講師	汐崎 順子	図書館サービス特論
文 学 部	兼任講師	須賀 千絵	図書館制度・経営論
文 学 部	兼任講師	千代原真智子	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	中川 恭一	図書館制度・経営論
文 学 部	兼任講師	中島 玲子	情報サービス演習 2
文 学 部	兼任講師	成松 一郎	図書館サービス特論
文 学 部	兼任講師	長谷川昭子	図書館サービス概論
ネットワーク情報学部	兼任講師	榎本裕希子	情報資源組織論
ネットワーク情報学部	兼任講師	気谷 陽子	情報資源組織論
ネットワーク情報学部	兼任講師	竹村 和子	学校図書館メディアの構成
ネットワーク情報学部	兼任講師	日向 良和	情報サービス演習 1

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	内田 欽三	博物館概論
文 学 部	准 教 授	高島 裕之	博物館実習
法 学 部	兼任講師	水上 和則	博物館情報・メディア論
経営学部	兼任講師	小瀬戸恵美	博物館資料保存論

編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

今回も無事に『パッソ ア パッソ』第18号をお届けることができたこと、寄稿していただいた方々と編集作業に携わっていただいた教職員に、まず御礼を申し上げます。

構成・内容は、ほぼ前号と変わりません。

しかし、長いこと教職課程で兼任講師として、さらにまた教職相談員として学生指導をしていただいた岩田公夫先生からの教職志望者へのメッセージを書いてもらっていることが特徴になっています。また、引き続き兼任講師として資格課程の授業を担当していただいている先生方の玉稿も増えています。いわゆる『年報』としての内容の充実に向かいつつあるといえるかも知れません。

とはいえ、この3月でご定年を迎えられた「書道科教育研究」ご担当の仲川恭司教授の寄稿をいただけなかったことは残念でした。国内外でご活躍され、教職課程で長らく指導された先生にこの場を借りて御礼申し上げます（先生のご活躍の様子は本誌第12号をご覧ください）。

掲載された皆さんの文章を読みながら、本誌名である「パッソ ア パッソ」がいかに大事かということが理解できました。表紙裏にその意味が書いてありますが、このイタリア語は日本語では「一歩ずつ」になります。なかなか入り口の狭い教員、司書、学芸員といった職を得ることも、そして、実際に職に就いたあとも、「パッソ ア パッソ」こそが充実した仕事をしていくことにもつながるはずです。

もちろん、寄り道や飛躍、ハプニングもあるし、それらが必要な場合もあるでしょう。でも、それが有効に働くには土台に「パッソ ア パッソ」があるからだとも私たちは信じています。

編集委員長

嶺井 正也

編集委員

蔭山 雅博

角田真紀子

野口 武悟

高島 裕之

平成27年度 専修大学

資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 平成28年3月31日

編集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-7163

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

URL http://www.senshu-u.ac.jp/sc_grsc/shikaku/

印刷 有限会社米田印刷

〒140-0002 東京都品川区東品川1-21-4

TEL 03-3474-9791



専修大学